

LICENSE MATE

ライセンスメイト

ありがとう台湾

世界一の親日国に感謝

日台の生命の絆



中華民國外交部(亞東關係協會)への表敬訪問

中華民國外交部は外務省に相当し、亞東關係協會は中華民國(台湾)の対日窓口であり、台北駐日經濟文化代表處の台北本部です。日本と国交がないため形式的には非政府機関ですが実質的には中華民國外交部の所管であり、「代表處」は事実上の大使館、「辦事處」は領事館なのです。

発行所 株式会社 日本教育開発

報告集(ライセンスメイト)について

私たちは、ひとりでも多くの国民の皆様にも「日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」を知っていただこうと、団員の皆様の感想文を主体にした報告集として、この季刊誌(第3種郵便物認可)を活用し今日に至っています。それは発送費が助かるからです。(発行所/株式会社日本教育開発)

- ◎この本は訪台時にご接待された台湾の皆様にも御礼として贈呈しますので、恥ずかしくない装丁でないといけません。中華民国政府(外交部)にも献本できる資質が求められる所以です。
- ◎国内に目を転じれば、団員の皆様がお縁のある方に配付される時、誇りに思えるものでなければなりません。直近の出来事のみならず、この事業の沿革が一目で理解していただけるものでなくてはなりません。
- ◎読んでみたい雰囲気を漂わすだけでなく内容もしっかりしないとけません。デザイナーの人にも頑張ってもらい、様々な年代、職業、立場、地域の皆様に、すなわち時代に受け入れてもらえるよう工夫と研究を重ねてきたのは、そういう理由からでした。
- ◎英霊の皆様から本当に喜んでもらえるような誌面作り、大東亜戦争に志願し散華された英雄の皆様が、世界史的大事業に参画できた感動を時空を超えて現代の私たち日本人に語りかけることができる媒体、戦死者にあたたかくぬくもりのある刊行物、以上のような報告集作りを目指してきた16年でした。
- ◎結成以来、台湾でご縁の出来た方と訪問団に参加実績のある方を合わせますと優に1,000名になりますので、発行部数もそれだけ必要です。
- ◎刷っただけでは読んでいただけません。よって宅配や郵送、相手先が台湾なら航空便も必要です。
- ◎総じてこれら一切の経費を訪問団員の皆様が均等に負担していただいたからこそ、第16次に至るまでこの事業を継続してこれたのだと思います。(原稿料、執筆料は全てボランティアでお願いしてきました。)
- ◎「公的支援のない公的事業」は団員の皆様をはじめとする民間の熱きご支援なしには一日も立ちゆきません。

この雑誌を作ることは英霊への供養の一環でありますし、紙面をご覧いただくことは、現代に生きる私たちが戦没者の皆様と時間と空間と志(こころざし)を共有できる数少ない機会のひとつだと思います。

ご理解のほど、よろしく願いいたします。

LICENSE MATE

特集 台湾慰霊訪問団

- 1 報告集(ライセンスメイト)について
- 2 高雄市の爆発事故復興支援義捐金と芳名簿を手渡し
- 3 「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて
- 5 台湾訪問の目的
- 9 日清講和条約締結120年
- 10 日台の家族(兄弟)交流のあゆみ
- 13 団長あいさつ
- 15 祭文/台湾訪問の旅 訪台者一覧
- 17 一目でわかる訪問先・交歓先
- 19 訪問先・交歓先一覧(第1次～第16次)
- 23 台湾訪問の旅 帰朝報告
- 26 台湾訪問の旅 紀行文集(抄)
- 44 ありがとう(義捐金)
- 45 追悼の辞
- 47 臺灣の聲 — ありがとう日本
- 49 第17次台湾慰霊訪問の旅・参加者募集のお知らせ
- 50 知られざる「神蹟の遺跡」
- 51 中華民国外交部・台日文化経済協會・高雄市政府(市役所)表敬訪問
- 53 結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会
- 55 台湾特別講演会



皆様からの義捐金と芳名簿を李副市长へ



李副市长と張局長を囲んで

高雄市の爆発事故復興支援義捐金と芳名簿を手渡し

平成25年7月31日深夜から8月1日未明にかけて高雄市の市街地で道路下に敷設された石油化学工場のパイプラインが爆発、死者26人、負傷者256人という大惨事が発生しました。

高雄市は慰霊訪問団にとって大変重要な地です。①許國雄先生との出会いにより団長が慰霊訪問の旅を決意した地であり、②日本海軍の軍艦と艦長を御神体とする保安堂が台湾海峡のシーレーンを

守っている地であり、③慰霊訪問団の台湾支部誕生の地でもあります。いわば私たちにとっては第二の故郷です。よってこの度、郷里である被災地の復興、再建等の支援のため広く義捐金の募集を呼びかけました。

昨年11月24日(月)には高雄市旗津区の謝水福区長と保安堂の趙麗恵さんにも同行していただき、高雄市政府を表敬訪問しました。陳菊市長は5日後に統一地方選

挙を控えられておりご多忙でお会いできませんでしたが、李永得副市长ならびに張乃千社會局局長にお会いしました。会見では、小菅団長がパイプライン爆発事故のお見舞いの言葉を申し上げ、皆様方からお預かりいたしました爆発事故復興義捐金(699,000円、台湾元3,000元)ならびにご協力戴きました皆様方の芳名簿122名(4団体含む)を直接お渡しすることができました。



「台湾慰霊訪問団特集」に寄せて

台北駐福岡経済文化辦事處

處長 ^{えびす} 戎 ^{よし} 義 ^{とし} 俊

——1931年、日本統治時代の台湾から甲子園に出場し、決勝まで勝ち進んだ伝統のチームがある。嘉義農林学校野球部。KANO。それまで1勝もしたことのなかった弱小チームが甲子園を目指し、大人たちや他校の嘲笑をよそに予選で快進撃を始める。その陰には、かつて名門・松山商業を監督として率いた近藤兵太郎（永瀬正敏）の特訓があった。守備に長けた日本人、打撃力のある台湾人（漢人）【※注1】、俊足の台湾原住民【※注2】。それぞれの強みを生かし、分け隔てない指導で育てられた彼らは、ついに甲子園への切符を手にする。

多感な少年時代の叶わぬ恋、夢半ばに去る卒業生、厳しい生活に野球を続けることを悩む者一。様々な思いを背負い、彼らは海を越える。無名の嘉義農林は甲子園でも強豪を破り勝ち進んだ。そのひたむきなプレーは、やがて多くの観客の共感を呼び起こす。迎えた決勝戦。一球たりともあきらめない渾身の姿にスタンドから熱い声援が拡がる。「天下の嘉農、天下の嘉農」。皆が、心からのエールを送りながら、一球一球に固唾をのみ、試合の行方を見守っていた一。

【※注1】中国大陸から移住した漢民族の子孫

【※注2】台湾の先住民族の正式な呼称

～「KANO」リーフレットより～

映画「KANO」が台湾で大ヒットしました。映画に描かれているのは「日本精神」と「大和魂」であり、組織力、チームワーク、勇気、責任感、あきらめない、そして仲間を信じることなど日本が大事にしてきた価値観です。その価値観は確かに台湾に伝わっており、日本もそれを絶対に忘れないで欲しいと願います。この「日本精神」を失わない限り、日本は世界のリーダーとして発展していくことができると私は信じています。

「KANO」を通じて映画監督が日本人に伝えたいのは、台湾というところはいろんなエスニック(民族)が集まって出来ている社会であるということです。かつて多くの日本人が台湾に住み、共に同じ時代を生きていたということです。日本統治時代の台湾には良いことも悪いこともたくさんあり、日本人と台湾人の衝突もありました。しかし歴史的に見てもわれわれの提携は見事に成功したのではないのでしょうか。いま振り返ってみてもそれは素晴らしいことであり、甲子園を目指した嘉農の球児たちはその象徴だといえるでしょう。

台湾で最も愛される日本人の一人、八田與一も映画「KANO」に登

場しています。台湾にダムと灌漑用水路を建設し、当時は不毛の土地であった嘉南平原を台湾一の穀倉地帯に変えた八田は、台湾にとって恩人ともいえる人物です。彼が手がけた烏山頭ダム(1930年完成)は当時世界最大であり、このダムに加えて、八田は嘉南平原に“蜘蛛の巣”のように張り巡らせた約1万6000kmの水路工事を行いました。地球の全長が約4万kmであることを考えれば、工事の規模が想像出来るでしょう。日常生活用水にも困り苦しんでいた嘉南平原に住む台湾農民60万人は八田がつくった新しい水路から水が流れてきたとき「神の水が来た」と言って涙を流したそうです。台湾人が好んで用いる言葉に「日本精神(リッピンチェンシン)」があります。これは日本統治時代に台湾人が学び、日本の敗戦によって大陸から来た中国人が持ち合わせない精神として、台湾人が自ら誇りとしたものです。八田與一こそ、こうした「日本精神」を代表する人物だったと思われる。

台湾では映画のエンディングマークが出ると、配役、制作関係者、協力者の名がスクリーンに映っている最中でも、観客はどんどん帰ってしま

うのが普通ですが「KANO」に限って「終」と同時に場内から拍手が起こり、主題歌が終わるまで誰も席を立つことはありませんでした。3民族が協力して近藤監督のもと必死のプレーを見せる、特に甲子園にきて決勝進出まで3連投、決勝の対中京商業戦では右手人さし指の爪が割れ血染めのボールを投げ続ける呉投手と、それを励ます監督とチームメートの姿に台湾の若い層は感動のあまり涙を流し、目をぬぐいながら映画館を出てくるありさまだったので。球児たちの不屈の精神に学ぶところがあつたのではないのでしょうか。

中華民国台湾と日本両国が共通して持っている「日本精神」こそが日台両国の目に見えない強い絆であるといえましょう。これからもお互いに切磋琢磨し、両国の友好交流関係が一層密になることを願ってやみません。

結びとなりますが、日華(台)親善友好慰霊訪問団のますますのご発展と、小菅団長はじめ団員の皆様のもうますますのご健勝とご多幸を祈念しまして、私の挨拶とさせていただきます。



「大東亜戦争で散華された 台湾人同胞3万3千余柱の 英霊顕彰と慰霊祭参列」

- 11月22日(土) 烏來／高砂義勇隊戦没英霊記念碑(写真①②)
- 11月23日(日) 台南／八田與一ご夫妻墓所(「殉工碑」含む)(写真③④)
屏東／東龍宮(写真⑤⑥)
- 11月24日(月) 高雄／保安堂(写真⑦⑧)
台南／飛虎將軍廟(写真⑨⑩)
嘉義／富安宮(写真⑪)
- 11月25日(火) 台中／宝覺寺(写真⑫⑬)
イ.日本人墓地(日本人遺骨安置所) ロ.英魂観音亭と「靈安故郷」
の慰霊碑
新竹／濟化宮(写真⑭)
- 11月26日(水) 士林／芝山公園(写真⑮⑯)
イ.六士先生墓所 ロ.学務官僚遭難之碑



①



②



③



④



⑤



⑥



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



「領台時代の魂を継承する 現地台湾人との家族交流・兄弟交流」

- 11月22日(土) 台北／黄文雄先生による歓迎の夕食会／紫都(写真①②)
- 11月23日(日) 高雄／黄明山・葉美麗ご夫妻による招待夕食会／
海慶澎湖海産(写真③④⑤)
- 11月24日(月) 高雄／高雄市政府(陳菊市長)表敬訪問(写真⑥⑦⑧)
台中／台湾台日海交會(簡朝陽會長)主催の懇親会／
香蕉新樂園餐廳(写真⑨⑩)
- 11月25日(火) 台中／台湾中日海交協會(林政徳會長)主催の懇親会／
大北京餐廳(写真⑪⑫)
台北／台日文化經濟協會(黄天麟會長)主催の懇親会／
逸鄉園(写真⑬⑭)
- 11月26日(水) 台北／中華民國外交部(郭仲熙副司長)表敬訪問(写真⑮⑯)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭



⑮



⑯

日清講和条約締結120年

『第一条 清国ハ朝鮮ノ、完全無欠ナル独立自主ノ国タルコトヲ確認ス。因テ右独立自主ヲ損害スベキ、朝鮮国ヨリ清国ニ対スル貢献、典礼等ハ、将来全ク之ヲ廃止スベシ。

第二条 清国ハ左記ノ土地ノ主権並ニ該地方ニ在ル城壘、兵器製造所及官有物ヲ、永遠日本國ニ割與ス。

- 一、 左ノ経界内ニ在ル奉天省南部ノ地。 (遼東半島のこと)
- 二、 台湾全島及其ノ附属諸島嶼。
- 三、 澎湖列島。

第三条 (略)

第四条 清国ハ軍費賠償金トシテ、庫平銀二億兩 (日本金にして三億一千万円) ヲ日本國ニ支払フベキコトヲ約ス』 (「日清講和条約」より)

これは明治28年4月に山口県下関の春帆樓で締結された日清講和条約(下関条約)の一節です。

台湾の皆様が私達・日本人になりましたのは今を遡ること120年前の明治28年4月17日のことでした。日清戦争に敗れた当時の宗主国・清は「鳥もさえずらない、木々には花も咲かない」といってこの台湾を「化外の地」と切り捨て、わが国・日本に永久に割譲したのであります。

爾来、日台両民族の渾身の努力により、わが国でも有数の豊かで慈愛溢れる地となった台湾は、欧米諸国の羨望の的となり、支那大陸における満州国と同様に、国家建設のお手本とされるまでになりました。

しかるに、昭和16年12月8日未明の大東亜戦争勃発により台湾の運命は大きく変わりました。今、英霊として眠っておられる皆様は、南海の島々や熱帯の密林においては欧米白人種と、また支那大陸においては蒋介石率いる重慶政権や毛沢

東の共産匪賊と生死を賭けて戦った同胞でした。とりわけ700倍ともいわれる難関を突破し、血書歎願をしてまで志願してこられた皆様は、日本人以上の日本人として歴史に残る勇猛果敢さを発揮され、敵を圧倒し悩ませたのであります。

国家・国民の総力を挙げた3年と9ヶ月にわたる戦いにより、わが国は国家の尊厳と民族の名誉を死守し、大東亜解放の壮図を成し遂げました。とまれ、わが国が軍事的敗北を余儀なくされたとはいえ、400年以上に及ぶ欧米列強の植民地支配に終止符をうち、アジアにおける全ての権益を失わせしめたのは紛れもない世界的事実であります。

これを偉業といわずして一体何と呼べばいいのでしょうか。わが国の国民として東洋平和のために共に血と汗を流した者同士の兄弟感・一体感はかくして形成されたのであります。その後、支那大陸での国共内戦に敗れた蒋介石率いる亡命政権(国民党)が台湾に逃れてきました。

過酷な圧政に苦しみながらも日本精神を胸に秘め、日本人としての誇りを断固守り抜いてきた台湾。九州より一寸小さい面積の島国に、九州の倍近い人口を擁し、駐留米軍を一兵卒も置かず、自らの力で国土を護持してきた台湾。国民皆兵を堅持し、大陸支那の共産党独裁政権と互角にわたりあつてきた台湾。そして民主的で東洋一豊かで情のある国を作ろうと勤勉に努力している台湾。かくなる台湾は日本統治時代に築かれた「均衡の取れた情熱溢れる国づくり、人づくり、物づくりの精神」と「公心を大切にす伝統」なくしては語り得ません。

私たちは、このような台湾の現状に真摯に向き合うと同時に、全島各地で今なお祀られて顕彰されているわが国の軍人・軍属の英霊、ならびに大東亜解放の偉業に日本軍と共に殉じ散華された台湾人元日本兵軍人軍属の英霊に追悼の誠を献げんと開始したのが慰霊訪問の旅なのです。

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

平成11年	3月 6日	第1次訪問旅行(3.6~3.9、23名) ※「結団式・解団式」含む...1
	5月 15日	ライセンスメイトにて連載開始...2
	11月 25日	慰霊祭参加(台中・宝覺寺、11.24~11.26、2名)...3
平成12年	11月 23日	第2次訪問旅行(11.23~11.26、17名) ※「結団式・解団式」含む...4
平成13年	5月 28日	読売新聞に一面広告掲載...5
	6月 5日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...6
	10月 13日	第3次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店60名)...7
	11月 8日	二の丸会全国農業土木技術連盟九州業界連盟研修会 「世界一の親日国・台湾の話」講話:小菅玄三郎 随行: 古川(ホテル南風樓)...8
	11月 23日	第3次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...9
	12月 22日	第3次訪問団結団式・報告会(平和樓本店50名)...10
平成14年	4月 1日	訪問団ホームページ開設...11
	4月 26日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...12
	6月 8日	許國雄先生告別式参列(高雄・徳生長老教会、6.7~ 6.9、1名)...13
	9月 10日	産経新聞に見開き広告掲載...14
	10月 21日	全国の学校(8,443校)にパンフレットを郵送し、台湾 への修学旅行先選定を呼びかける ※全国の高等学校5,054校、県内の保育園から大学ま で3,389校...15
	11月 2日	第4次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店73名)...16
	11月 6日	台湾中日外交協会(胡順来会長以下16名)歓迎晩餐会 (台湾18名)...17
平成15年	11月 23日	第4次訪問旅行(11.23~11.26、38名)...18
	1月 24日	第4次訪問団結団式・報告会(平和樓本店48名)...19
	4月 26日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1 名)...20
	6月 6日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...21
	6月 7日	第1回台湾特別講演会・懇親会(アーバン・オフィス天 神・講演会134名/懇親会36名) 山口秀範先生(国民文化研究会事務局長)「台湾に根づ く日本精神—六士先生を中心に」...22
	8月 6日	福岡市中央倫理法人会 例会「海の彼方のニッポンを 訪ねて」卓話:小菅玄三郎 随行:古川(KKRホテル博 多)...23
	11月 8日	第5次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店56名)...24
平成16年	11月 23日	第5次訪問旅行(11.23~11.26、23名)...25
	1月 24日	第5次訪問団結団式・報告会(平和樓本店35名)...26
	2月 22日	第1回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、2.22~ 3.28、6回)...27
	4月 29日	台中市日本文化協會(鍾子桓氏以下3名)来訪...28
	5月 23日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣1 名)...29
	6月 5日	第2回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オ フィス天神83名/懇親会 花万葉54名) 張國興先生(久留米大学法学部教授)「台湾の現状—総 統選挙を中心に」...30
	6月 9日	福岡日華親善協会 定時総会参加(平和樓本店1名)... 31
	6月 20日	沈・呉ご夫妻来訪...32
	9月 9日	台湾福祉実習団(陳徹氏以下8名)来訪...33
	11月 12日	福岡日華親善協会孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(平和樓本店1名)...34
	11月 22日	第6次訪問団結団式・壮行会(アーバン・オフィス天神6 名)...35
	11月 23日	第6次訪問旅行(11.23~11.26、8名)...36
	12月 26日	第2回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、12.26 ~H.17.1.2、2回)...37
平成17年	1月 3日	第1回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...38
	1月 22日	第6次訪問団結団式・報告会(平和樓本店30名)...39
	6月 4日	第3回台湾特別講演会・懇親会(講演会 テララホー ル100名/懇親会 チャタムダイニング70名) 黄文雄先生(文史家)「反日教育を煽る中国の大罪— 中国が反日・仇日に転じた本当の理由」...40
	6月 10日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...41
	10月 22日	第7次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店51名)...42
	11月 5日	何・陳ご夫妻歓迎晩餐会(平和樓本店16名)...43
	11月 14日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(八仙閣15名)...44
	11月 23日	第7次訪問旅行(11.23~11.26、20名)...45
	12月 11日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店1 名)...46
平成18年	1月 3日	第2回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...47
平成18年	1月 8日	第3回台湾シリーズ放送(FM-MiMi日曜討論、1.8、1 回)...48
	1月 28日	第7次訪問団結団式・報告会(テララホール38名) ※「森晴治顧問を偲ぶ会」兼ねる...49
	3月 22日	福岡ライオンズクラブ 例会「今、日本がおかしい〜現 代に生きる教育勸語・軍人勸語」卓話:小菅玄三郎 随 行:川添(ホテル日航福岡)...50
	5月 14日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)... 51
	5月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...52
	6月 3日	第4回台湾特別講演会・懇親会(講演会 アーバン・オ フィス天神 156名/懇親会 テララホール67名) 黄文雄先生(文史家)「台湾・中国が衝突する日—こ れからの台・中・日・米関係の徹底分析」...53
	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...54
	10月 1日	第4回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、特別篇第 5弾、10.1、1回)...55
	10月 21日	旅程説明会(アーバン・オフィス天神26名) 第8次訪問団結団式・壮行会(テララホール70名)... 56
	11月 13日	福岡日華親善協会 孫中山先生並びに蒋介石先生生誕 記念祝宴参加(八仙閣1名)...57
	11月 20日	役員・班長会(アーバン・オフィス天神6名)...58
	11月 23日	第8次訪問旅行(11.23~11.26、35名)...59
平成19年	1月 3日	第3回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...60
	1月 7日	第5回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、1.7、1 回)...61
	1月 27日	第8次訪問団結団式・報告会(平和樓本店68名)...62
	3月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...63
	5月 20日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣2 名)...64
	6月 2日	第5回台湾特別講演会・懇親会(講演会 エルガーラ ホール 218名/懇親会 てら岡53名) 黄文雄先生(文史家)「増大する覇権主義中国の軍事 的脅威—日台はいかに対応すべきか?」...65
	6月 13日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣2名)...66
	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ10名)...67
	10月 18日	REPの会例会「海の彼方のニッポンを訪ねて」 卓話:小菅玄三郎 随行:林・吉村(パソナサロン)... 68
	10月 27日	旅程説明会(平和樓本店19名) 第9次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店49名)...69
	11月 23日	第9次訪問旅行(11.23~11.26、25名)...70
	12月 22日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店3 名)...71
平成20年	1月 3日	第4回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...72
	1月 25日	九州建設機械器具リース業協会賀詞交歓会「海の彼方 のニッポンを訪ねて」 講話:小菅玄三郎 随行:黄(八仙閣)...73
	1月 26日	第9次訪問団結団式・報告会(平和樓本店51名)...74
	3月 9日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.9~ 4.13、6回)...75
	3月 15日	ライセンスメイト『台湾慰霊訪問団特集』発行...76
	6月 1日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会(八仙閣1名)... 77
	6月 8日	第6回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会123名/懇親会63名) 黄文雄先生(文史家)「日本人の道と精神(こころ)」 清水馨八郎先生(千葉大学名誉教授)「日本文化の本質 を知ろう—新「教育勸語」のすすめ」...78
	6月 17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(全日空ホテル1 名)...79
	9月 3日	台北駐福岡経済文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会 (平和樓本店7名)...80
	10月 9日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...81
	10月 25日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第10次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店48名) ※「東京支部・台湾支部設立」兼ねる...82
	11月 22日	第10次訪問旅行(11.22~11.26、31名)... 83 (A班11.22~26 19名、B班11.23~26、12名)...
	12月 14日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2 名)...84

平成21年	1月 3日	第5回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄ランドホテル4名)...85
	1月 24日	第10次訪問団結式・報告会(平和樓本店64名)...86
	2月 22日	第6回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、2.22～3.29、6回)...87
	3月 9日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長主催懇親会(平和樓本店8名)...88
	3月 15日	ライセンスメイト『台湾慰靈訪問団特集』発行...89
	5月 24日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店3名)...90
	6月 6日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉10名)...91
	6月 7日	第7回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会170名／懇親会69名) 黄文雄先生(文明史家)「台湾と日米中の現在と未来－台湾と中国の最終戦争は避けられるのか？」柳原憲一先生(西日本台湾学友会会長)「江見政治と竹東大圳－今、甦る台湾水力発電の父」...92
	8月 14日	産経新聞で「FNHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...93
	9月 7日	李登輝元総統お出迎え(福岡空港43名)...94
	9月 10日	李登輝元総統お見送り(福岡空港26名)...95
	9月 30日	産経新聞で第2回目の「FNHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...96
10月 31日	産経新聞で第3回目の「FNHKは台湾人に謝罪を！」意見広告掲載...97	
11月 1日	旅程説明会(平和樓本店20名) 第11次訪問団結式・壮行会(平和樓本店56名)...98	
11月 21日	産経新聞で「台湾の国連専門機関参加」支援広告掲載...99	
11月 22日	第11次訪問旅行(11.22～11.26、30名)...100	
11月 29日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(八仙閣3名)...101	
12月 20日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...102	
平成22年	1月 3日	第6回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄ランドホテル4名)...103
	1月 3日	第8回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、年末年始篇第9弾、1.3、1回)...104
	1月 23日	第11次訪問団結式・報告会(平和樓本店61名)...105
	1月 30日	日本会議福岡中央支部 新春祝賀会「日台の交流－11年の活動を振り返って」 講話：小菅亥三郎 随行：黄・五郎丸(平和樓本店)...106
	2月 21日	産経新聞で「慰霊を回復して人は国民になる」意見広告掲載...107
	3月 7日	第7回台湾シリーズ放送(StyleFM日曜討論、3.7～4.11、6回)...108
	3月 10日	中華民国(台湾)領事着任をお祝いする会(稚加栄、4名)...109
	3月 13日	林溪和先生告別式参列(台中・三一基督長老教会、3.13～3.14、2名)...110
	3月 15日	ライセンスメイト『台湾慰靈訪問団特集』発行...111
	3月 21日	産経新聞で「明石元二郎台湾総督に対する福岡市教育委員会の態度には愛国心が感じられません」意見広告掲載...112
	5月 16日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...113
	6月 5日	第8回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会172名／懇親会58名) 明石元紹先生(明石元二郎令孫・画家)黄文雄先生(文明史家) 「郷土福岡が生んだ世界的英雄・偉人一明石元二郎台湾総督の生涯」...114
6月 27日	台北駐福岡經濟文化辦事處 周碩穎處長送別会(団長宅12名)...115	
8月 4日	産経新聞で「日台の生命の絆死守せむと吾日本の一角に起つ」意見広告掲載...116	
9月 25日	日本会議福岡中央支部 西部地区懇談会「日本と台湾は運命共同体－台湾防衛は英霊との約束」 講話：小菅亥三郎 随行：原田・池田・黄(アーバン・オフィス天神)...117	
10月 8日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ12名)...118	
10月 14日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長歓迎会(松幸26名)...119	
10月 23日	旅程説明会(平和樓本店21名) 第12次訪問団結式・壮行会(平和樓本店63名)...120	
11月 21日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...121	
11月 22日	第12次訪問旅行(11.22～11.26、46名)(A班11.22～26 35名、B班11.24～26 11名)...122	
平成23年	1月 3日	第7回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄ランドホテル4名)...123

平成23年	1月 22日	第12次訪問団結式・報告会(平和樓本店65名)...124
	2月 23日	福岡西ライオンズクラブ 例会「教育勅語・軍人勅諭」 卓話：小菅亥三郎 随行：高山(西鉄ランドホテル)...125
	3月 15日	台北駐那覇經濟文化辦事處 粘信士處長表敬訪問(3.15～3.16、4名)...126
	4月 3日	第10回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.3～5.8、6回)...127
	4月 23日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...128
	5月 28日	産経新聞で「日本の為に従軍して戦死された台湾人の慰霊に参加するのは日本人の義務である」意見広告掲載...129
	6月 4日	第9回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会159名／懇親会71名) 黄文雄先生(文明史家)「中国が沖縄を獲る日－中国の「干船保釣」を打ち砕こう!」...130
	6月 12日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店7名)...131
	6月 13日	ライセンスメイト『台湾慰靈訪問団特集』発行...132
	6月 24日	産経新聞で「奉納した龍柱と銘板に感動」意見広告掲載...133
	7月 3日	中華民国建国100年「聖火リレー」福岡到着記念撮影会参加(福岡市南公園2名)...134
	7月 6日	あすなろ会 例会「台湾はなぜ世界一の親国なのか～日華(台)親善友好慰靈訪問団12年の体験から」 卓話：小菅亥三郎 随行：池田・黄・五郎丸・高山(ハーベストビル会議室)...135
7月 24日	産経新聞で「真実で尊い行動は必ず継続される」意見広告掲載...136	
8月 21日	産経新聞で「台湾との絆の強化は日本再生への道」意見広告掲載...137	
9月 13日	福岡県立嘉穂高等学校修学旅行事前学習「台湾修学旅行～台湾はどういう国なのか」講話：黄楷燊 随行：池田(視聴覚教室)...138	
9月 29日	産経新聞で「魂の奥の不思議なふれあいを感じる唯一の国・台湾」意見広告掲載...139	
10月 7日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ15名)...140	
10月 17日	産経新聞で「台湾での新発見、そして再発見」意見広告掲載...141	
10月 22日	旅程説明会(平和樓本店26名) 第13次訪問団結式・壮行会(平和樓本店67名)...142	
11月 20日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2名)...143	
11月 21日	産経新聞で「日本人は真の親日国家である台湾を見誤ることなかれ」意見広告掲載...144	
11月 21日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長主催懇親会(鴻臚6名)...145	
11月 22日	第13次訪問旅行(11.22～11.26、45名)(A班11.22～26 38名、B班11.24～26 7名)...146	
11月 22日	産経新聞九州総局 野口裕之総局長を囲む会(セントラルホテル10名)...147	
12月 25日	産経新聞で「日本語世代の方はかけがえのない日本の宝です」意見広告掲載...148	
平成24年	1月 3日	第8回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社／西鉄ランドホテル4名)...149
	1月 6日	中華民国建国100年祝賀式典参加(ホテルオークラ1名)...150
	1月 19日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長謝恩新年会(千羽鶴6名)...151
	1月 21日	第13次訪問団結式・報告会(平和樓本店65名)...152
	1月 26日	産経新聞で「日本人のアイデンティティを取り戻す巡礼の旅」意見広告掲載...153
	2月 22日	産経新聞で「この度の総統選挙のご当選、誠にめでとございませす。心よりお祝い申し上げます。」意見広告掲載...154
	3月 25日	産経新聞で「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭で奏上された祭文」意見広告掲載...155
	4月 1日	第9回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、4.1～5.6、6回)...156
	4月 29日	産経新聞で「第10回台湾特別講演会」意見広告掲載...157
	5月 13日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(平和樓本店2名)...158
	5月 16日	台湾総統就任記念茶話会参加(平和樓本店3名)...159
	6月 1日	産経新聞で「『恥ずかしい』と『感謝』の訪問」意見広告掲載...160
6月 2日	台湾支部長(黄・葉ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉13名)...161	
平成24年	6月 3日	第10回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス講演会167名／懇親会79名) 基調講演：黄文雄先生(文明史家)「日本と台湾の過去・

日台の家族(兄弟)交流のあゆみ

		現在・未来～私たちが目指すべき日台の関係」 /パナリティスカッション:黄文雄先生(文明史家)・施 光恒先生(九州大学大学院准教授)・ 柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「東日本大震 災から見た日台の生命の絆～台湾国民は 何故世界一のご支援をして下さったのか」...162			
平成24年	6月 7日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣1名)...163			
	6月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...164			
	7月 15日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆 (1)意見広告掲載...165			
	7月 16日	産経新聞で「東日本大震災から見た日台の生命の絆 (2)意見広告掲載...166			
	10月 5日	台湾双十節式典参加(ホテルオークラ5名) ※主催者より直接案内送付のため、今回から反省会参 加者とする...167			
	10月 6日	台湾支部事務局長(黄楷棠)婚約式参列(高雄・饜巴黎 大飯店、10.6～10.8、2名)...168			
	10月 13日	旅程説明会(平和樓本店18名) 第14次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店69名)... 169			
	10月 26日	台湾支部事務局長(黄楷棠)結婚式参列(基隆・豪鼎飯 店、10.26～10.28、2名)...170			
	11月 8日	中華民國(台湾)領事着任をお祝いする会(江藤家、4 名)...171			
	11月 18日	台湾在日福岡留学生会 忘年会参加(平和樓本店2 名)...172			
	11月 22日	第14次訪問旅行(11.22～11.26、38名)(A班 11.22～26 32名、B班11.24～26 6名)...173			
	12月 23日	第12回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、年 末年始篇第12弾、12.23、1回)...174			
平成25年	1月 3日	第9回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社/ 西鉄グランドホテル4名)...175			
	1月 26日	第14次訪問団結団式・報告会(平和樓本店73名)... 176			
	2月 23日	台北駐福岡經濟文化辦事處 曾念祖處長送別会(千羽 鶴13名)...177			
	2月 24日	第13回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、 2.24～3.31、6回)...178			
	3月 6日	福岡日華親善協会 台北駐日經濟文化代表處 沈斯 淳代表歓迎宴参加(ホテル日航福岡1名)...179			
	3月 20日	日台交流教育会 創立40周年記念懇親会参加(アル カディア市ヶ谷1名)...180			
	3月 26日	第11回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバン ・オフィス天神15名)...181			
	4月 23日	第11回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバン ・オフィス天神17名)...182			
	5月 28日	第11回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバ ン・オフィス天神 20名)...183			
	6月 1日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)歓迎晩餐会(花万葉 10名)...184			
	6月 2日	第11回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会195名/懇親会134名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「思想的背景から見た 日台の魂の交流～日本人の生と死を見つめながら 魂の深層を探る」/パナリティスカッション:黄文雄先 生(文明史家)・施光恒先生(九州大学大学院准教授)・ 柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「今後の日本 と台湾の眞の交流について～私たちがめざすべき日 台の関係」...185			
	6月 3日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)美祿市表敬訪問... 186			
	6月 4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)山口市表敬訪問... 187			
	6月 4日	台湾支部事務局長(李・黄ご夫妻)慰労会(団長宅 11 名)...188			
	6月 15日	第11回台湾特別講演会 第4回実行委員会(アーバン ・オフィス天神 22名)...189			
	6月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...190			
	6月 16日	ニュー有楽お別れ総会参加(平和樓本店 1名)... 191			
	6月 21日	台北駐福岡經濟文化辦事處蔡戎義俊處長歓迎会(千羽 鶴 18名)...192			
	6月 29日	林徳華先生告別式参列(台中・林家宅、6.28～6.30、3 名)...193			
	6月 29日	御創立記念日献詠披讀式出席(靖国神社、6.29～ 6.30、1名)...194			
	6月 30日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(平和樓本店 2名)...195			
	7月 18日	台北駐福岡經濟文化辦事處蔡戎義俊處長主催懇親会 (Sol 9名)...196			
	10月 4日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 12名)... 197			
	10月 12日	旅程説明会(平和樓本店 9名) 第15次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 69名)... 198			
	10月 20日	台日文化交流会 許世楷先生講演会参加(西南学院大 学コミュニティセンター1名)...199			
平成25年	11月 1日	中華民國(台湾)福岡領事着任をお祝いする会(花万 6名)...200			
	11月 10日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(平和樓本店 5 名)...201			
	11月 22日	第15次訪問旅行(11.22～11.26、32名)(A班11.22 ～26 28名、B班11.24～26 4名)...202			
	12月 29日	高雄市鳳山紅毛港保安堂安座式典参加(12.28～ 12.30 3名)...203			
平成26年	1月 3日	第10回台湾人留学生初詣おせち会(福岡縣護國神社 /西鉄グランドホテル4名)...204			
	1月 25日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊處長主催送別会 (處長公邸2名)...205			
	1月 25日	第15次訪問団結団式・報告会(平和樓本店63名)... 206			
	2月 23日	第14回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、 2.23～3.30、6回)...207			
	3月 23日	東龍宮(石羅界堂守以下6名)歓迎晩餐会(千羽鶴8 名)...208			
	3月 26日	第12回台湾特別講演会実行委員会(アーバン・オフ ス天神17名)...209			
	3月 27日	中華民國(台湾)領事着任をお祝いする会(花万3 名)...210			
	3月 29日	富安宮新廟落慶法要参列(嘉義・富安宮1名)...211			
	4月 22日	第12回台湾特別講演会・実行委員会(アーバン・オフ ス天神23名)...212			
	4月 27日	台湾在日福岡留学生会 新入生歓迎会参加(八仙閣3 名)...213			
	5月 18日	産経新聞に「第12回台湾特別講演会」全面広告掲載... 214			
	5月 28日	第12回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバ ン・オフィス天神 25名)...215			
	6月 7日	台湾支部事務局長歓迎晩餐会(海幸 6名)...216			
	6月 8日	第12回台湾特別講演会・懇親会(福岡ガーデンパレス 講演会301名/交流会149名) 基調講演:黄文雄先生(文明史家)「日本人が台湾に遺 した武士道精神～台湾と日本を結び日本精神」/パ ナリティスカッション:私たちが日本を取り戻す」:黄 文雄先生(文明史家)「私たち原日本人は大切なものを 忘れてしまった」・施光恒先生(九州大学大学院准教授) 「台湾の中のニッポン～日本人が取り戻すべき心と は」・柳原憲一先生(西日本台湾学友会前会長)「台湾人 戦犯死没者の遺書について」...217			
	6月 15日	ライセンスメイト「台湾慰霊訪問団特集」発行...218			
	6月 17日	福岡日華親善協会 定時総会参加(八仙閣 1名)... 219			
	6月 21日	第12回台湾特別講演会 第4回実行委員会・慰労会 (アーバン・オフィス天神 26名/花万葉 30名)... 220			
	8月 16日	胡順来先生告別式参列(台中・篤行基督長老教会、 8.15～8.17、2名)...221			
	10月 7日	台湾双十節式典参加(グランドハイアット 6名)... 222			
	10月 11日	旅程説明会(平和樓本店 22名) 第16次訪問団結団式・壮行会(平和樓本店 71名)... 223			
	10月 22日	日台文化交流会 桜井真先生講演会参加(福岡国際 ホール 1名)...224			
	11月 14日	台北駐福岡經濟文化辦事處主催 映画「KANO」試写 会(T・ジョイ博多 8名)...225			
	11月 22日	第16次訪問旅行(11.22～11.26、48名)(A班11.22 ～26 45名、B班11.24～26 3名)...226			
	12月 16日	台湾在日福岡留学生会忘年会参加(八仙閣 5名)... 227			
	12月 19日	台北駐福岡經濟文化辦事處 戎義俊所長主催忘年会 (タワーイベントハウス 2名)...228			
平成27年	1月 13日	第11回台湾人留学生初詣おせち会(ホテルニューオー タニ 4名)...229			
	1月 24日	第16次訪問団結団式・報告会(平和樓本店 82名)... 230			
	2月 22日	第15回台湾シリーズ放送(スタジオ日本 日曜討論、 2.22～3.29、6回)...231			
	3月 25日	第13回台湾特別講演会 第1回実行委員会(アーバ ン・オフィス天神 22名/懇親会13名)...232			
	4月 13日	山口県美祿市総合観光部(藤沢和昭部長以下7名) 来訪...233			
	4月 22日	第13回台湾特別講演会 第2回実行委員会(アーバ ン・オフィス天神 17名/懇親会7名)...234			
	4月 26日	台湾在日福岡留学生会新入生歓迎会参加(八千閣 3 名)...235			
	5月 20日	第13回台湾特別講演会 第3回実行委員会(アーバ ン・オフィス天神 23名/懇親会 9名)...236			
	5月 23日	産経新聞に一面広告掲載...237			



日清講和条約締結120年と終戦70年

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

太古の昔より、支那から太平洋への出口を弓状に連なる島嶼群(日本列島含む)で塞ぐ形をもって位置するわが国にとって、大陸との緊張関係はいわば歴史の宿命であった。

典型的な例が鎌倉時代における文永・弘安の役、いわゆる元寇である。当時の世界帝国・元に対して服属を拒否することは即戦争を意味し、その結果「くにの滅亡」を招来した時代に、ゆるぎない決意をもって一大祖国防衛戦争に決起したわが国の先達に対して私たち日本人は今さらながら畏敬の念を禁じえない。

顧みるに、この戦さのためにのみ誕生し且つ早世していった北条時宗のような人物(指導者)に連綿と導かれてきたのがわが国の歴史であった。

わが国の黎明期である大和から飛鳥に移りゆく時代、聖徳太子は隋の楊帝に遣隋使・小野妹子を通し国書を認(した)めている。「日出づる処の天子 書を日没する処の天子に致す 恙無きや」と。

華夷秩序を自然の摂理と考え、支

那に対し朝貢外交以外の接し方を知らなかった時代にわが国・日本の採った態度はまぎれもなく青天の霹靂と写ったに相違ない。

しかし、それは決して偶発的なことでも、情緒的なことでもなかった。国の行く末を見据え、入念すぎるほどの準備と、首尾一貫した計画にもとづく、まさに千年もの、万年ものといっても過言でない勇氣と決断の賜物であったのである。

自国の民族の歴史にわが国が無数に生み出してきたような英傑を輩出できないが故に、何万という部族や民族が、支那に服属を強いられ、かつて存在したという痕跡さえ奪われてきたのが東アジア史の冷厳な真実である。

西洋(人)がみずからをヨーロッパ(人)としてすら自認し、確認できなかった時代に、すでに十七条憲法を制定し、大化の改新を断行し、公地公民制度を確立したわが国が「世界最古の国民国家」と称される所以はここにある。ほどなく記紀を編纂したわが国は、天上界に淵源をもつ、天皇を中心とする奴隷も階級もない

一大家族国家として歩むことを内外に宣言したのであった。

支那との間に対等外交を展開する国体を維持しえたがゆえに遣唐使を廃絶し国交を断つことができた。そうであるからこそ、元寇にも正気を失わずに国を挙げて対処できたのである。

またこのような国の資質を体得してきたが由に西洋人のいうところの「地理上の発見の時代＝大航海時代」(応仁の乱から信長、秀吉を経て家康に至る時代)にわが国だけが南蛮人や紅毛人の武力侵攻や耶蘇教の宣伝工作に屈することがなかった。

そのような歩みをたどってきたわが国が迎えた最大の試練のひとつが産業革命を遂行したヨーロッパと正面から向かい合うことになる幕末から明治に至る時代である。

それは新興国アメリカの東インド艦隊が浦賀に来航するところから始まる。急速かつ広範囲に亘り怒涛のように押し寄せる外圧に、当時の先達は神武建国の精神にたちかえると



共に大政奉還、廃藩置県の断行をもって応じたのである。

国家存立のために矢継早な改革を迫られながらも五箇条の御誓文、軍人勅諭、大日本帝國憲法、教育勅語と着実に国体を整備していった様は、1200年以上も前の一大建国事業を彷彿させるものであった。

その若き明治国家・日本が最初に受けた試練が日清戦争である。明治19年8月1日、長崎に入港した清国北洋艦隊の暴虐を目のあたりにしたが、海軍力で決定的に劣っていたが故に為す術がなかったわが国は、8年後の明治27年の同じ日8月1日、清国に宣戦を布告した。臥薪嘗胆の賜物であったこの戦さは近代日本初の自衛戦争の勝利で帰結した。

如何に狂風吹きまくも
如何に怒涛は逆まくも
仮令(たとえ)敵艦多くとも
何恐れむや義勇の士
大和魂充ち満てる
我等の眼中難事なし

維新以降(このかた)訓練の
技倆試さむ時ぞ来ぬ
我帝国の艦隊は
榮辱生死の波分けて
渤海湾内乗り入れて
撃ち滅さん敵の船

以上は、当時の心意気を歌った「如何に狂風」の一節である。明治

を作った武士(もののふ)の気概をこれほど直截に歌える言語空間があったのである。

明治28年4月17日、下関の春帆樓における日清講和会議の結果、台湾は日本に割譲された。明治4年の牡丹社事件の際、日本側全権副島種臣に対し、清国皇帝をして「化外の地」と言わしめた台湾が名実ともに日本に帰属した瞬間である。

爾来、120年に及ぶ日台関係はこの時をもって起点とするが、台湾の歩みは華夷秩序から限りなく離脱する軌跡を描いて今日に至る。日清戦争によって朝鮮を支那の冊封体制から解き放ったわが国にとって、その10年後に訪れたロシアの重圧は、かつての元寇を想起させるだけにとでも容認できるものではなかった。(日露戦争)

そのようなわが国が欧米白色人種の圧政に呻吟するアジアをその鉄鎖の軛から解放せんと開始した大東亜戦争は、いわば歴史の必然といってよい。日清講和48年、日露講和38年の昭和18年に発せられた「大東亜宣言」ほどわが国の戦争目的が感動的に語られた例はない。

昭和20年、わが国は3年と9ヶ月に亘る大東亜戦争の終戦を宣言したが、有史以来、有色人種の国で支那の冊封体制への編入を拒否し、元を撃退し、近代においては欧米列強の植民地にもならなかった国が

果たしてあつただろうか。

また支配・被支配の関係からしか世界が考えられない時代の中で、八紘一宇として人間皆同胞・兄弟の姿勢で臨む国があつただろうか。

終戦70年を迎える今日、私たち日本人にとって一番大切なことは、有史以来わが国が辿ってきた歩みを正しく把握し、いかに先人が公のために心を砕き国を護ってきたかを素直に認めることではないだろうか。

もし世界に奇跡があるとすれば、それは天皇を中心とする家族共同体が、西暦でいえば21世紀の今日に至るまで連綿と続き、1億の民を擁しながら近代国家として成り立っている事実ではないだろうか。

ますらおの かなしきいのち
つみかさね つみかさねまる
やまとしまねを

これは、靖國の杜の遊就館に掲げられている歌だが、累々たる戦人(いくさびと)の命によって護られてきた公心(おおやけごころ)の国・日本を、120年来の友であり、同胞である台湾の皆様と共に未来に繋げていくことこそが、そして可及的速やかに国交を回復し世界も羨む二国間関係を築いていくことこそが、日清講和条約締結120年、終戦70年に最もふさわしい誓いの言葉ではないだろうか。

情勢を俯瞰するに、先の大戦の契機となった「米英」を「支那・中共」と置きかえて見れば尚更わかりやすいのではないだろうか。

かつてわが国は欧米列強の重圧を撥ね退け、近代国家として自立すべく、明治維新を成し遂げた。その中で明治天皇は、明治元年に「五箇条の御誓文」を布告、明治十五年に「軍人勅諭」を下賜、明治二十二年に「大日本帝國憲法」を公布、そして明治二十三年に「教育勅語」を頒布された。当時のわが国は常備軍と近代憲法、そして国民教育制度を兼ね備えた有色人種唯一の国家だったのである。その明治の先達が朝鮮半島の自立を賭けて戦った日清戦争で勝利したが故に、台湾はわが国に割譲されたのである。

爾来、映画「KANO」に見られる如く、日台両民族の渾身の努力により、台湾はわが国でも有数の慈愛溢れる豊かな地域となりました。それは、欧米諸国の羨望の的となり、朝鮮半島や支那大陸における満州国と同様、国家建設のお手本とされるまでになりました。とりわけ台湾の皆様は「公心」や「信義」を理解し、私たち日本人と接する中で、瞬間に武徳の資質を体得されたのです。

本日私たちは台湾の国づくりに全力を奮われただけでなく、大東亜宣言の完遂にむけて血書嘆願までされ、応召され、わが国日本の国軍兵士として、あるいは軍属として命を桶に決然起つて散華された同胞を供養するため、はるばる日本からやつて参りました。

元日本兵軍人軍属として世界史を变革する表舞台に立たれ、戦没された原台湾人の皆様、私たちは平成十一年以来、宝覺寺における大慰霊祭に参列させていただき、三万三千余柱の御霊の安らかならんことをお祈りしてまいりました。今後も、この顕彰事業を風化させることなく、更に充実・拡大し若い世代に継承していきます。それはこの道こそが「日本人として散華された英霊」にお応えする務めであるからです。

以上の決意も新たにわが国の近代史に比類なき勇氣と献身を刻まれた英霊のご遺徳を偲び、御霊の平安を心より祈念し、慰霊の言葉といたします。

日台の生命の絆

死守せむと

吾日本の一角に起つ

平成二十六年

民國百三年

皇紀二千六百七十四年

十二月二十五日

日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅 亥三郎

台湾訪問の旅 訪台者一覧 (第1次より第16次までの団員288名)

- | | | | | | |
|--------|--------------|--------|--------|--------|--------|
| 青木 繁政 | 井上 昌俊 | 緒方 俊美 | 茅野 輝章 | 古賀 誠 | 佐藤 正子 |
| 赤松 公昭 | 井上 誠二 | 小川 聡子 | 茅野 紀子 | 古賀 靖啓 | 佐藤 吉彦 |
| 浅見 晃甲 | 井上 理恵子 | 小倉 和彦 | 河野 一寿 | 小菅 紀武吾 | 讀井 健三 |
| 阿部 敏彦 | 井口 セツ子 | 小倉 弘子 | 神田 橋 勉 | 小菅 亥三郎 | 塩先 晋照 |
| 安部 雅俊 | 井原 四郎 | 小倉 美帆 | 木須 治彦 | 小菅 順子 | 重松 源吉 |
| 荒津 雅也 | 今村 之昭 | 小副川 克江 | 北浜 道 | 小辨野 聖也 | 重松 博子 |
| 荒牧 賢二 | 岩淵 宣仁 | 鬼塚 芳治 | 木付 辰生 | 小松 友子 | 篠原 章好 |
| 有吉 忠助 | 岩元 照周 | 小野 辰治 | 木付 靖子 | 小松 正隆 | 柴田 知則 |
| 有吉 弘子 | 岩本 宣善 | 小野 正明 | 城所 尚代 | 小柳 陽太郎 | 柴田 好章 |
| 安藤 政明 | ウイクラマスレンドラサニ | 小野 実里 | 木下 嘉平 | 五郎丸 浩 | 島 啓三 |
| 安藤 由紀子 | 牛島 康智 | 小濱 善和 | 木村 権作 | 五郎丸美佐江 | 島 むつみ |
| 飯島 志津子 | 江頭 伸一 | 折居 一志 | 木村 賢二 | 齋藤 梅子 | 下田 健一 |
| 家村 茂美 | 江崎 君公 | 折居 正規 | 木村 秀人 | 坂田 弘 | 下田 純子 |
| 池田 裕二 | エドワーズ博美 | 柿元 慎司 | 木村 孝子 | 坂田 照子 | 白水 キミ子 |
| 石川 秀久 | 大嶋 俊英 | 加藤 聖三 | 清瀬 武子 | 阪中 三幸 | 新開 崇司 |
| 石原 章臣 | 太田 玲子 | 梶栗 勝敏 | 清瀬 空 | 坂本 彰 | 新谷 章 |
| 石原 一二三 | 大塚 ヨシ子 | 柏田 伸幸 | 桐谷 勝 | 櫻井 英夫 | 菅沼 寛 |
| 石原 祐教 | 大西 敬吾 | 柏原 正弘 | 桐野 尚枝 | 佐護 美和子 | 菅沼 由美 |
| 市川 憲三 | 大西 雅樹 | 金澤 明夫 | 桐野 隆徳 | 佐々木 建城 | 杉山 雄一 |
| 伊藤 清子 | 大橋 昭仁 | 金澤 千代美 | 國武 利貴弥 | 佐々木 朗子 | 角 洋一郎 |
| 市来 徹夫 | 大庭 道夫 | 金澤 礼 | 國友 健男 | 佐々木 佳重 | 妹尾 和之 |
| 井手田 洋基 | 大林 さやか | 金子 孝夫 | 黒田 務 | 佐竹 聖子 | 関 文彦 |
| 稲田 健二 | 大山 猛 | 亀淵 武士 | 小池 房子 | 佐竹 秀三 | 高須賀 俊一 |
| 井上 俊治 | 岡田 敏江 | 亀淵 喜久子 | 黄 楷 棻 | 佐竹 冬子 | 高田 信一 |

『日華(巨)親善友好慰靈訪問団を代表し、

原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の御霊の御前にて

謹んで祭文を奏上いたします』

祭文

『抑々世界各国が各々其の所を得、相倚り相扶けて萬邦共栄の業を偕にするは世界平和確立の根本要義なり。然るに米英は自国の繁栄の爲には他国家、他民族を抑圧し、特に大東亜に対しては飽くなき侵略搾取を行ひ、大東亜隸属化の野望を逞しうし、遂には大東亜の安定を根底より覆さんとせり。大東亜戦争の原因ここに存す。大東亜各国は相提携して大東亜戦争を完遂し、大東亜を米英の桎梏より解放して、其の自存自衛を全うし、左の綱領に基き大東亜を建設し以て世界平和の確立に寄与せんことを期す』

一、大東亜各国は協同して大東亜の安定を確保し、道義に基く共存共栄の秩序を建設す

一、大東亜各国は相互に自主独立を尊重し互助敦睦の実を挙げ、大東亜各国の親和を確立す

一、大東亜各国は相互に其の博統を尊重し、各民族の創造性を伸張し、大東亜の文化を昂揚す

一、大東亜各国は互惠の下緊密に提携し、其の経済発展を図り、大東亜の繁栄を増進す

一、大東亜各国は萬邦との交誼を篤うし、人種的差別を撤廃し、普く文化を交流し、進んで資源を開放して以て世界の進運に貢献す』

これは今を遡ること七十一年前の今月六日、すなわち昭和十八年十一月六日に東京で開催された大東亜会議において採択された共同宣言です。

わが国、日本は昭和十六年十二月八日、マレー半島コタバル上陸で開始されたこの戦争で、東アジアに展開された欧米列強による植民地支配を悉く覆しました。以降約二年に亙る軍事的勝利を踏まえ、わが国は「民族解放・民族自決の号令」を発しました。中華民国(王精衛)、タイ(ワンワイタヤコン)、満州國(張景惠)、フィリピン(ラウエル)、ビルマ(バーモウ)、自由印度仮政府(チャンドラ・ボーズ)と、実に軍政下にあったインドネシアを除くすべてのアジアの人々がこの理念のもとに結集したのです。

平成二十六年の現在、この宣言を顧みるに、時代の先見性はもとより、政治的公明性や道徳的高潔性においても世界史を変えるにふさわしい金字塔でした。今日のアジア

大輔 康彦
 妙子 好史
 自然 秀範
 智子 英明
 希子 亜希子
 賢悟 悟
 正 秋洋
 勝美 勲
 周司 喜久子
 恭二 幸徳
 博朗 崇樹
 博文 一弘
 瑞枝

克巳 治義
 マツヨ 清美
 照美 齊次
 祐貴 美佳
 実 義博
 茂子 亜弥
 邦子 政裕
 誠 百合子
 淳 初美
 敬恵 晴治
 靖子 敬子
 学 昭雄

睦子 誠
 淳治 悦子
 弘美 武敏
 明伍 由子
 和彦 扶二雄
 有美 智子
 滋子 史子
 洋子 達男
 潔 耕一郎
 一 邦彦
 孝典 友秀
 茂夫 和代

タマリ 武司
 浩之 裕章
 正紀 讓二
 美智子 實
 一也 洋
 正二郎 ヨシエ
 正治 優亮
 修平 修
 千里 克紀
 和典 種雄
 經子 泰宏
 昭臣 智教

毅 修輔
 栄一 栄一
 美枝子 清
 慎也 幸雄
 浩 聖子
 博憲 公明
 重夫 大介
 信輔 公浩
 利介 哲
 卓 朝子
 那津子 英夫
 茂 辰郎
 昌巳

治之 成子
 裕之 光廣
 一 央夫
 純夫 秀男
 キミヨ 美咲
 道夫 秀幸
 亜希子 侃
 祐子 邦明
 邦彦 由美子
 宝誠 怡勲
 征二 能久
 弘美 彬

〈一目でわかる訪問先・交歓先〉

〈訪問先〉(訪問年月日順/日付は初回訪問日)

- ①故宮博物院 / H11.3.6
- ②忠烈祠(台北) / H11.3.6
- ③龍山寺 / H11.3.6
- ④阿美文化村 / H11.3.6
- ⑤太魯閣峽谷 / H11.3.7
- ⑥梨山 / H11.3.7
- ⑦日月潭 / H11.3.7
- ⑧宝覺寺 / H11.3.8
- ⑨日本人墓地(台中) / H11.3.8
- ⑩飛虎將軍廟 / H11.3.8
- ⑪安平古堡(紅毛城) / H11.3.8
- ⑫東方技術学院(旧東方工商専科学学校) / H11.3.8
- ⑬夜市(高雄・六合路) / H11.3.8
- ⑭寿山公園 / H11.3.9
- ⑮澄清湖 / H11.3.9
- ⑯蓮池潭 / H11.3.9
- ⑰育英医護管理専科学学校 / H12.11.24
- ⑱孔子廟(台南) / H12.11.24
- ⑲高砂義勇隊戦没英霊記念碑 / H13.11.26
- ⑳徳生長老教會 / H14.6.8
- ㉑愛河 / H14.11.23
- ㉒奇美博物館 / H14.11.24
- ㉓烏山頭ダム(烏山頭水庫) / H14.11.24
- ㉔芝山公園 / H14.11.26
- ㉕八田與一記念館 / H15.11.24
- ㉖南栄技術学院 / H15.11.24
- ㉗九族文化村 / H15.11.25
- ㉘日本人墓地(高雄) / H16.11.23
- ㉙潮音寺 / H16.11.24
- ㉚明石元二郎総督墓所 / H16.11.26
- ㉛保安堂 / H17.11.23
- ㉜孔子廟(台中) / H17.11.25
- ㉝台中公園 / H17.11.25
- ㉞夜市(台中・中華路) / H17.11.25
- ㉟国史館台湾文献館 / H17.11.25
- ㊱濟化宮 / H17.11.25
- ㊲貞愛親王殿下登陸記念碑 / H19.11.24
- ㊳夜市(台北・士林区) / H19.11.25
- ㊴中華民國外交部 / H19.11.26
- ㊵台北101ビル / H19.11.26
- ㊶鹽水國民小學 / H20.11.24
- ㊷八角樓 / H20.11.24
- ㊸富安宮 / H20.11.24
- ㊹鵝鑾鼻公園 / H21.11.23
- ㊺巴士海峡 / H21.11.23
- ㊻殉工碑 / H21.11.24
- ㊼三一基督長老教會 / H22.3.13

- ㊽忠列祠(桃園) / H22.3.14
- ㊾海尾朝皇宮 / H22.11.23
- ㊿勸化堂 / H22.11.25
- ⑤①林森公園 / H23.11.22
- ⑤②東龍宮 / H23.11.23
- ⑤③八田與一記念公園 / H23.11.24
- ⑤④台中市政府 / H23.11.24
- ⑤⑤新化國民小學御眞影奉安殿 / H24.11.23
- ⑤⑥台南武徳殿 / H24.11.23
- ⑤⑦台南市政府 / H24.11.23
- ⑤⑧二峰圳(地下ダム) / H25.11.23
- ⑤⑨喜楽發發森林公園 / H25.11.23
- ⑥⑩烏來酋長文化村 / H25.11.26
- ⑥⑪篤行基督長老教會 / H26.8.16
- ⑥⑫高雄市政府 / H26.11.24



現地メディアの取材を受ける小菅団長(台北)

〈交歓先〉(交歓年月日順/日付は初回交歓日)

- 許國雄先生 / H11.3.8
- 台湾中日海交協会 / H11.11.24
- 蘇金淵先生 / H11.11.25
- 蕭興從先生 / H11.11.25
- 詹徳寛先生 / H14.11.23
- 許文龍先生 / H14.11.24
- 何怡涵・陳清華ご夫妻 / H15.11.24
- 台灣台日海交會(旧「台灣台日海交聯誼會」) / H16.11.24
- 台中市日本文化協會 / H16.11.25
- 王春茂・馮英鳳ご夫妻 / H16.11.25
- 沈芳以・呉月雲ご夫妻 / H17.11.25
- 蔡焜燦先生 / H18.11.26
- 台日文化經濟協會 / H18.11.26
- 黄明山・葉美麗ご夫妻 / H20.11.24
- 黄崑虎先生 / H21.11.24
- ラバウル會 / H22.11.24
- 黄文雄先生 / H25.11.22

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目
第1次訪問 23名 H.11.3.6～9 土～火 ガイド 李 燕光 神僧職 なし 旅行社 ヤマトトラベル (15ヶ所)	①故宮博物院 ②忠烈祠 ③龍山寺 ④阿美文化村 (花蓮泊)	⑤太魯閣峡谷 ⑥梨山 ⑦日月潭 (日月潭泊)	⑧宝覚寺 ⇒日本人墓地(慰霊式) ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩安平古堡 ⑪東方工商専科学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑫夜市 (高雄泊)	⑬寿山公園 ⑭澄清湖 ⑮蓮池潭
第2次訪問 17名 H.12.11.23～26 木～日 ガイド 陳 賜賢 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④育英医護管理専科学校 ⇒東方工商専科学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ⑤孔子廟 ⑥安平古堡 ⑦飛虎將軍廟(慰霊式) (台中泊)	⑧宝覚寺⇒ 日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	
第3次訪問 38名 H.13.11.23～26 金～月 ガイド 陳 賜賢 神僧職 古賀靖啓 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①故宮博物院 ②夜市 (高雄泊)	③東方工商専科学校 ⇒交歓会(許國雄先生) ④孔子廟 ⑤安平古堡 ⑥飛虎將軍廟(神事) (台中泊)	⑦宝覚寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台北泊)	⑨高砂義勇隊戦没英霊 記念碑(神事)
第4次訪問 38名 H.14.11.23～26 土～火 ガイド 呂 見清 神僧職 古賀靖啓・田村邦明 旅行社 近畿日本ツーリスト (12ヶ所)	①蓮池潭 ②寿山公園 ③愛河⇒交歓会 (詹徳寛先生) ④夜市 (高雄泊)	⑤孔子廟 ⑥奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ⑦飛虎將軍廟(神事) ⑧烏山頭ダム (台中泊)	⑨宝覚寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑩交歓会(台湾中日海交協会) ⑪日月潭 (台中泊)	⑫芝山公園(慰霊式)
第5次訪問 23名 H.15.11.23～26 日～水 ガイド 呂 見清 神僧職 堀川克巳 旅行社 近畿日本ツーリスト (9ヶ所)	①飛虎將軍廟 (神事) (台南泊)	②烏山頭ダム⇒八田與一・ 外代樹夫妻墓所(神事) ⇒八田與一記念館 ③奇美博物館 ⇒交歓会(許文龍先生) ④南栄技術学院 ⑤交歓会(何怡涵・陳清華 ご夫妻) (台中泊)	⑥宝覚寺⇒日本人墓地(神事) ⇒靈安故郷碑 (慰霊祭/神事) ⑦九族文化村 ⑧交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑨芝山公園(慰霊式)
第6次訪問 8名 H.16.11.23～26 火～金 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (11ヶ所)	①日本人墓地 (慰霊式) ②寿山公園 ③夜市 (高雄泊)	④潮音寺(慰霊式) ⑤飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥交歓会(台湾台日海交聯 誼會) (台中泊)	⑦宝覚寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾中日海交協会) ⑨交歓会(台中市日本文化協会) ⑩交歓会(王春茂・馮英鳳ご夫妻)	⑪明石元二郎総督墓所 (慰霊式)

※ ⇒について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第7次訪問 20名 H.17.11.23～26 水～土 ガイド 林 英志 神僧職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (14ヶ所)	①保安堂(献花式) ②寿山公園 ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	④飛虎將軍廟(慰霊式) ⑤奇美博物館 ⑥烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式) ⑦交歓会(台湾台日海交聯誼會) (台中泊)	⑧宝覚寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) ⑩交歓会(台中市日本文化協會)→孔子廟→台中公園 ⑪交歓会(沈芳以・呉月雲ご夫妻) ⑫夜市 (台中泊)	⑬明石元二郎総督墓所(慰霊式) ⑭芝山公園(慰霊式)	
第8次訪問 35名 H.18.11.23～26 木～日 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光 (12ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	③飛虎將軍廟(慰霊式) ④奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑤烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑥交歓会(台湾中日海交協会) (台中泊)	⑦宝覚寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑧交歓会(台湾台日海交會)※台中市日本文化協會合流 ⑨國史館台湾文獻館(調査) ⑩濟化宮(献花式) (台北泊)	⑪高砂義勇隊戦没英靈記念碑(慰霊式) ⑫講話(蔡焜燦先生)→交歓会(台日文化經濟協會)	
第9次訪問 25名 H.19.11.23～26 金～月 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 協進観光 (14ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ③交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	④飛虎將軍廟(慰霊式) ⑤烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑥貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑦交歓会(台湾台日海交會)※台中市日本文化協會合流 (台中泊)	⑧宝覚寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑨交歓会(台湾中日海交協会) ⑩濟化宮(献花式) ⑪夜市 (台北泊)	⑫中華民國外交部 ⑬台北101ビル ⑭交歓会(台日文化經濟協會)	
第10次訪問 31名 H20.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英靈記念碑(慰霊式) ②芝山公園(慰霊式) (台北泊)	③保安堂(慰霊式) ④東方技術学院 ⑤奇美博物館→交歓会(許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会(何怡涵・陳清華ご夫妻) (台南泊)	⑧烏山頭ダム→八田與一・外代樹夫妻墓所(慰霊式)→八田與一記念館 ⑨鹽水國民小學→八角樓 ⑩交歓会(黃明山・葉美麗ご夫妻) ⑪貞愛親王殿下登陸記念碑 ⑫富安宮 ⑬交歓会(台湾台日海交會) (台中泊)	⑭宝覚寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭) ⑮交歓会(台湾中日海交協会) ⑯濟化宮(献花式) ⑰夜市 (台北泊)	⑱中華民國外交部 ⑲交歓会(台日文化經濟協會)

※ →について ①同じ所在地の中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第11次訪問 30名 H21.11.22～26 日～木 ガイド 簡 添宗 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) (墾丁泊)	②鵝鑾鼻公園 ③潮音寺(慰霊式) ④巴士海峡(献花式) ⑤奇美博物館→ 交歓会 (許文龍先生) ⑥飛虎將軍廟(慰霊式) ⑦交歓会 (黃明山・葉美麗 ご夫妻) ⑧夜市 (高雄泊)	⑨烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式) →八田與一記念館 ⑩交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑪鹽水國民小學(歡 迎式典)→八角樓 ⑫交歓会(黃崑虎先生) ⑬交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑭宝覺寺→日本人墓 地(慰霊式)→靈安 故郷碑(慰霊祭) ⑮孔子廟 ⑯交歓会(台湾中日 海交協会) ⑰濟化宮(慰霊式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会 (台日文化經濟 協會)
第12次訪問 46名 H22.11.22～26 月～金 ガイド 簡 添宗 徐 永隆 神職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (19ヶ所)	①芝山公園 (慰霊式) ②講話 (蔡焜燦先生) (台北泊)	③烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式)→ 八田與一記念館 ④交歓会(何怡涵・ 陳清華ご夫妻) ⑤海尾朝皇宮 (献花式)→ 飛虎將軍廟(慰霊式) ⑥保安堂(慰霊式) ⑦交歓会(黃明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑧鹽水國民小學 (歡迎式典) ⑨交歓会 (ラバウル会) ⑩宝覺寺(A班)、 台中公園(B班) ⑪交歓会(台灣台日 海交會) ⑫夜市 (台中泊)	⑬宝覺寺→日本人墓 地(慰霊式)→靈安 故郷碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日 海交協会) ⑮勸化堂(献花式) ⑯濟化宮(献花式) (台北泊)	⑱高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ⑲中華民國外交部 ⑳交歓会 (台日文化經濟 協會)
第13次訪問45名 H23.11.22～26 火～土 ガイド 簡 添宗 呂 芳儀 神僧職 塩先晋照 旅行社 JTBトラベル九州 (17ヶ所)	①中華民國外交部 ②高砂義勇隊戦没 英霊記念碑 (慰霊式) ③交歓会(台日文 化經濟協會) ④林森公園 (台北泊)	⑤飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑥奇美博物館→交 歓会(許文龍先生) ⑦東龍宮(慰霊式) ⑧交歓会(黃明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	⑨保安堂(慰霊式) ⑩烏山頭ダム→八田 與一・外代樹夫妻 墓所(慰霊式)→ 殉工碑(献花式) →八田與一記念 館→八田與一記 念公園 ⑪台中市政府 ⑫交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑬宝覺寺→日本人墓地 (慰霊式)→靈安故郷 碑(慰霊祭) ⑭交歓会(台湾中日海 交協会) ⑮濟化宮(献花式) (台北泊)	⑯明石元二郎総督墓 所(慰霊式) ⑰芝山公園(慰霊式)
第14次訪問38名 H24.11.22～26 木～月 ガイド 簡 添宗 曾 英明 神僧職 なし 旅行社 JTB九州 (20ヶ所)	①保安堂(慰霊式) ②交歓会(黃明山・ 葉美麗ご夫妻) (高雄泊)	③東龍宮(慰霊式) ④新化國民小學御 眞影奉安殿 ⑤台南武徳殿 ⑥飛虎將軍廟 (慰霊式) ⑦台南市政府 (台南泊)	⑧鹽水國民小學 (歡迎式) →八角樓 ⑨貞愛新王殿下登 陸記念碑 (献花式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台灣台日 海交會) (台中泊)	⑫宝覺寺→日本人墓地 (慰霊式)→靈安故郷 碑(慰霊祭) ⑬孔子廟 ⑭交歓会 (台湾中日海交協会) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化 經濟協會) (台北泊)	⑰芝山公園 (慰霊式) ⑱中華民國外交部 ⑲林森公園 ⑳交歓会 (蔡焜燦先生・ 黃文雄先生)

* ⇒について ①同じ所在地中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

台湾慰霊の旅 訪問先・交歓先一覧

	第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目
第15次訪問 32名 H25.11.22～26 金～火 ガイド 簡 添宗 謝 添基 神僧職 なし 旅行社 JTBトラベル九州 (16ヶ所)	①忠烈祠(献花式) ②中華民國外交部 ③林森公園 ④交歓会(黄文雄先生)	⑤二峰圳(地下ダム) ⇒喜樂發發森林公園 ⑥東龍宮(慰霊式) ⑦保安堂(慰霊式) ⑧交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑨海尾朝皇宮(献花式) ⇒飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩烏山頭⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) ⇒殉工碑(献花式) ⇒八田與一記念館⇒八田與一記念公園 ⑪歓迎会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故鄉碑(慰霊式) ⇒台中公園 ⑬交歓会(台湾中日海交協會) ⑭濟化宮(献花式) ⑮交歓会(台日文化經濟協會)	⑯高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⇒酋長文化村
	(台北泊)	(高雄泊)	(台中泊)	(台北泊)	
第16次訪問 48名 H22.11.22～26 土～水 ガイド 簡 添宗 呉 志仁 范 智凱 神職 なし 旅行社 近畿日本ツーリスト (18ヶ所)	①高砂義勇隊戦没英霊記念碑(慰霊式) ⇒酋長文化村 ②林森公園(献花式) ③交歓会(黄文雄先生)	④烏山頭ダム⇒八田與一記念館⇒殉工碑(献花式) ⇒八田與一・外代樹ご夫妻墓所(慰霊式) ⇒八田與一記念公園 ⑤東龍宮(慰霊式) ⑥交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)	⑦保安堂(慰霊式) ⑧高雄市政府 ⑨飛虎將軍廟(慰霊式) ⑩富安宮(慰霊式) ⑪交歓会(台湾台日海交會)	⑫宝覺寺⇒日本人墓地(慰霊式) ⇒靈安故鄉碑(慰霊式) ⑬孔子廟 ⑭交歓会(台湾中日海交協會) ⑮濟化宮(献花式) ⑯交歓会(台日文化經濟協會)	⑰芝山公園(慰霊式) ⑱中華民國外交部
	(台北泊)	(高雄泊)	(台中泊)	(台北泊)	

※ ⇒について ①同じ所在地中での移動、②ガイド以外の同一人による連続した案内箇所

●ご協力ありがとうございます。

個人協力金A

小菅 玄三郎 (100,000円) 永留 照子 (30,000円) 原田 種雄 (20,000円) 山田 矩子 (20,000円)
 永濱 浩之 (20,000円) 沼田 昌信 (10,000円) 中川 久 (10,000円) 竹中 健 (10,000円)
 田中 至 (10,000円) 戸川 泰彦 (10,000円) 西依 有一 (10,000円) 影山 正信 (10,000円)
 中島 公明 (10,000円) 石村 僊悟 (10,000円)

個人協力金B

永濱 武司 (5,000円) 山室 俊武 (5,000円) 林 克紀 (5,000円) 大森 謙一郎 (5,000円)
 真榮 田 強 (5,000円) 江島 一至 (5,000円) 丸岩 憲正 (5,000円) 吉弘 浅子 (5,000円)
 市来 徹夫 (5,000円) 浦木 勇 (5,000円) 坂本文比古 (5,000円) 佐護 美和子 (5,000円)
 本村 和治 (5,000円) 森蔭 倫祥 (5,000円) 永田 昌巳 (5,000円) 塩山 敏彦 (5,000円)
 濱崎 洗煌 (5,000円) 加地 伸行 (5,000円) 甲斐 繁則 (5,000円) 森岡 寛治 (5,000円)
 河合 恒 (5,000円)

個人協力金C

桐谷 勝 (3,000円) 船津 邦彦 (3,000円) 青木 繁政 (3,000円) 濱田 秀逸 (3,000円)
 山崎 嘉明 (3,000円) 八木 穆 (3,000円) 東 富士男 (3,000円) 柳池 光代 (3,000円)
 柿元 清人 (3,000円) 梶原 昂 (3,000円) 小玉 敬吾 (3,000円) 佐藤 啓光 (3,000円)
 西山 洋 (3,000円) 淵 幸代 (3,000円) 森口 重幸 (3,000円) 吉弘 逸子 (3,000円)
 篠原 康博 (3,000円) 高田 訓 (3,000円) 中山 茂 (3,000円) 秦 友喜 (3,000円)
 兵動 和郎 (3,000円) 山口 恵美子 (3,000円) 山邊 俊二 (3,000円) 下條 康博 (3,000円)
 平川 憲治 (3,000円) 田中 足穂 (3,000円) 森 敬恵 (3,000円) 福田 昂明 (3,000円)
 甲斐 和郎 (3,000円) 井上 澄和 (3,000円) 宮川 昌江 (3,000円) 平井 一三 (3,000円)
 津留 毅 (3,000円) 金子 孝夫 (3,000円)

(順不同・敬称略)

第16次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 帰朝報告

期間 平成二十六年十一月二十二日（土）～二十六日（水）

参加者 四十八名

■ 十一月二十二日（土）

総勢四十八名の今次訪問団員のうち、二十二日福岡出発の三十七名は、七時四十五分に福岡空港国際線出発ロビーに集合し搭乗手続きを終えた後、VIPルームで簡単な出発式を行いました。訪問の歴史的意義、役員の紹介、注意事項の説明、記念写真の撮影を手短かに済ませ、出国手続きを終えた一行は、四泊五日の旅の期待を胸に、定刻十時十分にはチャイナエアライン一一一便で空路台北へ向けて旅立ちました。

地元の警察官がバスを先導

機内食をいただいて寛いだ後、現地時間十一時五十分は無事桃園国際空港に到着しました。入国手続きを済ませて空港待合室に出ると、今回九回目のすっかり顔馴染みとなったガイドの簡添宗さんや黄楷棻事務局長等の温かい出迎えを受けました。早速一行は専用バス二台に分乗して、最初の訪問地、烏來へと向かいました。烏來の山中に入ると、通常大型バスは規制で通行できないのですが、私達の為に地元の警察官の方がバイクで先導して下さり、感激しました。

高砂義勇隊戦没英霊記念碑の前に整列し、国旗敬礼、鶴澤美枝子さんによる「君が代」奉唱、黙祷、献花と肅々と慰霊式を斎行しました。特に鶴澤さんの全身全霊を賭けての「君が代」には身が震え、ご英霊の魂に響き渡ったのではと感動しました。木村団長代行のご英霊を顕彰する挨拶に続いて、周萬吉高砂義勇隊記念協会理事長、馬偕・理牧総幹事がそれぞれ挨拶され、最後に小菅団長が地元の方々への謝意を述べて締めくくりました。

その後土産物店で買物をしたり、壮大な瀑布（滝）の周囲を散策した後、何年か振りに山間を走るトロッコ列車に揺られて下山しました。駐車場からバスの駐車場まで、両側に軒をつらねる土産店や飲食店の雑踏の間をそぞろ歩きして散策を楽しみました。

烏來を後にして台北市内に戻った一行は、明石元二郎総督と乃木將軍のご母堂の鳥居が建つ林森公園に立ち寄りました。ここで東京出発組の岩本宣善さん、松下美佳さん、愛媛県から参加の中畑利介さんが合流し、夕闇が迫り薄暗くなった中、鳥居に献花し、お二人のご冥福をお祈りしました。

黄文雄先生が「台湾は変わる」と予言

公園を後にした一行は、黄文雄先生主催の歓迎夕食会に臨みました。昨年と同じ会場「紫都」で六月の台湾特別講演会以来の再会を先生と共に喜び合いました。昨年は五十名を超える台湾の文化人の方々が集まられていましたが、今年は丁度六大都市の地方選の直前のため、昨年程ではありませんでしたが、黄先生の親しい多くの台湾人の方々と交流を深めることができました。黄先生は「今台湾は変わろうとしている」と話されていましたが、選挙結果は国民党の衰退で先生の予言通りとなり、台湾で地殻変動が起こりつつあると感じました。二時間近く各界の方々や飲食、歓談した後、本当に名残りを惜しみつつ会場を後にし、この日の宿泊先である慶泰大飯店で旅の疲れを癒しました。

■ 十一月二十三日（日）

ホテルで早目の朝食を摂った一行は、台北駅から新幹線で目まぐるしく変

わる車窓の風景を楽しみながら南下して台南駅に到着しました。そこで専用バスに乗り換えて烏山頭へと向い、八田與一記念館で八田與一技師の偉業を紹介したDVDを鑑賞して、今も台湾の方々から尊敬される氏の生涯に思いを馳せました。その後、ダム建設の過程で亡くなられた日本人四十一名と台湾人九十二名の名前が分け隔てなく死亡順に刻まれている殉工碑の前で献花式を行いました。沖縄から参加の富原浩さんが献花の後、来年も仲間を募ってぜひ参加するに値する訪問団だと話され、感謝の気持ちで胸が一杯になりました。

湖畔に着いた一行は、八田ご夫妻の墓前に整列し、国旗敬礼、岡田敏江さんの澄んだ声に合わせての国歌斉唱、黙祷に続いて原田泰宏副団長が献花後挨拶をして慰霊式を終えました。その後、ダム建設当時の八田技師の住家等を再現した八田與一記念公園を散策し、次の訪問地屏東の東龍宮へと向かいました。

田中將軍所望の「海ゆかば」を熱唱

東龍宮に着くと地元の方々による爆竹や太鼓で歓迎されました。昨年の訪問時改築の為に地鎮祭が執り行われ、私達も鍬入れをさせていただきましたが、廟の周囲に足場が組まれ工事の途中でした。廟の前で国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花をした後、福岡から持参した「真刀」を奉納しました。福岡での出国、台北での入国の際いろいろと手間取っただけに無事奉納が終わった時は感無量でした。その後、少し不思議なことが起こりました。団員の鶴澤さんが御神体の田中綱常將軍から「海ゆかば」を所望され、突然歌われたの

です。同時に廟主の石羅界さんも田中将軍の声を聞かれ、初対面で面識のない鶴澤さんに近寄ってお願いされたのです。本当に不思議なことで、田中将軍もご満悦だっただろうと思います。

爆竹、花火に見送られて出発した一行は、一路高雄を目指しました。高雄に着くと黄明山台湾支部長ご夫妻がご家族や親戚の方々と出迎えて下さり、歓迎の夕食会となりました。お土産の交換が済むと、黄支部長の挨拶、小菅団長の答礼を黄事務局長の通訳で交わした後、和やかな会食となりました。故郷へ里帰りしたような心安さも手伝って酒盃を重ね、岡田、鶴澤両歌姫の美声に酔いしれて、あっという間に三時間が過ぎました。来年の再会を約してバスに乗り込み、家族の皆さんと手を振って別れを惜しみながら、宿泊先の華王大飯店へ帰りました。

■十一月二十四日(月)

この日の最初の訪問先は高雄の保安堂です。八時三十分という早い時間にもかかわらず、趙麗恵さんをはじめ大勢の地元の方、それに高雄市旗津区の謝水福区長が快く出迎えて下さいました。一昨年の暮れに落慶式があったばかりの新しい廟で、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花と慰霊式を齎行した後、茶菓のおもてなしを受けました。ホテルで朝食を摂った直後でしたので、残った果物等をお土産にバスに積み込んで下さり、温かい心配りに感謝しました。また、地元テレビ局の取材もあり、慌しく次の訪問先へ向いました。

高雄市ガス爆発事故の義捐金と 芳名簿を手渡し

保安堂の後、謝区長、趙さんも同行して高雄市政府を表敬訪問しました。あいにく陳菊高雄市長が五日後に選挙が控えているため、代わりに李永得副市長と張乃千社会局長のお二人が対応して下さいました。この席で小菅

団長が、東日本大震災の際の台湾の皆様からの破格の支援に謝意を表すると共に、先の高雄市のガス爆発事故に対するお見舞いの言葉を述べ、訪問団有志による義捐金と芳名簿を手渡しました。これに対して李副市長から丁寧なお礼の言葉があり、友好の絆がより強固になったと確信しています。貴賓室での会見が終わった後記念写真を撮影して、お暇乞いをし、次に飛虎將軍廟へ向かいました。

杉浦兵曹長の出身校の 学校要覧を寄託

廟に到着すると、廟の作法に従って儀式が執り行われ、杉浦茂峰兵曹長以下三柱に慰霊の誠を尽くしました。この日と翌日の宝覚寺での慰霊祭のために東京からわざわざ来られた甲飛喇叭隊第十一分隊の原知崇さんが慰霊の喇叭を吹かれ追悼に重みが加わりました。また、杉浦兵曹長の出身校が現在の茨城県水戸市立三の丸小学校であることが判明しましたので、かねてから出身校との交流を希望しておられた安慶國民小學の黄俊傑校長に、三の丸小学校の竹内修校長から預かった卒業生であることの証明と学校要覧を託しました。今後、両校の交流が深まることを希っています。

森川巡査の霊が降臨

飛虎將軍廟での歓待の後訪れたのは嘉義縣にある富安宮です。第十四次訪問の時まだ建立中だった新廟が完成して煌びやかな威容が目を引きました。ここで二泊三日のBプラン組の三名と合流。早速、義愛公の前で慰霊式を齎行し、持参した靖國神社御霊祭りの提灯を奉納して義愛公の遺徳を偲びました。丁度、御祭神の森川巡査の降臨の儀式があるということで、霊をお呼びする光景を目の当たりにしました。日本語を知らない初老の男性が時々

「アリガトウ」と発する声が聞こえ、森川巡査の感謝の念を代声しているのだと感じ、不思議な想いにとらわれました。

後ろ髪を引かれる思いで富安宮を後にした一行は、一路台中を目指しました。十八時三十分開会予定の台湾台日海交会主催の歓迎夕食会会場へ着いたのは四十五分遅れの十九時十五分でした。海交会の皆さんの拍手の中、会場の席に着きました。懐かしい方々との再会を喜び合い開会となりましたが、簡朝陽会長が「夕食会は今回が最後で、来年から昼食会に切り替える予定である」と話され、高齢者が多い現状ではやむを得ないだろうと押し測りました。続いて小菅団長が、到着が遅れてしまったことを先ずお詫びした上で、毎年欠かさず慰霊祭を実行され続けておられることに敬意を表し、今後も継続されてゆかれることに協力してゆきたいと決意を表明して、乾杯に移りました。各テーブルで一年ぶりの再会に話が弾み、またカラオケや軍歌で大いに盛り上がり、心の底から旧交を温めました。宴たけなわの中、明朝の宝覚寺での再会を約してお開きとなり、宿泊先の全国大飯店で深い眠りに就きました。

■十一月二十五日(火)

この日は慰霊訪問の最大の目的である「原台湾人元日本兵軍人軍属戦没者大慰霊祭」に参列するため宝覚寺を訪れました。参列に先立ち、境内の一隅にある日本人遺骨安置所(日本人墓地)で慰霊式を齎行しました。墓前に整列した後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花、永田昌巳副団長の挨拶に続いて、団員全員がお線香を上げて一万四千余柱のご冥福をお祈りしました。

慰霊式を終えて慰霊祭の席に就くと、今年も遺族の方々の姿が少なく、私たち訪問団の参列が一際目を引きました。戦後七十年近く経ち関係者の皆さんの参列が減ってゆくのは致し方ない

面がありますが、未永くこの慰霊祭を継続してゆくためには若い世代への継承が喫緊の課題だと改めて思いました。

今年も格調高かった祭文

ご位牌安置の後、主宰者代表の台湾台日海交會の簡會長の挨拶、小菅団長の来賓挨拶に続いて祭文奏上が行われ、今年も小菅団長が務めました。今年の祭文も、七十一年前の大東亜会議における共同宣言を冒頭に引き、その完遂に命を楯に決然起って散華された同胞三万三千余柱を顕彰する格調の高い内容で、多くの参列者に感銘を与えました。毎年、参列者から祭文を下さいとの声があった為、今回は祭文を日文と中文で参列者に配付しました。

続いて鶴澤さんが「君が代」を奉納され、境内に響き渡る歌声に御霊もお喜びになられたことと思います。

慰霊祭が終わると、台湾の皆さんを交えて記念写真を撮り、境内を散策した後、台中市内の孔子廟に立ち寄り、孔子ゆかりの書や絵画を堪能しました。孔子廟を出発して中日海交協会主催の歓迎昼食会会場に着くと、林政徳会長はじめ多くの会員の皆様が温かく出迎えて下さいました。林会長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶に続いて、原田泰宏副団長が「鶴亀」の仕舞いを披露されて開宴となりました。北京ダックをはじめ美味しい料理が次々と運ばれて来る中、林会長のアコーディオンに合わせて合唱も加わり、賑やかな歓迎会となりました。大いに盛り上がる中、名残りを惜しみつつ、次の訪問地濟化宮へと向かいました。

献花式で鶴澤団員が 「君が代」を奉納

新竹縣の山中にある濟化宮に到着すると謝鏡清董事長はじめお宮の皆

さんが待っておられ、早速本殿へと足を運びました。神前での献花式では鶴澤さんが「君が代」を奉唱され、心に染み入る調べにご英霊も喜ばれたことと思います。その後、靖國神社から分祀された四万余柱の霊璽が整然と安置されているお堂を案内していただき、社務所前で黄粉をまぶした美味しいお餅とお茶をご馳走になりました。ひと息ついてから門前で記念写真を撮り、お宮の前のお店で珍しいお土産を買い求めた後、新幹線の新竹駅を目指しました。新竹駅で新幹線に乗り換えて三十分余りで台北駅に到着し、そこから専用バスで台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会会場へと向かいました。

会場には黄天麟会長の代理の方廖水蓮副会長をはじめ呂昌平秘書長や役員の方々が待ち受けておられ、副会長の歓迎の挨拶、小倉和彦副団長の答礼の挨拶の後開宴となりました。各テーブルの役員の方とも話が弾み、ビールや紹興酒の心地良い酔いも手伝って和やかな会食となり、あっという間に二時間が過ぎました。会場を後にした一行は、初日と同じ慶泰大飯店にチェックインし、希望者は足裏マッサージや夜市見学に繰り出しました。士林夜市はいつもの賑わいで、団員の中には店員と値段交渉をして値引きしてもらった人もいました。四十五分程散策を楽しみ、今年も台湾のパワーをいただいてホテルへ戻りました。

■十一月二十六日(水)

六士先生の霊が木村団長代行に
乗り移り

最終日は先ず六士先生のお墓がある芝山公園を訪れました。少し長い階段を登りつめて「六士先生之墓」前で各自がお参りをし、「学務官僚遭難之碑」の前に整列し、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花を行い、六名の先生のご冥福をお祈りしました。最後に木村

団長代行が挨拶されましたが、六士先生の霊が乗り移り、六士先生の声、気持ちで一人称で話をされ感動的でした。下山した一行は、次に中華民国外交部(外務省)を表敬訪問しました。広い応接室に通され、郭仲熙亜東太平洋司副司長の歓迎の挨拶、小菅団長の答礼の挨拶の後、質疑応答に応じて下さいました。その折、小菅団長がユーモアたっぷりに「今朝芝山公園で六士先生に会って来ました」と話すと、郭副司長が一瞬驚いた表情をされたのが印象的でした。その後謎解きをする、会場に笑い声が響きました。非常に和やかな雰囲気で見終わると郭副司長が団員一人ひとりと名刺交換し、握手の上お開きとなりました。

外交部の玄関で郭副司長を交えて記念写真を撮りました。飛行機の関係で、ここで宮崎からの三人と別れ、台北市内のレストランで団員揃って最後の食事をし、土産物店に立ち寄りました。道中殆んどショッピングができなかった団員は、ここで家族や会社の人達へのお土産を買い求め、大きな包みを抱えバスに乗り込み、東京からの二人と別れ、桃園国際空港へと向いました。

空港に着くと搭乗手続きを済ませ、五日間お世話になったガイドの簡さんと黄事務局長に厚くお礼を述べ、来年の再会を約して別れました。桃園空港を離陸したチャイナエアライン一〇便は日本時間の二十時四十五分に無事福岡空港に着陸しました。入国手続きを済ませた一行は、空港ロビーで簡単な解散式を行い、全員の無事の帰国と台湾の皆様方の心温まるおもてなしに感謝し、沢山のお土産と思い出を抱え、一月の帰朝報告会での再会を約して帰路につきました。

(文責 原田和典)





第16次 台湾親善友好慰霊訪問の旅 紀行文集(抄)

掲載は名誉顧問・常任顧問・副団長・班長・副班長・一般団員の順とした。

台湾との絆の深さ

まつたわら よしひろ
常任顧問 松俣 義博 氏
まつたわら しげこ
原田班 松俣 茂子 氏

第十六次日華(台)親善友好慰霊訪問に今年で六回目の参加でした。平成二十六年十一月二十二日より二十六日まで、朝早くからの出発で夕方遅くのホテル着という四泊五日のスケジュールで廻りました。一日に何度となく「君が代」「海ゆかば」を歌う慰霊の旅に、若き青年たちが家族を思い、祖国を離れ戦ってきた証しを見ることができました。また、台湾の移り変わりも早く、新しい出会いや出来事に感謝、感謝の連続でした。

高雄では7月に発生したパイプラインの爆発事故という悲しい出来事、保安堂の新廟の完成という嬉しい出来事等、複雑な思いでした。保安堂は見事な廟になり一段と輝きを増し、附近の住民の方々も安心して漁に出られるのではないのでしょうか。また東石郷の森川巡査を祀る富安宮も新廟が出来上がり、村の方々のやさしさや、昔からの神に対する作法などが見えてすばらしく、微笑ましい感じでした。

今回は団員四十八名でいつもと違った胸にせまるものがあり、行く先々で涙がとまりませんでした。訪問日ごとに事務局から配付される訪問先の学習資料は、訪問先の意味や歴史、出来事がわかり易く説明されていて大変ありがたかつ

たです。スタッフの方々の努力には頭が下がります。大変な作業だったでしょう。何度参加しても日本と台湾はきつてもきりはなせない絆で結ばれていると実感します。芝山巖の六士先生の墓前では、統治時代の日本人が台湾に対して教育に、また理想に関わった先生達の精神が今の台湾教育に活かされていることを聞かされ、すごい事だと思いました。小菅団長はバスの乗り降りに後方の席までいつも笑顔でお声をかけてくださり、その心遣い、気遣いに感謝いたします。団長はじめスタッフの皆様のご好意で私たちはこの慰霊訪問の旅に参加でき、台湾について何も知らなかったこと、考えてもいないことがわかり胸が痛みます。本当にありがとうございます。これから慰霊の旅が長く続きますようにお祈り申し上げます。

台湾の皆様、団員の皆様、事務局の皆様、本当にありがとうございました。

台湾には心呼び込む 大きなものがある

ながた まさみ
常任顧問 永田 昌巳 氏
ながた
原田班 永田タマミ 氏

今回の第十六次日華(台)親善友好慰霊訪問団への参加は六回目となります。慰霊地を訪れる中で感じた事を順不同ではありますがいくつか述べてみたいと思います。まず今回の訪問団は沖繩を含め全国から四十八名の大勢とな

りました。旅の中で友好を深めあい、また慰霊地を訪問する中で台湾の歴史の真実について想いを共有できたことは大変意義深いことでした。

訪問の目的である宝覺寺における原台湾人元日本兵三万三千余柱の慰霊祭、併せて日本人墓地における一万五千余柱の慰霊祭は好天に恵まれ厳粛のうちに滞りなく終えることが出来た事は御霊もきっと安じられたことと思います。

烏来の高砂義勇隊戦没慰霊祭では、周理事長が出迎えてくれ先の大東亜戦争で日本兵として共に戦った誇りについて述べられ、訪問団の来訪についても感謝の意を表されました。日本人として誠にうれしい限りですが、感謝の意をのべるのはまず日本政府ではなかろうかとの思いも持ちました。山間の烏来の街をはじめて散策しましたが若者で賑わっておりました。この人たちのご先祖が共に戦い血を流してくれたと思うとこの平和は有難いと思つづく感じました。

台南の八田與一ご夫妻の墓前にて慰霊を行い、同記念館に行くついで映画「KANO」のロケーション風景の大きなパネルがありました。八田與一技師が烏山頭ダムを完成させたのは昭和五年、翌年に嘉義農林が甲子園において一大旋風を巻き起こし優勝戦まで勝ち進むという快挙を成し遂げました。台湾台南嘉義地方では二重の喜びに沸き上がったことは十分推測されます。身を立て名をあげるには苦難はつきものですが日本人と台湾(人)は力を合わせて立派に成し遂げたのです。今年は日本でもこの映画が話題を呼びそうです。

●ご協力ありがとうございます。

台北駐福岡經濟文化辦事處

處長 戎 義 俊

☎(092)734-2810

〒810-0024 福岡市中央区桜坂3-12-42

教育正常化教職員ネットワーク

福岡教育連盟

執行委員長 矢ヶ部 大輔

☎(092)631-2901

〒812-0045

福岡市博多区東公園7-7

福岡県庁地下1階

嘉義の東石郷の富安宮は立派に新築され、日本の森川清治郎巡査が義愛公として祀られています。戎義俊台北駐福岡經濟文化辦事處處長が卓話で述べられた「金を残す人生は下、事業を残す人生は中、人を残す人生こそが上なり」と言う後藤新平の「座右の銘」からすると、まさに森川巡査は今なお多くの村人の信頼を残しています。

屏東県枋寮にある東龍宮の主祭神は田中将軍ですが、小菅団長が代表して日本刀を奉納されました。刀は武士の魂と言われます。李登輝元総統は著書の「武士道解題」の中で「刀は伊達にはささぬ。帯に佩ぶるものは心に佩ぶるもの。忠義と名誉の象徴である」と大切にされてきたと述べています。田中将軍もきっとご満悦のことと思います。

高雄市政府を表敬訪問しました。七月に化学工場のパイプラインが三キロにわたり大爆発、大惨事を招きました。高雄は訪問団ゆかりの地、李永得副市長にお見舞いの義捐金を手渡し、友好の輪を確かめ合いました。また中華民国外交部にも訪れ香港における民主的選挙を求める学生運動に対して力で抑え込む中共の圧政は他山の石として民主主義を守って欲しいと要望、認識の一致もみることが出来ました。

黄文雄先生主催の歓迎の夕食会では著名な人たちが大勢参加され有意義な語らいが出来ました。隣の席の女医、林先生は訪問団に大変興味を示され濟化宮など各地を自分も廻りたいとの希望もあり「旅のしおり」を差し上げたら大変喜ばれました。また、鍼灸の楊先生は日本からの多くの訪問客について、台湾は景色が美しいとか料理が美味しいとかで満足されているようだが、なぜ台湾が親日国家であるかということをもっと勉強してきて欲しい。そうすればこれま

で日本人がいかに台湾で素晴らしい事をやってきたかを知る事ができ、自信と誇りを持てるはずだと注文をつけられました。

最後に六回にわたる旅を通して言えることは、同じ慰霊地を廻ってなお飽きが来ないのは何故なのか、そこに新しい発見と感激もあるだろうが、それとは別に台湾には心呼び込む大きなものがあるように思えてなりません。回を重ねることに里帰りにも似た感情が増幅されていくように思います。台湾統治五十年、敗戦後外省人の反日圧政に塗炭の苦しみを味わいながらも親国を守り通した台湾の歴史の真実を知るにはもっと時間がかかるかとも思います。

芝山巖事件と六士先生 — 日本を映す鏡 台湾

きむら ひでと
団長代行 木村 秀人氏

私たちは普段意識して日本人として生きるわけではない。日本の中でその文化と歴史に包まれて生きている。「日本人として」を意識するのは、そう反響せざるを得ない特別な事情が起こった時である。

明治になって生活は藩の中から日本に広がった。意識も同じである。明治維新からそれまでになかった日本と日本人の物語が始まる。その経緯は、五箇条の御誓文「我國未曾有ノ變革ヲ為サン」の通り、毎日が大変で、その大変を重ねて日本人となり、その大変は国外に及び日清戦争となる。

台湾において、その日本と日本人の物語は明治二十八年から本格的に始まる。日本を渡台した日本人が体現していくのである。その「日本」を見ていく

のは台湾の人々である。だから、その物語は内地では見られないものとなった。その最初の物語が芝山巖で起こった。明治二十九年元旦、台北芝山巖の地で、六人の日本人教師と一人の用務員が百名余のゲリラに襲われて惨殺された。芝山巖事件である。

榎取道明(三十九歳 山口県) 関口長太郎(三十八歳 愛知県) 中島長吉(二十六歳 群馬県) 桂金太郎(二十八歳 東京府) 井原順之助(二十五歳 山口県) 平井数馬(十九歳 熊本県) 用務員 小林清吉(三十八歳)

日清戦争明治二十七年(一八九四)八月開戦、翌二十八年四月十七日下関講和条約締結。講和条約により台湾は日本領となり、初代台湾総督樺山資紀と共に、「教育は最優先課題なり」として七人の先生が六月十七日渡台、七月十六日芝山巖の蕙濟宮を借り受けて学堂を開設。しかし、翌明治二十九年(一八九六)正月元旦、抗日ゲリラの襲撃を受け六人が惨殺される。台湾に渡って半年もたたぬ間の事件である。何故これで芝山巖が「台湾教育の聖地」となり、終戦時昭和二十年(一九四五)台湾の識字率が、シナ本土が及びもつかぬ、九十二・五パーセントに達したのか。五ヶ月余の日本語教育活動である。短時日の教育活動によって偉大な成果を残した例は、「青年よ、大志を抱け」のクラーク博士に見られる。明治九年札幌農学校八ヶ月間寝食を共にする教育によって、内村鑑三、新渡戸稲造ら二十四名の東京英語学校(第一高等学校の前身)の出身者たちが、近代日本の各方面に名を刻む活躍をした。

芝山巖は、事情を異にする。

雪を暖かい部屋から窓の外にみると同じように、先人たちの物語を見ては、日本人にはなれない。幕末維新以

●ご協力ありがとうございます。

ひとをつくり まちをつくり くにつくる

九州不動産専門学院グループ

代表 小菅 亥三郎

☎(092)714-4131

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

美祿市総合観光部

☎(0837)52-1532

〒059-2292

山口県美祿市大嶺町東分326-1

来、大変の時代を生き抜いてきた智慧と勇氣は学べないのである。私たちは今もなお日本人として戦っている。生きるとはそういうことだろう。日本人として生き、日本人として人生を完結する。これは、私たち日本人の特権である。それだけの歴史と文化が、私たちにはあるのだ。だから、その時その場所に行ってみよう。自分がどんなふうと思うか、自分をどんなふうを感じるか。先人たちの物語を読むのではなく、物語の中に入るのである。

芝山巖に教育活動を始めた日本人教師たちは、その地で、台湾人が初めて会う日本人であった。日本も日本人もどんなものか台湾人は知らない。

他方、日本人といっても、二十八年前は藩で生きていたものである。その藩意識が取り払われ、幕末維新の若者たちの意識の底に日本が横たわり、眼は世界を見、想いは世界にあふれる。彼らが維新以来の大変をくぐりぬけて日本人という力と情熱となり、ついに国からあふれ出て朝鮮で清国に勝った。

その力と情熱の日本が台湾を得て、日本を試されることになる。彫刻家が木を得て、どんな作品を生み出すか、その力を試されるのに似ている。彼らの教育活動とその最期によって、日本人というもの、日本というものが台湾に最初に結晶した。自分は自分でみることはできない。鏡に写すしかない。台湾という鏡に日本が映るのである。日本と台湾の魂の交流の最初は恐らく次のようであったろう。六人のひとり平井数馬(十九歳 熊本県出身)は、五ヵ月余の日本語教育というこの短時日のうちに『日台会話』の編集に従事し完成させた。日々が現地の人々に溶け込み、ひたすらに台湾語を学び、日本語を教える生活だったのである。恐らく、その日覚

えた現地語はその日のうちに数知れぬ練習と共に習得され、翌日はこれを使い、さらに新しい表現を覚え、学ぶ情熱をさらに熱く日本語を教えたのであろう。そういう日本人教師に台湾の若者が会う。初めて経験する「日本」との遭遇である。と同時に、恐らくは、異国のもの同志が、その言語の相互理解を通して生まれ出る信頼と友情を培い合う日々だったのであろう。

学生は、はじめは六名、九月末二十一名となった。

学生たちは、清朝をして「化外地」と言わしめた台湾の土語を熱心に学ぶ日本人教師たちに言い知れぬ敬意を抱いたのであろう。台湾の土語を学ぶなど、清朝の役人がすることではないのである。現地語の研究は、また、民俗の研究でもある。「身に寸鉄を帯びずして住民の群中に這入らねば、教育の仕事はできない」。この日本人たちの教育活動を通して或る普遍的な人間性の確認が行われた。信に値するもの、これである。台湾に教育の種が蒔かれたのである。教育の種が蒔かれと同時に、日本人教師たちに守るべきものができた。台湾は新しき日本である。台湾の学生たちは、この新しき日本の将来の土台である。日本人教師たちには、既に守るべきものができていたのである。

そして、下関講和条約から八ヵ月後、渡台後五ヶ月、日本人としての覚悟を試される。彼らが全国から集まるにあたっては、講和条約後二ヵ月のうちに、伊沢修二(文部省学務部長心得)の樺山総督への進言(教育事業最優先)、学務部創設、教師募集、応募、決定、渡台準備の後、初めて台湾の地を踏むという慌しさである。しかもまだ治安は安定していない。だがこの間の事情に応じる覚悟は十分にできていたのであ

う。「もし我々が国難に殉ずることがあれば、台湾子弟に日本国民としての精神を具体的に宣示できる」。維新以来、近代国家建設の漲る力の迸りとも言えようか。その朝、彼らの身中に満ちていたのは、烈々たる気力であった。その気力無くして百余のゲリラに素手で立ち向かうことは出来ない。そしてその見事な最期は見られていたはずである。日本人教師への信頼は失せなかったからである。日本人とはこういうものであると、台湾に結晶したからである。この事件は彼ら六士先生に続くものを断つことはなかった。台湾教育の根が台湾の大地に張り始めたのだ。

ひとが決死の覚悟をするのは、あたたかいものがあるからであり、守るべきものがあるからだろう。教育は、子供のためだけではできない。日本が要る。愛情と大義が要る。この二つがあつて、教育は命をかけるに値するものとなった。明治から新しく始まった物語に貫通する愛と大義は、また別の場面でも体現された。昭和二十年四月、沖繩戦に台湾からも多数の陸軍の特攻機が出撃した。戦果確認の護衛機が、戦果報告の後、自爆した仲間の後を追って「命令されざる特攻」をする。操縦を教えた教官だったのであろう。インドネシアでは、オランダからの独立戦争に多くの日本軍将兵が参加して、戦死した。その数二千名を超える。インドネシアの若者を訓練した教官たちの多くが彼らと共に戦った、ということだろう。六士先生に見られた日本と日本人の物語をここにまた、見る思いがする。芝山巖に私たちが行くのは、そこに結晶した「日本と日本人」に「日本人として」の意味を確かめつつ、私たちが日本人の物語を作り続ける力を得るためにもあると、今回つくづくと思った次第である。

●ご協力ありがとうございます。

ふれあい 学びあい 助けあい
九州不動産専門学院グループ同窓会
九栄会

会長 角 洋一郎

☎(092)714-4341

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38

快適な住空間の創造

ハウジング アーキテクチャー システム

(株) H A S

代表取締役 田中 道夫

☎(092)663-5510

〒813-0002

福岡市東区下原4-19-17

エトワール21-605

六分六秒六を戦い抜いた 英雄たちの物語り

副団長 おくら 小倉 かずひこ 和彦氏

四年前の第十二次訪問団には、Bプランで家内と次女を帯同しての参加でしたが、今回は四泊五日のAプランを選択し、社員と取引先企業経営者の三人での参加でした。私が今回一番行きかったのは、台南市にある「鎮安堂・飛虎將軍廟」で、杉浦兵曹長(戦死後少尉に昇進)の逸話を現地に於いて、是非とも見聞したいと考えたからです。

それは旅程三日目の十一月二十四日、午後一時過ぎに高雄から到着した我々訪問団を静かに出迎えてくれた地元の方々との、誠に厳かな慰霊式から始まりました。その折当日の飛虎將軍廟及び、又翌日の台中市宝覺寺での慰霊祭の為に、儀仗喇叭手として東京から馳せ参じた原知崇氏の一行が、正に海軍陸戦隊さながらの軍装でこの儀式を更に厳肅なものに設えて頂き、大変感謝したところです。

杉浦兵曹長の武勇伝は、車中で配布された学習資料や現地でも頂いた冊子等に詳述されていますので、屋上屋根を重ねるような愚は避けませんが、十一月二十五日夜開催された「台日文化経済協会主催の歓迎夕食会」冒頭での私のスピーチに反応した数人の方から、もっと詳細を聞きたいとお言葉を頂きましたので、抜粋を引用紹介したいと存じます。

時系列的な事故の経過

平成十一年(一九九九)十一月二十二日一三時〇二分、中川尋史二等空佐・門屋義廣三等空佐(階級は当時)が年次飛行の為、入間基地を出立する。

二名共五〇〇〇時間以上の飛行時間を有するベテランパイロットであった。一三時三六分、入間基地への帰投開始。一三時三八分、「コクピット・スモーク」。一三時三九分、「エマージェンシー(緊急事態)」。住宅密集地を避け、入間川河川敷へ向かう。一三時四二分三〇秒、「バイルアウト」すでに機体はバランスを崩し、脱出に必要な高度・角度は確保できない状況だった。一三時四五分頃、墜落。この時、東京電力の二十七万五千ボルトの高圧送電線に接触、これを切断して墜落したため、埼玉県南部及び東京都西部を中心とする約八十万世帯を停電、道路信号機や鉄道網を麻痺させる重大事故を捲起した。なお、送電線に接触しなかった場合、狭山大橋に激突し、死傷者が生じる可能性もあった。一四時二五分、鎮火。一七時〇一分、送電復旧完了。

以上の事実と投稿者の憶測を交えた個人的感想

事故機T-33は最高速度が時速九七〇キロメートル。エンジンに燃料の供給がなされなくなったと言うことを考え、少なく見積もってもエマージェンシーを宣言してからジャスト二分の間に機が推進したのは約三〇キロメートル。この二分間、「イニシャル」(滑走路延長線上に設定された飛行場上空への進入のための通過点)に直行しながら、彼らは基地に辿り着けない時は河原に機を墜落させることを、先ず真っ先に考えていたものと思われま。

グーグルアースで入間基地とこの河川敷の位置関係を見るとよく判るのですが、事故機の進路、入間基地に向かう航路途中を横切る形で川があります。落ち続ける鉄の塊となった事故機からのバイルアウトを最初に宣言したとき、眼下前方には、「事故機はうちの校舎

の真上を通過していった」と校長先生が証言したという西武文理高校がありました。高校の周りは整然と戸建ての並ぶ「ニュータウン」で、そのとき高度は三六〇メートル。安全に射出する為の最低高度は三〇〇メートル。この時ぎりぎりの高度と「河原が見えた」という二点が、恐らく中川二佐をして最初のバイルアウト宣言をさせたものでしょう。しかしこのとき入間川に対して機位は斜角をもっており、いま機を捨てれば河原にではなくその手前の文理高校か、あるいは川向こうの奥宮地区に墜落し、実際に最終的なバイルアウト後、わずか〇.六秒後で無人の機は地表に激突しており、その間の機の推進距離は九〇〇メートルで「今はだめだ」と、中川二佐は瞬時にそう判断したのでしょうか。

国会に提出された資料の事故機の航跡図を見ると、彼らが最初にマイナートラブルを宣言してから、機は東経一三九度二四分五秒上をほぼまっすぐ降りてきています。しかし、一度目の「バイルアウト」を宣言してから、その航跡は(地図上ではごく僅かですが)左方に向かって振られているのです。彼等は一三秒間、つまりこの最後の三キロメートルで、機を完全に河原と平行に修正したのではないのでしょうか。そして必死の操縦で「このままならまっすぐ推進しても確実に河原に落ちる」角度に機を向けたとき、すでに安全射出に必要な高度は失われていました。そして二度目の「バイルアウト」を通報して後席の門屋三佐は七秒後、事故機が送電線に接触する寸前に脱出し、中川二佐は接触とほぼ同時、門屋三佐の二秒後に脱出しました。門屋三佐のパラシュートは開傘せぬまま高度七〇メートルから地上に叩きつけられ死亡し、中川二佐は切断された電線の垂れ下が

●ご協力ありがとうございます。

(株) 関 家 具

代表取締役社長 関 文彦

☎(0944)88-3515

〒831-0033 福岡県大川市幡保98-7

売買、賃料、相続、訴訟、担保、資産の評価



社団法人 日本不動産鑑定協会正会員

(株)国際不動産鑑定所

代表取締役
不動産鑑定士 山口 勝彦

☎(092)483-3350

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東1-12-5
博多大島ビル4階

る送電線の真下に墜落して死亡していました。異常を感じた事故機が報告の為に管制塔との通信を設定してから河原に墜落するまでの六分六秒六。中川二佐と門屋三佐はこの僅かな間に、死の危険を顧みず殉職されたのです。狭山市は、ジョンソン基地といわれる米空軍基地があったときから航空機事故が絶えない処で、ジョンソン基地からは何と七件の事故で十五名のパイロットが殉職しています。日米が共同で入間を使用することになった後、自衛隊機の事故は四件。そのうちこの事故を含む三件は、パイロットが可能な限り機を安全な方向に誘導した形跡があるそうです。このT-33「シューティング・スター」に乗って六分六秒六を戦い抜いた英雄たちの物語に多くの日本人が心打たれるのは、つまりそういうことだからなのでしょう。

参考 自衛隊員が入隊時に行う宣誓文『私は、我が国の平和と独立を守る自衛隊の使命を自覚し、日本国憲法及び法令を遵守し、一致団結、厳正な規律を保持し、常に徳操を養い、人格を尊重し、心身を鍛え、技能を磨き、政治的活動に関与せず、強い責任感をもって専心職務の遂行に当たり、事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に務め、もって国民の負託に応えることを誓います。』殉職した二名とも十一月二十四日付けで一階級特別昇任しました。自衛隊における教育内容・事故の目撃証言などから、中川二佐及び門屋三佐は近隣住民への被害を避けるべく、限界まで脱出しなかったものと確実視されています。最終的に、乗員及び整備員に過失はなかったとして、平成十四年(二〇〇二)九月に埼玉県警および狭山署は被疑者不詳のまま航空危険容疑で書類送検し、この時点ま

でに二名ともさらに一階級特進し、それぞれ空将補・一等空佐となりました。

以上

まとめ

台南市にあった飛虎将軍の如き顕彰廟もなく、停電でアイスクリームが溶けたと誹られた彼らは一体誰のために死んだのか、元自衛官とすれば恹々たる思いに責め苛まれます。台湾の人々が持つこの気風は嘗て日本が教育した成果やも知れず、そしてまた戦後の日本人が七十年掛けて忘れ続けてきた大切なものと、もしや同根であるのかも知れません。この度の慰霊訪問団旅行中、我々三名の非礼の数々は何卒ご寛容賜われれば幸いです。合掌

日台次世代の新たな 日台関係の構築を

はらだ やすひろ
副団長 原田 泰宏 氏

今回で五回目の参加になりました。今回も貴重な体験をさせていただき、意義ある慰霊訪問を計画・催行された小菅団長、事務局の方々に改めて御礼を申し上げます。さて、今回の慰霊訪問でいくつかの体験と意見を紹介させていただきます。

【その一】

毎回お会いする元日本人として尽力された元従軍看護婦四人の方が、今年も九十歳を超えるご高齢にも関わらず、晚餐会と慰霊祭に参加されました。今年には更にお仲間が新たにお一人加わられ五人に増えました。全員揃って参加されたことは、その年齢を考えると奇跡ではないかと感激しました。先の大戦で亡くなられた日本人として戦われた台湾人の御英霊のご加護に感謝い

たします。

【その二】

嘉義の富安宮で三十歳前後の若い人に挨拶をしたら、ちゃんと私たちの事を覚えておられました。富安宮は高雄の保安堂などと比べると地元の方の視線や周辺環境から緊張感を感じて地元の方に話しかけるのが憚れましたが、少し勇気を奮って若い方に話しかけたのでした。そして、近所のどこそこにおいしいカラスミを出すレストランがあるとか初対面にも関わらず、親しみを込めて盛んに話しかけられました。若い人も親日であることを実感しました。話しかけてみて本当に良かったです。

【その三】

八田與一記念館近くで家族連れの方と目が合ったとき、自然と挨拶をされました。日本と関係あるかなと確かめましたが、特にそうでもなく、日本人に対する親近感の表れなのでしょう。一緒に写真をお願いされることもありました。こういうことは他の箇所でもよくありました。

【その四】

宝覺寺で挙行されています慰霊祭は、主催者の高齢化により継続的な実施が危ぶまれるように感じました。

このような体験を通して次のようなことを考えました。それは、現在台湾の方々の日本に対する親日の感情は、戦前の日本人が築いてきた結果であり、いつまでもこれに甘えていれば親密な日台関係は疎遠になっていくでしょう。世代交代が進んでいる日台にふさわしい日台関係を構築しなければなりません。幸い、台湾の若い方の私たちにに対する親日感情を実感しました。しかし、日本の若い人は台湾のことをほとんど知りません。(戦後生まれの年配の日本

●ご協力ありがとうございます。

旅行代理店 (社)日本旅行業協会会員

(株)近畿日本ツーリスト九州 福岡支店

☎(092)272-4891

〒812-0024 福岡市博多区綱場町2-21 福岡MDビル8階

甲斐歯科クリニック

院長 甲斐 文一郎

☎(092)731-4188

〒810-0044

福岡市中央区六本松4-11-26

ビバーチェ・ハシモトビル1階

人もほとんど知りませんが。)また、台湾の方が持っている日本に対する親近感ほど台湾に対して親近感を持っていません。日本で勉強している台湾人留学生への支援や台湾にいる台湾の若人と日本の若人との交流等を通して、次世代の日台友好関係構築を自分の宿題としようと思います。

言い忘れましたが、もう一つの経験を紹介させていただきたいと思います。鳥來のお土産店の店頭で、ご主人が九十三歳で日本軍だったとそのご婦人が話されたので、店の奥に行つてそのご主人に日本語で挨拶しました。帳簿をつけていたご主人から綺麗な日本語で丁寧なご返事をいただきました。日本語世代の方にお会いすると、親戚に逢つたような懐かしみを覚え、逢えたことにお礼を言つたり長生きを願わずにはおれません。最後に、日台関係の構築に貢献している慰霊訪問団の継続を期待しつつ、その実現に微力ながら協力していきたいと思つています。

慰霊訪問団員としての自覚

副団長	しもだ 下田	けんいち 健一氏
池田班	しもだ 下田	すみこ 純子氏

今回は二年ぶり、四回目となる慰霊訪問団の一員として参加させて戴きました。

この二年間、この時期になると、皆さんが今頃はどの辺を慰霊詣でされているかと気に懸かつて過ごしておりました。

第十三次で一緒に戴いた松俵建設会長さんとは毎月お会いしていることで、このブランクの間の話は十分お伺い致してはおりましたが、やはり、

実際は自分の足で動かなければ、実感は湧きません。このことを実現できたことや新しい発見が出来たことで有意義であつたと思つています。

折しも、台湾は統一地方選のまただ中であつたことで、台湾の方々は自国の将来を委ねる選挙で一人一人の力が、如何に大事であるかを実践されていることを目の当たりにしました。案の定、帰国後に開票結果が出て、台北市長選、台中市長選で与党国民党が敗北して、馬英九政権の権力基盤の弱体化が必至となりました。

その為、二千十六年の総統選での政権交代の可能性も出てきたと報道されています。我々日本人も大いに見習つて、自国の選挙を真剣に考えるべきではないでしょうか。更に外交部に表敬訪問した時、亞東太平洋司の郭副司長は注目すべき発言をされました。『決して、台湾は中国の属国にはならない』と。現馬英九政権にとっては思惑が外れていることでしょう。このような民族意識があつて、大東亞戦争での日本兵としての志願の多さ、精鋭部隊として戦闘行為での大奮闘につながつたと察されます。この英霊の方々の慰霊を日本政府がすべきところをできないのは、やはり押しつけ憲法のせいでしょう。全てに関連する【改憲】が急務だと確信します。それから、暴漢に襲われながらも「死して余榮あり、実に死甲斐あり」と言つて、子供達の事を思い最後まで格闘された六士先生を祀っている芝山公園では、団員の木村氏が六士先生の思いを実に良く捉えて挨拶をされ、感動致しました。この事件について、相当に勉強されていることが本当に良く分かりました。皆さんも同感だと思います。私たちも、もっと、しっかりしなくてはと心得ました。今回を含め、小菅団長の並々ならぬご

尽力に深く感謝いたします。私達もこの親日国台湾を何回と無く訪問して、ハツと気づかされたことは『外国に友人、知人が何人いますか?』という団長の問いかけでした。今まで、外国に行つても全く考えたことのないことです。その点で、台湾では、林さん、謝さんとか、何気なく気安く呼びかけていることに自分でびっくりしたのでした。正に親日だからできるのであつて、他の国々ではあり得ないことです。そこをしっかりと自覚しながら、今後も台湾の方々と夫婦一体でのお付き合いを広めて参り、子や孫たちを始め、周囲の方々に働きかけたいと思つています。

今回は二年ぶりにやつと訪問が出来られ、感謝致しております。

感謝状

ながはま たけし
第二班副班長 永濱 武司 氏

開口一番、唯々感動致しました。第十六次日華(台)親善友好慰霊訪問団に参加させて頂き、又全日程は晴天に恵まれ何事もなく無事終えることができました。これも偏に小菅団長はじめ、多数の本部事務方、現地関係者各位の心温まる手配り、多大なる尽力の賜、茲に重々厚く御礼申し上げます。

国として国交関係が断絶しているなかで「日台の生命の絆」の言辞に強く惹かれるのは何故なのか! それは遣伝子が似かよっていると私なりに解釈しています。地形的(島国・地震)、気候(台風・亜熱帯地域)、米作りに加えて、明治二十八年の統治開始から終戦までの間、先人達が命を懸けて事に当たり、又心血を注ぎ近代文明の扶植に努めたことが大きく影響しています。自然か

●ご協力ありがとうございます。

(有)濱崎理想瓦製造所

代表取締役 山下 康仁

☎(092)201-4010

〒891-0101 鹿児島市五ヶ別府町3786-12

小島テナント事務所

小島 義則

☎(092)451-2995

〒812-0042 福岡市博多区豊2-4-65

ら山岳探検調査、言語習慣風俗、社会基盤、殖産興業に至るまで幅広く著されているし、歴史・文化・事件についても牡丹社事件、霧社事件から終戦の二二八事件、白色テロまで数多く出版され拝読することができます。

日本の資金・人材・資材を投入して社会基盤が建設され、計画中も含めて近代文明的要素が完成しました。烏山頭ダム・嘉南大圳・上下水道・阿里山森林鉄道等の建設に関わった、八田與一、後藤新平など先人達の遺徳が偲ばれます。

台湾の近代化と文明伝播の要素として次の項目が挙げられます。

一 教育施設の建設

教育制度の確立、法治国家、治安の向上、調査研究、資源開発、品種改良(蓬莱米)。

二 上下水道・医療設備の建設

医療衛生思想の向上拡大、阿片中毒者の完治及び根絶(阿片の専売)、マラリヤ等の風土病の激減。

三 鉄道・港湾・ダム・発電所の建設

灌漑設備の完成により農地が拡大、物流及び産業発展。

教育医療制度から、道路を始めとする諸々の建設を苦難の末に完成させることが出来たのも偏に先人達及び台湾人の信頼、協力、努力の結果なのです。書籍、新聞、映像等だけで大雑把に台湾は理解することができます。台湾の内側、つまり人々の事は解りません。しかし人間対人間の問題だから真心をもって語り、交流すれば、幾らかなりとも近づきます。人間が或る時点で、どう行動をとるかによって、見方、捉え方が大きく変わると思います。戦後混乱の極みに達しているなか、台湾の軍人達は帰国する迄のキャンプ地において、食事で余ったご飯でおにぎりを作り、駅前の

戦災孤児や方々の人々に配ったと書かれています。朝鮮人はというと、余ったご飯は破棄したと。

台湾に有った軍事施設を終戦処理のため、断腸の思いで残務整理を行い終えて、日本将兵二人が岐路の山道を歩いている時、高砂族の一人から無言で一椀の地酒を振舞われました。戦々恐々の状態の将兵に対して、暴行等凶行に及びかねない困難な時期、武士的行動が働く義理人情があります。涙が流れても不思議ではありません。

平成十一年十月四日付けで「台湾大地震への義援金」に対して、御礼の新聞広告が掲載されていました。誠に心を打たれる話ではないでしょうか！記事のなかで(錦上添花・雪中送炭)とある雪中送炭は、雪降る寒い時節に相手を労わる気持ちで炭を贈る。日本にも「敵に塩を送る」と似た諺があります。先述して居りますとおり、このような行動形態に遺伝子が似かよっていると私は思います。

日本の敗戦によって台湾は筆舌尽くし難く、二二八事件、白色テロ、戒嚴令等長い苦難の時期を越えて今日に至っています。高砂義勇隊戦没英霊記念碑から六士先生の墓まで訪問させて頂きましたが、益々感銘を受けるのみでした。各施設共、現地関係者によって手厚く慰霊し祀られており、感謝の念と驚愕するばかりでした。高砂義勇隊戦没英霊記念碑の若者、宝覚禅寺の日本人墓地及び靈安故郷慰霊碑、英魂観音亭へ台湾の軍人軍属・民間人三万三千余柱、南天山濟化宮に約四万体の位牌が納められています。大東亜戦争で斃れ犠牲になった夥しい人々の、親兄弟姉妹は！ 望みは！唯々日本の為、大東亜の為！ 戦没者へ深く頭を垂れて、安寧と安らかな眠りを祈るのみです。

東龍宮、保安堂、南天山濟化宮について、今まで台湾の南端にまで旅行する機会も無く、紹介されなければ全く知る由もありません。東龍宮(田中綱常他四名の日本人ご祀神)歓迎振りには戸惑うくらい驚きました。花火爆竹、太鼓の鳴り物、大勢の出迎え、歓迎の横断幕を張って、現地関係者の心のこもった接待を受けました。真刀の奉納後、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、献花、参拝で慰霊式は終了し、団員全員に果物、飲み物等が振舞われました。私は賽銭箱へ台湾元で百元を入れて、黄色紙の札束を祭壇へ備え、別に参百元を硫璃瓦一片分として寄付しました。掲示板へ名前の記入を勧められたが遠慮しました。そこで私の名刺を渡したところ、領収書を受領しました。(領収書と思い込み、確認もせず)帰宅してから改めてみると「感謝状」となっているではありませんか！ 嗚呼、驚愕するばかりでした。

最後に、戦後日本は「新生日本」を旗印に復興繁栄を手にいれましたが、何か魂が抜け落ちた虚ろの状態なのではないのか、ひもを放すと風船のように飛んでしまいます。一日も早く魂の覚醒をしなければなりません。

日本全国で、「明日生まれる赤ちゃんの為 否日本人の為！」

蓬莱の 大東亜の御霊へ 祈りつゝ
日台の絆 永遠(とわ)の栄えを

過ぎ去りし 靖國のこゝろ 紡ぎては
美麗の若者(さきもり) 日々新たなり

合掌

●ご協力ありがとうございます。

山口県日台交流協会

会長 重富 剛克

☎(0820)58-1111

〒742-1111 山口県熊毛郡平生町佐賀鳩ヶ峯2-77光輝病院内

(有)悠悠

代表取締役 徳山 世雄

☎(092)623-2667

〒812-0851
福岡市博多区青木1-11-27

参加すればより良い 日本人になれる

おおやま たけし
第三班班長 大山 猛氏

この旅が十六回を数え我が同胞、台湾の英霊(約三万三千人)を慰霊する旅である事はずっと以前より知っていた。六十五歳でやっと念願叶った。

結論を先に云う。まさに感動の連続。本当に昔の日本人はこうであったらうと思わせる出来事の連続であった。旅の期間中感動、感動の連続で「嫌だな」と思う瞬間は只の一度もなかった。四泊五日中、日本晴れが毎日続いた。台湾の天も大歓迎してくれたのだらう。高砂義勇隊戦没英霊記念碑、東龍宮、保安堂、飛虎將軍廟、富安宮での現地の方々の心の籠もったおもてなし。爆竹を鳴らし、太鼓、銅鑼、歌声の歓迎、果物やゆで卵、饅頭やお菓子の御馳走、何度か涙を流した。毎夜の歓迎夕食会、台湾の元日本軍人や従軍看護婦さんと話しを一杯できた。大変きれいな日本語を皆様話され、戦前の歌謡曲や軍歌を唄った。何度も胸が熱くなった。

他に日本人墓地慰霊式、宝覚寺慰霊祭(中日海交協会主催で毎年十一月二十五日齋行)、芝山公園の六士先生の墓(明治二十九年台湾近代教育の基礎のため尽くされたか抗日ゲリラに散華された優秀な日本の先生六人)、台湾の靖國神社と云われている南天山濟化宮は山奥に立派な七層のお堂があり、靖國神社から台湾人の御祭神の霊聖簿の複製を戴き位牌が祀られていた。殆どの方が台湾式姓名に代わっていたが日本名のままの方もおられた。

表敬訪問を高雄市副市长、中華民国外交部(日本では外務省)が出来たことはいかに十六年の訪問で信頼を積み重ねられた結果と思った。それに日本各地より参加なされた方々、皆素晴らしく心優しい人だった。最後に皆様に呼びかけます。この旅は参加なされればより良い日本人になれると。

台湾の人の情けに触れてみて
目覚める我に目指すこの道

日本人であるということは 嬉しくて有難いこと

ふなつ くにはこ
第三班副班長 船津 邦彦氏

以前から参加してみたいと考えていた慰霊訪問団に、退職を機にやっと参加することが出来ました。送られてくる「ライセンスメイト」の記事や、友人の話あるいは各種の雑誌等によってかなりの訪問先の情報については、知識としてはおおよそ知っているつもりでしたが、事務局の皆さん方の周到な準備のおかげで、すべての訪問先の趣旨や来歴、これまでの交流の経緯等改めて知ることが出来ました。団長を始めとする事務局の皆様には、本業の傍らこうした準備をしていただいたことを考えると、本当に感謝するばかりです。

「百聞は一見にしかず」とは言いますが、「知識として知っているつもり」になっていること、「実際に現地で見聞きすること」とは、かなりの開きがあります。台湾には、過去三度訪問し、台北市及び烏來や淡水周辺には足を運んでいましたが、基本観光旅行であったため、台北市内の「六士先生の墓所」すらお参りしたこともなく、ましてや「八田與一技士の墓所や烏山頭ダム」を始めと

する台北以外の地は初めてでしたので大変楽しみに参加させていただきました。特に、初日に予定されていた烏來の「高砂義勇隊戦没英霊記念碑」へのお参りは、最初の台湾訪問で訪れて以降二回目には、碑文が竹囲いでおおわれているのを見て残念な思いが残り、三回目は参拝できず、店屋の方をお願いして献花をしてもらったことを記憶しています。その後、産経新聞の記事による移転費用募集に応じて寄付をしておりましたので、今回の訪問で、立派な記念碑が移設された様子を知ることが出来大変うれしく思いました。

また夕食前に訪問した「林森公園」には明石元二郎台湾総督の墓所にあった鳥居が保存されていたことや、陳水扁総統時代に乃木將軍の母御の遺骨が発見され今でもきちんと慰霊されていることを知り本当に感激しました。このことを知っている日本人はほとんどいないだろうと思愕然とすると同時に、国交を断っているということの不幸を実感しました。

一夜明けて、日本も協力して完成した台湾新幹線に乗って台南までの旅は快適で、小ざっぱりした車両内部や駅舎も清潔で、あつという間の一時間半でした。台南からは、バスによる移動で、烏山頭ダムの八田與一記念館等を訪れ、八田ご夫妻の墓碑にお参りすることができ、長年の思いを果たすことが出来ました。ダムの全貌や、嘉南平野全体の姿は見る事が出来ませんでした。ガジュマルの樹木に囲まれてとても幸せな空気に包まれていました。

屏東の「東龍宮」、高雄の「保安堂」、台南の「飛虎將軍廟」、嘉義の「富安宮」と巡り、七十年以上前の日本人を御祭神として今なおお祀りし続けている事実に、現代の平均的日本人と

●ご協力ありがとうございます。

富原 浩

☎(098)982-1408

〒904-0012 沖縄県沖縄市安慶田1-17-36

総合印刷

大道印刷(株)

☎(092)582-0927

〒816-0873
春日市日の出町6-23

して何とも言えない違和感？恥ずかしさ？感謝？更には、台湾の方々に対する敬意がごちゃ混ぜになったような感情が渦巻き、落ち着かない気持ちだったことを正直に申し上げたいと思います。しかし、台中の「宝覺寺」での日台合同の戦没者慰霊祭や台湾の靖國神社として位置付けられている新竹の「済化宮」での慰霊式を済ませるところになると、当時の日本人がいかに素晴らしかったのか、そして台湾の方々は、当時も今もそれを素直に感謝し、自分たちのこととして慰霊してくださっているのだということ素直に感じられるようになり、そのことを有難く感じている自分がいることに気付かされました。—日本人であるということは嬉しくて有難いことですね。ホントに日本人っていいですね。最終日の台北での「六士先生」の墓参では、私たちが六士先生の墓所を探していることに気付いた散歩中の台湾の方から、もう少し先だよ(言葉ではなく)指差された(謝謝!)ことも心地よい体験でした。その他、高雄市及び台湾外交部での表敬訪問に対する行政の対応も、一民間団体に対する対応ではないと感じました。小菅団長の十六年に亙る実績と信頼がそうした対応を可能にさせたのでしょうか、台湾がわが国民に寄せる信頼の証しのように感じたのは、私だけでしょうか？

そして、今回の旅では、日本各地から参加された多くの方々と知り合えたことも大きな喜びでした。お話をさせてもらうと、思いのほか、初めての参加者が多くいらっしゃることに気付き、慰霊の旅が各地に情報として浸透している証だろうと感じました。个性的で、日本が大好きな方々と知り合いになれたことは貴重な財産になります。こうした機会を与えていただいたことに改めて感謝し

たいと思います。

個人的には、今回が初めての参加であつたため、台湾の方々と交流はほとんどできませんでした。大事なパートナーとして、日本と台湾の結びつきは今後益々重要性を増していくと思います。我々一人ひとりが、こうした台湾の人々との結びつきを強めていくことが、そうした国と国の関係を深めていく上での何よりの力となり、大きな影響を持つと信じています。

最後に、三班の皆様ありがとうございます。原田様を始めとする事務局の皆様お世話様でした。ご一緒させていただいた四十八名の仲間の皆様、ありがとうございます。そして、台湾各地で我々を歓迎してくださった台湾の方々から心からお礼を申し上げ、私のお礼の報告とさせていただきます。

日本人が失っている大切な精神との出会い

つる たけし
第四班班長 津留 毅氏

この度、初めて第十六次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に参加したことは、私にとってとても有意義で感動的なことでした。

初日の高砂義勇隊戦没英霊記念碑の慰霊式は、驚くことに地元の警察の方が険しい鳥來の山道を車で先導してくれました。慰霊式では慰霊碑を守っている高砂族の方々と黙祷を捧げましたが、この様な秘境の山奥に住み、どの征服者にも決して服従しなかった誇り高き人達が、西欧列強による植民地支配からのアジアの解放という大義のために志願者が殺到したという事は、当時の日本人が如何に立派な人が多く、

説得力があつたということだと思えます。弱小チームから出発して、甲子園に台湾旋風を巻き起こした映画『KANO』の近藤兵太郎監督は、日本人を含む三民族で構成された選手一人ひとりに「いいか、『球は靈(たま)なり』だ。精神をボールに込めろ。魂の入っていない野球はするな」と囁んで含めるように教えたそうです。私は近藤監督の指導した『球は靈(たま)なり』という言葉(ことだま)が『台湾は日本なり』と言っているように聞こえてなりません。

夜は、黄文雄先生による歓迎夕食会がありました。私のテーブルには、小菅団長や台湾統一地方選真つ只中の柯文哲選挙事務所の邱さんと蔡さん、それに元駐日大使の羅福全さんが奥様と一緒に着かれていました。柯文哲さんは、私達が慰霊訪問の旅から帰国した三日後の選挙の結果、見事に台北市長に当選し、国民党は歴史的な大敗北を喫し、馬英九総統を党首辞任に追い込みました。私も小菅団長も「スタジオ日本 日曜討論番組」で「ひまわり学生運動」を応援し、馬総統が強引に押し進めようとした中国との「サービス貿易協定」を福岡の台湾留学生と一緒に阻止するために戦ったご縁で誠に感慨深いものがありました。また羅福全さんも素晴らしい方で、気が付くと歓談の最中、私達は大きな声で羅御夫妻と一緒に「うみゆかば」を歌っていました。まったく日本では経験したことのない不思議な空間でした。

二日目は八田與一技師の烏山頭ダムと東龍宮、台湾支部長御夫妻による歓迎の夕食会です。烏山頭ダムには、映画『KANO』のダムが完成する時のシーンの横断幕のセットがそのまま残されていました。烏山頭ダムで特に感動したことは、八田與一技師の業績も

●ご協力ありがとうございます。

日華(台)親善友好慰霊訪問団 台湾支部

支部長 黄 明山 事務局長 黄 楷 棻

☎(07) 751-4906

〒830-0092
高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號

☎(09) 7845-8470

〒110-0049
台北市信義區信義路五段5號
台北世界貿易中心5樓D-26室
日本美禰市台北觀光・交流事務所気付

日華(台)親善友好慰霊訪問団

東京支部長 藤田 達男

〒215-0017
神奈川県川崎市麻生区
王禅寺西3-11-14

さることながら、奥様の外代樹さんの生き方でした。八田技師が昭和十七年五月八日に亡くなられた後、日本が終戦を迎え、昭和二十年八月三十一日に次男の康雄さんが学徒動員から帰ってきたのを見届けた九月一日、二十五年前の嘉南大圳工事の起工式と同じ日に、夫人は八田家の家紋入りの和服に裾が乱れないようにと、モンペを身に着けて遺書を遺しダムに身を投げ、夫の後を追われているのです。最近の日本人の中には、簡単に「武士道」という言葉を口にする人がいますが、そういう軽々しく言葉にはいけぬ厳粛さを感じずにはおれません。東龍宮の田中将軍廟には、海の民のすばらしい系譜を感じ、この日の最後は黄明山支部長御夫妻と黄事務局長による温かいおもてなしを受けました。

三日目の保安堂の御神体となっていた「につぼんぐんかん」には万国の旗が飾ってありましたが、そこに中国と韓国、北朝鮮の旗がないのには、思わず笑ってしまいました。それから、以前から一度は行ってみたいと思っていた飛虎將軍廟に行きお参りをすることができました。杉浦飛行兵曹長の年齢に興味を持った私は調べて驚きました。弱冠二十歳で亡くなられております。十三歳～十四歳で入隊された最後の乙種予科練生だったそうです。兵曹長という階級は下士官の一番上の階級で、少尉候補に当るそうです。二十歳で飛行兵曹長ということは、今の若者と比べても相当に立派な人だったのではないのでしょうか。日本の撃墜王と呼ばれるエースパイロット達のほとんどが、下士官出身者だったことを思い出しました。

日本では、平成十一年に入間基地を飛び立った自衛隊機が墜落し、飛行時間が数千時間にも及ぶベテランパイ

ロット二名が殉職されるという事故がありました。自衛隊機は故障した際に、民家に墜落するのを避けるために高圧電線にぶつかり、殉職されたというのに、当時のマスコミは都内が停電したことばかりを強調し、自衛隊は憲法違反だといって攻撃しました。飛虎將軍のことを考えると今の日本が異常に見えてなりません。富安宮の森川巡査も本当に立派な日本人だと思います。そういう人達を神様として顕彰し、守ってられている台湾人こそ心やさしい、真心を持った本当の日本人ではないでしょうか。

四日目の宝覺寺での台湾人元日本兵軍人軍属大慰霊祭では、台湾人元日本兵の方々のご高齢ではあるが、若々しい姿に驚きました。そして従軍看護婦だった陳恵美さんとも楽しく歓談させていただきました。台湾中日海交協会の林政徳さん達の歓迎昼食会も心から楽しみました。年に一度、慰霊訪問団に会うことを心待ちにしていることを林政徳さんのおもてなしから感じとられた女性団員の方が、目にいっぱい涙を浮かべて感謝されている姿が印象的でした。

五日目の芝山巖神社の六士先生のお墓にお参りした時、木村団長代行が、六士先生になって一人称で団員にメッセージを送られましたが、感動があつて、それを伝えたくて伝えたくてしょうがないという境地であつたということがよく分かりました。そういう高見でないととても「死して余榮あり、死甲斐あり」という心境になれるものではありません。私は、この度、慰霊訪問団に参加して、日本人が失っている大切な精神と出会うことができ本当にありがたい経験をしました。

なにおもふ きみのまなこに わがまこと

ながはま ひろゆき
第五班班長 永濱 浩之氏

このたびは、第十六次日華(台)親善友好慰霊訪問団に五日間全行程参加させていただきました。台湾現地の方々・団員の方々・訪問団を支えておられるの方々、皆様方に尊い機会を与えて下さり心より感謝いたします。只々感謝です。今回で二回連続になりますが、帰国の度に、「日本人」「日本精神」の素晴らしさ・凄さを体得し、我が身を振り返る日々が続いております。「臥薪嘗胆忍の一字」と言いますが、領台時代の日本精神は骨身に沁みる精神であります。微力ではありますが、私も日本人の末裔として、一命を賭し、未来の素晴らしき日本国の建設の一翼を担えれば幸いです。このたびは、全行程一日一日に感じた思いをつたない詩に書き綴りました。日本人として何かを共感下されれば幸いです。

十一月二十二日(土) 高砂義勇隊戦没英霊記念碑慰霊式
たかさごの きよきいずみに しづくたる

十一月二十三日(日) 烏山頭ダム慰霊式・殉工碑献花式・東龍宮慰霊式
ひとしれづ あおきさんごに さくらさく

十一月二十四日(月) 保安堂慰霊式・高雄市政府表敬訪問・飛虎將軍廟慰霊式・富安宮慰霊式
たみのため じあいのあめが むすぶ和を

十一月二十五日(火) 日本人墓地慰霊式・宝覺寺慰霊祭・濟化宮献花式
ちくりんの てんまでとどけ じゅうじと

●ご協力ありがとうございます。

松俵建設(株)

取締役会長 松俵 義博

☎(0948)42-1033

〒820-0205 福岡県嘉麻市岩崎1554-10

(株)ジャスト・イン・タイム

麻生 法晴

☎(092)373-0703

〒810-0002 福岡市中央区薬院2-3-10-203

(有)PiPaRa - ピパラ -

代表取締役 森 眞一

☎(090)8668-6782

〒816-0855 春日市天神山4-27

十一月二十六日(水) 芝山公園六士先生の慰霊式・中華民国外交部表敬訪問

なにおもふ きみのまなこに わがまこと

結びに、明治天皇御製を捧げます。
世とともに 語りつたえよ 國のため
命をすてし 人のいさをを

祖父の面影にふれる 慰霊の旅

まつした みか
第六班副班長 松下 美佳 氏

慰霊訪問団に参加させていただいたのも今回で四回を数える。私が訪問団に初めて参加させていただいたのは第十一次であり、その時初めて訪れた台湾は私にとり大きな印象を残すものとなった。この旅で初めて迎えた朝、台湾最南端のホテルの窓から見た真っ青な海と明るい日差し、そして本当に台湾へ来たのだという感慨が五年経った今でも鮮やかに蘇る。今回の参加を一つの区切りとして、これまでの訪問団の思い出を書きたい。

私の祖父は、三十九歳で玉津丸の主席一等機関士として、バシー海峡に沈み戦死しており、第十一次に両親と参加したのはその慰霊が目的であった。私の父が幼い頃、戦死した祖父は大阪商船(現商船三井)の機関士だった。外国航路の長い航海を終え神戸港に到着すると、タラップから降りてくる祖父を父は祖母と一緒に迎えに行ったという。不在がちだった祖父は下船すると、父を大層可愛がり、あちらこちらへ連れて行っては台湾の事等を語ってくれたそうである。父は十歳で父親であ

る祖父を失ってしまったが、今でも父にとり記憶に残る祖父の面影は父の誇りであり、台湾は特別な地であった。その祖父が眠る潮音寺で慰霊式を行い、バシー海峡につながる川に献花を奉げることが訪問団に叶えていただけたこと、そして両親と共に何とも美しいバシー海峡を背に写真を撮っていただけたことが、私のこの上ない感激だった。

また、私が初めて「君が代」を歌い、「海ゆかば」を耳にしたのも、この第十一次に参加した時であった。日教組教育により日本の歴史に疎かった私が、この旅に参加するのと時期を同じくして、ある本との出会いを通し日本と台湾の歴史を詳しく知った。そこに記されていた烏山頭ダムを建設した八田與一をはじめ、獅頭山勸化堂、富安宮に祀られる当時の日本人の活躍と台湾人との心の繋がりは、日本の歴史に対して漠然とした悪のイメージを持っていた私の心に、初めて歴史の中にみる日本人に清らかで強い魂を吹き込むものとなった。そして初めて自らが日本人として生まれた誇りを感じると共に、台湾への憧れを抱くようになった。第十一次の旅で触れた台湾は、そこに生きる人々は勿論のこと、バスの車窓から見た景色に至るまでの全てが、胸躍る新鮮さと迫力で、改めて私に日本の歴史の連続性と自分が日本人であるという意識を芽生えさせてくれた。

小菅団長さんはバスの中で、団を満足させた動機、またはその志について度々語って下さったが、中でも私は「一銭のお金にもならないが、人と人との絆を大切に」精神を根底に、その活動を継続されているとのお話が最も心に残っている。現在私は、慶應義塾大学名誉教授の申村勝範先生が主宰す

る自主独立の会に所属し、日本が強い国家となることを願い、講演を中心とした活動の裏方をお手伝いさせていただきながら、日本の歴史や現状などを学んでいる。小菅団長さんの志が、まさに私が所属するその会とも同様の志に基づいていることに感動する。会主宰者の中村先生は度々、「情熱とは継続すること」とし、一つの志に対する情熱を如何に長く持ち続けていられるかということに真価が問われると説く。私は、訪問団に四回参加させていただき、少しずつ進化を遂げつつも、毎年変わらず慰霊訪問を続けられる小菅団長さんのたゆまぬ情熱に敬服する。

今回の旅の直前には、殊に特別な事があった。それは祖父と共に沈んだ玉津丸の最期と潮音寺について綴られた『慟哭の海峡』(門田隆将著)の出版を中村哲さんが偶然知り、教えて下さったのである。私は、訪台を控えた時期にこの本に巡り合えたことが偶然とは思えなかった。すぐに入手したものの、出発まで忙しく読むことができなかった。しかし、台湾へはこの本を持参しホテルのベッドで読んでいた。そして心の中で祖父を思った。奇遇なことに原田泰宏さんが八田與一像の前でご挨拶され、この本の内容について触れられたのにはまた驚かされた。今回訪問団に参加させていただき、改めて祖父の面影に触れられたことが私には大変嬉しいことであった。

最後に、十一次以来の御縁である岩本宣善さん、中村哲さんより、一人で参加した私を旅の間中気にかけていただいたご厚意に心から感謝を申し上げます。また四回に亘る参加の中で、私の心に大きな刺激と想い出深い時間を下さった小菅団長様はじめ、訪問団のスタッフの皆様、大変お世話になりあ

●ご協力ありがとうございます。

壱岐・対馬フェリー(株)

代表取締役 眞崎 越郎

☎(092) 751-3121

〒810-0071 福岡市中央区那の津3-46-7

岩尾城史の会

代表主宰 柴崎 一郎

☎(092) 923-8069

〒818-0061 福岡県筑紫野市紫5-14-26

(株)紅乙女酒造

☎(0943) 72-3939

〒839-1213 福岡県久留米市田主丸町益生田562-1

フクニチ住宅新聞

☎(092) 731-2220

〒810-0021 福岡市中央区今泉2-3-19-202

りがとうございました。そしてパワフルで純粋な笑顔を以って、迎えて下さった台湾の方々への優しさをこの胸に。

潮音寺 つなぐ縁(えにし)の美しき重ねて見ゆる 祖父の面影

人生が変わる旅

津留班 名越 譲治 氏
津留班 名越 美智子 氏

私たちはこの度、初めて慰霊訪問団に参加しました。私がこの訪問団に参加したのは平成二十六年六月八日に行われた台湾特別講演会において、黄文雄先生の講演を聞いたのと福岡経済文化辦事處の戎義俊處長の「日本精神」という言葉に惹かれたからです。戎處長は「台湾は世界一の親日国家で日本精神(リップンチェンシン)が根付いています」と述べられました。さらに「日本精神とは勤勉、進取の精神、強い責任感、法を守る、人を思いやり和を尊ぶ、忍耐する美德です」と説明されました。私はこれを聞いた時、正直言って耳を疑いました。戎處長の言う「日本精神」とは「武士道」そのものではないでしょうか。そして武士道は日本においては忘れ去られようとしている概念のひとつでもあったからです。それがなぜ台湾で受け継がれているのか、私達の先輩は台湾で何をしていたのか、それを自分の目で確かめたいと思いました。その時、私はその後を知るようになる多くの日本人の名前や業績については全く知識を欠いていました。台湾特別講演会の会場には慰霊訪問団のブースが設けられており、案内のチラシがありました。私はチラシを見ながらブースに座っていた担当の人に「この慰霊の旅は面白いですか。参加するかどうか迷っ

ているのですか」と尋ねました。すると彼は「面白いなんてものではありません。人生が変わります。私は五回も参加しました」とびつくりするようなことを言うではありませんか。ハワイだって三回行けば飽きるのに、台湾の寺院めぐりに五回も行くなんて、正気の沙汰ではありません。でも彼は生き生きとした目を光らせて「人生が変わります」と繰り返しました。その言葉に惹かれるようにして、私は参加することを決意しました。

福岡空港に集合した時、小菅団長が帝國海軍の艦内帽を被っていらっしゃるのが気付きました。年齢からしても元軍人とは考えられず、不思議だなと思いました。

初日は烏來の高砂義勇隊戦没英霊記念碑にお参りました。義勇軍の募集に五千名もの応募者があったと聞き、私はあらためて大東亜戦争の大義とそれに賛同した高砂族の人々の熱意と勇氣に思いを馳せました。

三日目の保安堂に行った時のことです。保安堂はこの町の沖合いで沈んだ日本の哨戒艇の軍人を祀る廟です。堂内には「につぼんぐんかん」と書かれた軍艦の模型がご神体のように安置されています。艦長らの御霊が日本に帰れるように作られたものです。保安堂を守る周辺の人たちは艦長の眠る靖國神社に参拝するため何度も日本に足を運んでいます。この話を聞いたとき、私は感謝の念を抑えることができずして。いったい誰が見知らぬ外国の軍人のためにこれほど手厚い供養をしてくれるのでしょうか。いや、外国の軍人ではない、その当時は同じ日本人だったのです。そして今でも台湾の一部の人々は私達を同胞として迎えてくれることを知ったのはその日の夜のこ

とでした。その日は飛虎將軍廟と富安宮に参拝し、まさに日本精神を体現した杉浦少尉や森川巡査が台湾の人々に慕われ、厚い信仰を集めていることを目の当たりにして、戎處長が言っていたことが良く理解できました。まさに日本精神が受け継がれていたのです。

その日の夜は台湾台日海交会の皆様との歓迎夕食会でした。台中市のレトロなレストランに着くと大勢の皆様が既に待っていらっしゃいました。遅れてきたことを詫言ながら席に着くと、私達のテーブルには二人の高齢な台湾の方とのご家族がおられました。高齢の男性にご挨拶をすると、元日本兵の男性の方は私の耳元に口を寄せて「今度の選挙は台湾人と中国人との戦いです」とはっきり日本語で言われました。その時台湾では五大市長選と統一地方選が行われており、国民党の凋落が予想されていました。台湾の人々は三月に立法院を占拠したヒマワリ学生運動を体験し、香港の雨傘革命を見て、中国の言う「一国二制度」のまやかしに気づき始めていました。そして、自分を台湾人であると自覚する人の割合が過去最高になっていました。もう一人の高齢のご婦人はご主人を戦争で亡くされた方でした。家内が名刺を渡すと「私の日本名も美智子だったのよ」と嬉しそうに言われました。私は日本人として育ち、戦後は中国人としての扱いを受け、今、台湾人としての自覚を持つ人々を目の前にして、李登輝總統が言われた「台湾人としての悲哀」を心から理解できたような気がしました。しかもこれらの人々は日本精神を受け継いでいます。日本精神を忘れてしまった日本人と、それを受け継いでいる台湾人はどちらが本当の日本人なのでしょう。それを思うと私は台湾の人に無性に懐

●ご協力ありがとうございます。

台湾台日海交會

會長 簡 朝陽

☎(04)2527-3140

〒420-0061

台中市豊原區西勢路325號

台湾中日海交協會

理事長 林 政徳

☎(04)2316-5163

〒407-0048

台中市西屯區重慶路120巷15號

台湾海軍ラバウル會

會長 王 春茂

☎(04)2436-6179

〒406-0047

台中市北屯區旱溪西路3段286巷37號

かしさを覚えてしまいました。私たちは同胞だったのです。

四日目は宝覺寺において原台湾人元日本兵軍人軍属三万三千余柱の慰霊祭が台湾台日海交会を中心に行われました。その時、台湾中日海交協会の林政徳会長から私達に海軍の帽子が配布されましたので、それを被って昼食会に出ました。もはや帽子に抵抗感はありませんでした。私たちは同じ大義を掲げて戦った同志なのですから。その後、濟化宮に向かいました。山深い所にひっそりと建つ濟化宮には台湾人元日本兵四万名が祀られています。七階建てのお堂には、靖國神社から提供された台湾人の霊壺簿を基にひとりひとりの霊壺が複製され、天井までびっしりと並べられています。この大量の霊壺を目の当たりにしたとき、私は当時の台湾の青年たちの大義への献身と犠牲的精神に圧倒されました。霊壺の間の狭い回廊を歩くと英霊たちの声なき声に取り巻かれているようでした。この時の光景は今、思い出しても胸が詰まります。

私たちは台湾に残る日本精神を求めてこの慰霊訪問団に参加しました。私たちは今も日本精神が受け継がれていることを知り、それが両国の強い絆となっていることを体験できました。そして、この体験はまさしく私の人生を変えました。

リップンチェンシン

たかま みつひろ
津留班 高間 光廣 氏

人生七十年を過ぎて今回初めて台湾慰霊訪問団に参加する機会が与えられ望外の僥倖であり、今回台湾を訪

問する事が出来てこの上なく感謝しています。

台湾訪問は二、三年前から計画していた毎年、何時行こうかと先送りしてきましたが、今回の慰霊訪問団募集を知り、やっと実現することができました。第一の訪問目的は台湾が中国の一部となり、赤く染まる前に行きたいと思っていました。

到着すると早速、慰霊地巡りが始まり、献花と君が代奉唱が執り行われるとなぜか目が涙でいっぱいになりました。同席の現地の方々も一緒に唱和していただき、大変感激しました。今国内に於いても君が代を歌ったり、共に唱和する機会はほとんど無くなりつつあるにも拘わらず、どの慰霊地を訪ねても様に軍歌、歌謡曲も交えて歌って頂き大変感動いたしました。

台湾に来て驚いたことは、日本人が誇りにしていた道徳観念が色あせず生きていた事でした。教育勅語を基本とした倫理観、台湾では今尚リップンチェンシン(日本精神)と呼んで大事にされています。清潔、公正、勤勉、責任感、正直、遵法精神、これらは現代の日本では徐々に忘れられようとしているように思えます。このような精神が台湾に根付いたのはどうしてだろうか考えると、明治二十八年日清戦争勝利の結果、台湾が日本に割譲された後、明治政府は自国の犠牲も省みず台湾に多くの優秀な人材と財力の投入を惜しみませんでした。

今回の訪問でわかった事は、この地に派遣された一人ひとりの血のにじむような努力と命懸けて任務の遂行に当たられた賜物にちがひありません。何事も真心と命懸けて行うことの大切さを知ることができました。

最後にこの度の台湾慰霊訪問は大

変有意義で、また多くの方々と知り会えたことを大変感謝しています。これからも未永くこの慰霊訪問が続くことを祈っています。

大きな母の胸に、 温かく包まれた気持ち

とみはら ひろし
永濱班 富原 浩氏

第十六次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅に参加して、台湾に到着した。まず最初に台北の郊外にある烏來(ウーライ)を訪ねました。ここは観光地として有名で、私も何度か来た覚えがあります。しかし、観光地のすぐ近くの山の傾斜地に、大東亜戦争で日本の誇りある兵士として散華した高砂義勇隊戦没英霊記念碑があるとは、全く知りませんでした。そのことは、観光でしか来たことがない私のイメージをひっくり返す、私にとっては驚きでした。そして、石碑の文字は李登輝元総統の揮毫ということも感動の一つでした。

私たち四十数名の一行は日本人らしく、整列し、国旗を掲げ、国歌を斉唱しました。これはとても身の引き締まる思いでした。国歌を歌ううちに自然と涙が流れてまいりました。何か懐かしく、ふんわりとした、大きな母の胸の中で、温かく包まれた気持ちでした。沖縄では、めったに国旗は掲げませんし、また、国歌を歌う機会も殆どありません。今回、この訪問団には、私が沖縄から初めての参加者だそうで、私にとっては、何もかもが心に刻まれる新鮮な体験でした。この記念碑を管理し、守って下さっている人々に感謝し、高砂義勇隊のご英霊の皆様へこころから哀悼の気持ちを捧げました。私にとって、日本人としての誇り

パンフィックキャピタルジャパン(株)

代表取締役 新開 崇司

☎(092)282-8628

〒812-0024
福岡市博多区綱場町4-11
パンフィックコート博多701

国を愛する新しい
国民運動ネットワーク

日本会議福岡

☎(092)641-3263

〒812-0044
福岡市博多区千代4-30-2
山本ビル4階

天神の貸会議室

アーバン・オフィス天神

☎(092)714-5351

〒810-0001
福岡市中央区天神1-3-38
天神121ビル13階

が沖縄人としての前にあったと思います。このような感情は初めてでした。私に、日本人としての魂があり、素晴らしい日本の誇りがあることも実感できました。沖縄は左翼的な革新思想の島になりつつあります。私は、それを憂慮する多くの県民の一人です。なぜ、そのような県になったのかを日頃考えます。私の結論は、本土でもそうであるように、マスコミ、特に沖縄では新聞が「沖縄新報、沖縄タイムス」の二紙しかありません。この二つの新聞は、紙面全体に自虐的で、反自衛隊、反米、反政府的な記事が毎日報道されています。沖縄の新聞とその他マスコミ(テレビ)は、一方的な報道しかしないと私には思われます。さらに、中学時代の学習の記憶をたどれば、軍隊は悪だと教えられていました。このような思想環境の沖縄から参加して、今回の慰霊訪問団で台湾で感じることは、いかに日本が素晴らしい国であったか、改めて知ることになりました。全てがよかったと言えないかもしれないけれど、いまこそ、私たちは戦前の日本の素晴らしさを知り、そして、その素晴らしさを取り戻さなければならぬと思います。

今回の慰霊の旅は、日本の良さを大いに知ることになりました。高砂義勇隊戦没英霊記念碑の後、森林公園、台湾の方々との夕食会、八田興一記念館、東龍宮、保安堂、飛虎將軍廟、富安宮などなどは、日本人が神様として祀られ、台湾の人々がいかに深い尊敬と信頼を日本人に寄せているか、知ることができました。宝覺寺で、三万三千余柱に鎮魂の思いで頭を下げたときに、不思議な思いがしました。多くの台湾の若い人たちが、日本を信じて戦い、死んでいった。それほど日本人としての魂を持っていたのでした。私たちは何かの形でその精神に応えなければなりません。今から数十年も前に、初めての海外旅行が台湾でした。沖縄から一番近い外国としてのなじみがありました。しかし、今まで、精神的には一番遠い国の一つだったのだと思いました。この旅を通じて、台湾の方々とは心は近づき、私たちの親愛なる友人であると強く感じました。今の若い人たちが自分の国を愛し、誇りを持ち生きていけるように、何かをしなければならぬと思います。私た

ちの国は将来が素晴らしい国になってもらいたい、そのために、日本人の一人ひとりが、今一度、愛国心とは何かを、真剣に考えなければなりません。私も自分の身の回りから一步一步、努力をしていきたいと思っています。

体感できた日台の生命の絆

ぎりに まさる
永濱班 桐谷 勝氏

先般の台湾慰霊訪問の旅、お疲れ様でした。ありがとうございました。

さっそく感想文をお送りいたします。箇条書きにて簡潔にいたしましたので失礼かとも思いましたがご容赦お願い致します。

一、団長小菅亥三郎様の識見の高さ、教養の豊かさ深さ、人格の高潔さに感服脱帽です。バスの中での説明といい、慰霊祭の祭文といい、高雄市政府、中華民国外交部での挨拶文といい感動そのものでした。著名人の講演も聞いてきましたが、小菅様のような胸に響く講話は聴いたことがありません。小菅団長の健在なうちに六十分程度の講話を是非お聴きしたいものと思えました。

二、幹事旅行社の添乗員で人数点検係りの若い女性の職務に徹する真剣な姿、それと二人のカメラマンの毎度の撮影の姿(落ち着いて食事も取れない)に大感謝です。

三、日台の生命の絆、心の絆が現地訪問でしっかりと体感できました。

天からの御褒美、台湾慰霊の旅

つるさわ みえこ
永濱班 鶴澤 美枝子氏

ツバメ飛び、蝶が舞い、蟬の声響く台湾。

夏終わる頃、南の国へ飛び去った日本の燕さん達は、ここに来ていたのですね。思わずお久しぶりと手を振った。台湾慰霊の旅、それはかねてより異国の地で国を思い、家族を思い、祖国の礎となられたご先祖様に「君が代」を聴いて頂きたいと念じていた一歩でした。

椰子の木の茂る地、台北から台南へと向かう慰霊の旅は、驚きの連続でした。目的地に着くと花火を打ち上げての歓迎、そしてボランティアの方々の心温まるおもてなし。バナナ、スイカ、(台湾の)みかん、おもちの美味しかった事、バナナのあまり得意でない私でも何本もペロりと平らげ、お土産にまでもらったものでした。

ここで忘れてはいけないのが、台湾犬(日本犬との雑種との事)。真っ黒なスリムな体で、何処に着いても先ず出迎えてくれる、人懐っこいその目に何枚も写真を撮ってしまいました。今も懐かしく「この犬がねえ」と私は夫に話すのです。

全てに思い出の残る旅でした。出来れば全てを皆様にお伝えしたいと頭の中が走馬灯のようにくるくる廻るのですが、目が廻るばかりで、なかなか文章になりません。

今回は、十一月二十三日に訪ねた東龍宮(田中將軍廟)そして、二十五日に訪ねた濟化宮(台湾の靖國神社)の思い出を書かせていただきます。

田中將軍廟、この廟は「田中綱常」と言う日本人を祀るために建立されたものです。綱常は、明治維新前は、薩摩藩士。維新後陸軍に入隊し、後に海軍に転身し海軍少将までなった方で、その人生のほとんどを台湾に捧げた人です。この廟での慰霊式も日の丸を掲げ、皆で「君が代」を歌い「海行かば」の曲を流し哀悼の意を捧げる、誠に厳かそのものです。ここで私は、みんなの後ろに立っていました。

「海行かば」のメロディーが流れてくると、頭の中で、『何故貴女が歌わないのか?』と声がかかるような気がしたので、小さな小さな声で歌っているとまた『何故貴女が歌わないのか?』私は、「歌ってるんですが…」などと頭の中で問答しているうちに曲が終わる。曲が終わるや否や田中將軍廟をお守りしている女性道士、石羅界さんが飛んできて私に台湾語で話す。通訳の人が「鶴澤さん歌って下さいと石羅界さんが言っています。彼女は田中將軍の声が聴こえる方なのです。」では私の頭の中の声は田中將軍!と理解した私は、「海ゆかば」を歌います。と即答しました。そして歌い始めると、天から力を頂くとはこの

ことでしよう。まるで田中將軍が、待ってましたとばかりに背中を押してくださる。私が歌っているとは思えないこの魂の叫びはいままでない感覚でした。歌い終わると石羅界さんが駆け寄り抱き合って号泣、何度も何度も抱き合いお互いの使命を確認し合ったのでした。(しかし後から考えると初めて会う石羅界さんが私が歌う人だと何故わかったのか不思議でなりません。)

ここで、書いておかなければならないことがあります。鶴沢の母方の祖母のご先祖様は、鹿児島県で河野通有(元寇の役で活躍した伊予水軍の将)の末裔河野せつえで、後に佐賀県出身の田中全(陸軍大佐)と結婚し(母)多恵子が誕生する。田中全も時代は違うが、台湾総督府で台湾のため働いた一人なのです。田中綱常將軍もまんざら他人ではないものを感じたものでした。式典が終わって外に出ると、あの黒犬が待っていてくれた。ありがとう!

二十五日は四万の戦没者を祀る南天山濟化宮(台湾の靖國神社)へ。ここへ向かう途中のバスの中でうとうと寝てしまい、宮に到着しバスから降りると息苦しい。かなりの標高かと思いガイドさんに聞くとここは小高い丘で、標高なんか知りませんとのこと。何かおかしい。二階の社殿に入ると寒気がして慌てて外に出る。三階の台湾の靖國神社に入るとさらに息苦しくなる。

ここで、小菅団長から「君が代」を御奉唱してくださいと言われ、歌おうとプレスをすると腹の底まで入るはずの息が、胃の辺りまでしか入らない。プレスをする度に息が浅くなっていく。目が廻り倒れるかと思いつつやっとの思いで歌い終えた。歌い終わると私の異変に気づいた人たちが「どうしましたか?」と近づいてきた。その人たちも同じような経験があり、早く休んだほうがいいとバスに戻ってようやく落ち着いた。

訳のわからぬまま時は過ぎ、帰国の途に着く。福岡に着き、博多に暮らす両親に旅の報告をするとだんだん見えてきた。

平成二十五年六月五日より全国護國神社御奉唱の旅を始める。平成二十六年九月二十二日二巡目の満願を終え天からの御褒美で、台湾慰霊の旅を頂戴した。台湾の四万の御霊様は、鶴

澤美枝子が日本から来る、日本の靖國へもう一度行きたい。そして各地の戦友たちに会うため、私と一緒に帰って来たとに違いないと思えてならないのです。

平成二十六年十二月八日より三巡目の護國神社御奉唱の旅が始まる。これは、御霊様たちが久しぶり、懐かしいと手を取り合うための旅なのです。天は言う、足を止めてはならぬ、と。

これは天の使いでしょうか。日本に帰り「君が代」と共に伝えなければと思う台湾の旅。ありがたい、勿体無いことでございます。

君が代は 眠れる神の目を覚まし 能(はたら)く力を授く歌なり
南里聖洲

この台湾慰霊の旅は、今や日本の心は台湾にあると思うほどの大歓迎で、これほど日本人に感謝し、大声で天皇陛下万歳を叫ぶ人が日本の何処にいますでしょうか。九十歳を超える元隊員さんは、「天皇陛下に台湾に来ていただきたい、それが私の一番の希望です。」と。私はその時、日本に帰ったらある人に手紙を書くことと決心したのです。

国のため 命さげし人人の ことを思へば胸せまりくる

御製
君が代を 歌い唱いて日本(ふるさと)の 千代に八千代に安寧祈る
皆様がお幸せでありますように。
合掌

日本の若者達に 慰霊参拝訪問を薦めたい

せき ふうひこ
永濱 関 文彦氏

今回の慰霊訪問の旅で日本の台湾統治がいかに台湾の地において、善政を行い、貢献し、今でも心から感謝されている事を実地で見聞き実感することが出来ました。

台湾には基隆青年会議所との約四十年余に渡る姉妹提携交流、或いは仕事、或いは観光で幾度となく訪問しているにも係らず、今回の訪問まで日本の台湾統治時代の史跡を訪問したことはありませんでした。

高砂義勇隊の件、林森公園の件、八田興一技師が作った烏山頭ダムの件、

宝覺寺の件、六士先生の件、日本の台湾統治が台湾の人々に感謝され、田舎の農村の住民の方々の貴重な浄財で立派なお宮を建立し、その中に神として崇められ、現在も尊崇を受けていることに感動を覚え、日本人として本当に誇らしく、心から嬉しく思いました。日本の若者中心に全国民に慰霊参拝訪問を薦めたい思いであります。

現地の住民に対して人類愛に満ちた行動をとった先人の偉業を末永く讀えたいと思いました。

一方、同時代に日本が統治した朝鮮半島においても台湾と同様に善政を行ったにも関わらず、現在数々の事実無根の悪口雑言、非難中傷をアメリカはじめ世界に発信し続ける、韓国、北朝鮮の無礼であり、且つ非常識な行動には本当に腹立たしく怒りさえ覚えます。

日本国として毅然たる態度で正義にもとづく、善政統治の実態を世界に広く広報せしめて貶められ続けてきた我が国の汚名を晴らさなければならないと今回の慰霊訪問の旅を通じてあらためて強く感じました。

さらにもう二件ほど感じたことがございます。

一つは今回訪問した、これらの日本人の偉業を讀える史跡にはJTBはじめ日本の旅行会社が日本人旅行者に知らしめず、かつ案内をせぬ様、指示及び要請が親中派、親韓派の国会議員及び官僚から発せられているようですが、日本人として理解に苦しむ行動であり、即刻改めさせるべきです。

もう一件は昭和四十七年の日中国交開始の時に台湾との国交条約破棄等の国益に反する条件で、時の総理大臣田中角栄氏が早まり誤った国交を結び、今日までに莫大な金を奪取られ、最近では尖閣諸島、或いは小笠原諸島において脅され、領海内のサンゴを強奪されている。

今後我々は米国議会でのマッカーサー証言にもあるように自存自衛の為の正義の戦争であった大東亜戦争の偉大な成果、わが国の先人達の偉業を日本中、いや世界中に広く知らせる義務があると思料します。

最後に、この様に有意義な訪問団を十六年という永きにわたり献身的にお世話をされている小菅団長と黄文雄先

生をはじめ台湾各地で盛大に歓迎会を開催していただいた方々に対して深甚なる敬意と感謝を申し上げ旅の感想とさせていただきます。

誠に有難う御座いました。

魂を磨き学んで行きたい

また
池田班 前田 マツヨ 氏

去る十一月二十二日から五日間の慰霊訪問に初めて参加させて戴き、小菅团长ご夫妻はじめ、訪問団の皆様にご温かく迎えて戴き、色々とお世話になり本当に深く感謝申し上げます。

私は下田先生ご夫妻の教えてお天道様精神、歴史、古事記、心身共に健康に毎日をどう過ごすのか、物も金も親切も回せ回せの精神など、本当に深く広い学びで、数年前、そして今回と台湾を訪問致しました。

高砂族の慰霊碑、烏山頭ダム、保安堂(まだ未完成でした)、飛虎將軍廟、六士先生墓、明石元二郎墓など数回訪問し、今回初めての訪問先でも、日本人が命がけで台湾で活動された英霊を神様と称え、祀られ、今日本人が失いかけている、本当に心からの大歓迎を受け、心洗われる思いでした。

また、訪問団の皆様の参拝、献花式と魂からのお参りに深く感動し、皆様の御活動にただただ頭が下がります。これからの日本はどうなるのでしょうか。世の中は、毎日のように悲惨な心痛める事ばかりです。本当の事、日本人の素晴らしさ、誇りある日本人を、少しでも伝えられる様に、私はまだまだこれからですが、魂を磨き学んで行きたいと思えます。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

反日教育の怖さと 真実を伝えることの重要性

むかい ゆりこ
池田班 向井 百合子 氏

初めて慰霊訪問団に参加させて頂きましたが、これからの自分の生き方を考えさせられる、とてもかけがえのない経験となりました。恩師である下田先生

ご夫妻からお声掛け頂いた時、丁度、日本統治時代の日本人の功績を自分の目で確かめたい、本当に台湾の方達が日本人に好意を持っているのかどうかということを確認したいと思っていたので、迷いもなくすぐに台湾行きを決めました。ですが、実はツアーの書類が送られてくるまで慰霊訪問団として参加する旅とは知らず、書類に目を通して事の重大さに驚きました。同時に責任感と多少の不安と普通の旅とは違う貴重な体験ができるのではないのかという期待感が膨らんでいきました。

初めて団員の皆さまにお会いした時は、日本人の代表として台湾を訪問し慰霊するという団員の皆様の強い責任感を感じ、身も引き締まる思いでした。最初に訪れた烏來で初めて日本人として戦った台湾人の方がいらっしたことを知りました。今も語り継がれる高砂族のご子孫の方達が日本からの訪問を喜んでくださる姿を見て、慰霊団の役目が少しわかったような気がしました。

烏山頭ダムの八田與一氏については話を聞いておりましたが予想以上で、訪れて初めて、環境に優しい設計だったことや高度な技術で高い評価を得ていたこと、記念館や宿舍の日本家屋まで復元されていることを知り、日本人の緻密さや勤勉さそして優秀さを窺い知ることが出来ました。

東龍宮では、田中綱常氏始め四人の日本人を祀るために台湾人の石羅界氏が私財を使って立派な廟を建て、しっかりと祀って下さっていること、そして田中綱常氏がエルトゥール号事件の遭難者をトルコまで送還した艦船の船長だったことを知り驚きました。3年前、トルコに観光で訪問した際、見ず知らずのトルコの方達が笑顔で歓迎して下さい妙に居心地が良くて何故かと思っていたら、エルトゥール号事件のことが小学校の教科書で伝えられ、日本に対して好感を持っていること、さらにイラン・イラク戦争ではトルコが危険な状況のイラクへ日本人を救出に行ったのもその恩返しだったと知りました。今回の台湾訪問でも、エルトゥール号事件のように、多くの日本人が知らない後世に伝えるべきことがあるのではないのかと思っていたので、石羅界氏

や田中綱常氏のことを知った時は感動を覚えました。

飛虎將軍廟については、今年の四月、ある経営者の方のセミナーで知り、台湾に行ったらぜひ訪れてみたいと思っていました。その経営者の方は、飛虎將軍の慰霊祭に参加された際、飛虎將軍の神輿が無いことを知りご自分が寄付することを申し出たとおっしゃっていました。今回、神輿が慰霊祭に間に合ったという話を現地で聞くことが出来、関係者の方が喜んでる姿を見てとても嬉しく思いました。同様に保安堂に行った際も龍柱を寄付されたことを伺い同じ日本人としてとても誇らしく思え心が温まりました。

宝覺寺の慰霊祭に参加した時、野沢ご夫妻の集骨のこと、慰霊団の式参加のいきさつのこと、また従軍看護婦として参加した女性が日本に感謝して日本統治時代のことを伝えて欲しいと熱く語られたこと、すべてが英霊の導きなのではないのかと感じました。

台湾教育の聖地と称される芝山巖では、六士先生のことや台湾の近代教育の基礎が日本時代に作られていること、日本精神が生きていることを知りました。ダムや鉄道の整備、三毛作など生活の向上だけでなく、道徳教育により精神的な向上にも貢献した先人達、同じ日本人として尊敬の意を覚え、先人達に恥じないような生き方をしなければいけないと強く思いました。

毎晩催された歓迎夕食会。黄文雄先生主催の夕食会では、二二八事件への抵抗運動に参加し逮捕され政治犯として十四年七カ月にわたって孤島に投獄された鐘紹雄先生と同席させて頂き、台湾の危機的状況を伺う貴重な機会にも恵まれました。また台湾支部長ご家族様、台湾台日海交会様、台湾中日海交協会様、台日文化経済協会様の歓迎夕食会では拍手でお出迎え頂き、東龍宮、保安堂、富安宮、濟化宮、中華民国外交部、高雄市政府といった公的機関でも行く先々で歓迎して下さい、とても優しく微笑みかけて下さいました。今でも台湾の皆様が笑顔が鮮明に残っており、ずっと日本に好意を寄せて下さっていたのだと実感しました。そして、これまで何も知らなくて申し訳ないという気持ちと、今も愛し続けてくれて

有難うという感謝の気持ちか溢れて仕方ありませんでした。

同時に、私は今まで何を学んできたんだろう、日本人の私たちが反日教育を受けてきたのではないか、日本人として誇りに思える事実が伝わっていない、教育の怖さと重要性を強く感じました。慰霊団に参加して気付いたことが山ほどありました。日本に戻って、日本人として勇敢に戦って下さった台湾の方達が台湾と日本を守る為に戦った英霊を祀って下さっていること、日本人に感謝し愛し続けて下さっているということ、台湾には今も日本精神が残っているという事実を伝えていきたいと思いました。

慰霊団として台湾を訪問することが出来て心から良かったと思います。このような意義ある体験はかけがえのない宝物となりましたし、何より楽しかったです。これも平成十一年から続けてこれた団長やスタッフ、団員の皆様、そして徳を積まれた先人達のおかげです。心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

初めての海外旅行は 心に残る慰霊の旅

まつば くにこ
柏田班 松葉 邦子氏

ある日の午後、社長のデスクに呼ばれ「松葉。お前を台湾に連れて行くからな」と資料を渡されました。「ただ、観光旅行じゃないぞ」と言われこの慰霊の旅への参加命令を受けました。過去に社長が参加した時の事や、社長の奥さんからの事前の説明を受けました。他にも社員がいる中で、私を連れて行く意味を考えました。「しっかり学べ」という事だろうと思いました。

初めての海外旅行、出発前はかなり緊張していました。桃園空港に着いた時、社長に「どうだ海外は？」と聞かれ「まだ実感が湧きません」と返事をしました。ホテルに到着した頃には、道路が逆とか独特の匂いで日本との違いを多少感じていました。

初日は先発隊との合流がホテルだったので、同室の森岡さんに会うまでどんな人だろうとドキドキしていました。

年齢の近い気さくなお姉様で安心感を覚えました。帰ってからメールをするくらいに仲良しになれました。

親日国と言われている台湾ですが、どの程度の親日なのかは想像も付きませんでした。行程を消化していく度に、日本人より日本の事が好きなのでは？と思えるくらいの親日でした。私は高卒で航空自衛隊の婦人自衛官として七年勤務しました。普通の女の子よりは愛国心もあったと思いますが、台湾の方々には頭が下がる思いで一杯でした。

親族の戦争体験者がいなかったのでリアルな戦争体験の話は聞いたことがありませんでしたが、小倉社長に話を聞いたり、靖國神社に連れて行って貰い、日本会議の資料をたまに見る中で色々な事を学びました。

今回は、行く先々で事前の説明や訪問先でのお話を聞いて、真実はそうだったのかと思うことが多々ありました。日本人は台湾人の為に一所懸命働いた。そしてその働いた日本人を祀ってくれた。そして戦争が終わって七十年経過しようとしている今でも日本を大切にしてくれているという事実を知りました。台湾人であろうと日本人であろうと、人として何も変わりはないと私は思います。死んだ魂は時代が変わっても永遠に弔いを続けなければならないし、先人に感謝しなければならない。自分の周りの人間を大切にしなければならない。そんなことを自分なりに考えました。今、自分に出来ることがあるとすれば、両親を始め私に関わってくれる人を大事にする事だと思います。そして台湾で学んだことを家族や友人に話したいと思います。

参加された皆さん全員とお話をすることは出来ませんでした。心に残る旅行になったと思います。そして、この機会を与えて下さった小倉社長に感謝しています。ありがとうございました。

継続は力なり — 慰霊訪問にマンネリなし —

いわもと のぶよし
柏田班 岩本 宣善氏

昨年、一昨年とパスしたが、通算五

回目のリピーターとして参加した。訪問先は当然殆ど同じ場所で普通ならマンネリを恐れる所である。三万三千のご英霊、一年間待っている台湾の同胞、相手は同じである。

しかし、小生はマンネリのマの字も感じなかった。そのことを幾つか書く。

(一)高雄市政府訪問

第一種軍装の我々に対しスーツにノタイの李副市长、カジュアルシャツの張局長が対応されて保安堂落慶式、中曽根康弘の話、爆発事故義捐のお礼等、くだけた話をされた。小菅団長も答辞で独身の陳菊市長は高雄市と結婚と当意即妙なジョークで応じ、初訪問ながら良い雰囲気だった。

(二)富安宮

昔一度行った所だが見違える程立派になっていた。霊能者(いたこ)が森川巡查の霊を呼び出したのはたまげた。村人の中には裸足の人もいた。決して豊かではない漁村の人達が誠意一杯カンパして義愛公を祀ってくれている。

(三)宝覺寺慰霊祭

台湾側のメンバーで杖を突いた方々がめっきり増えた。祭文奏上中に象徴的なことが起きた。前夜祭の宴席で会長や団長挨拶の最中に不規則発言をした八十九歳の老人が倒れて救急車を呼ぶ騒ぎが起きた。

団員中、看護師の資格を持った方が心臓マッサージをするのを目の当たりに見た。台日海交会にしても、良き後継会長を得た中日海交協会にしても高齢化と財政難が大変だろうなど忖度した。

(四)芝山巖六士先生の墓

ここでは木村団長代行が献花の後、六士先生に代わってあたかも霊能者の如く語られた。「我々は犠牲者ではない。子供たちの為に逃げることなく公に殉じた」。印象的であった。

(五)中華民国外交部

亜東太平洋司の郭副司長の対応が素晴らしかった。亜東協会時代にお目に掛かったことがある。優秀な官僚である。馬政権のことは触れず、ざっくばらんな話ぶりで決して話をそらさず対応された。従来、「現状維持が最良」と奥歯にもの挟まった口ぶりが多かったが、小生はこの方の対応に感動した。

名刺を交換しなから沖縄から参加された団員が「涙が出た」と言っておられたが同感である。「学校では国民党の反日教育、家に帰ると教育者だったおやじの教育勸語、お蔭でバランスの取れた人間になりましたが、この通り禿げました」「経済の為に大陸とは仲良くやっていきます。しかし油断はしません」映画のKANOに掛けて可能の駄洒落も天晴れであった。

(六)小菅団長の講話

毎度ながら行く先々で熱誠溢れる緑起解説をして頂いた。

(七)黄文雄先生

今までご著書は一杯読ませて頂いたが初めて著者本人にお会いした。

(八)ガイドの簡さん節

少し足を引きずっているが健在で嬉しかった。

(九)新竹濟化宮

台湾の靖国神社である。ここには靈璽ではなく位牌が整然と並んでいる。九段の靖国神社の『英霊の言の葉』の中の一節を思い出した。昭和二十三年六月戦犯として公務死された台湾出身軍属の遺書である。

「本職ハ台湾人デアル アルガ故ニ一身ヲ捧ゲ妻ヲ犠牲ニシテ法廷ニ於テ最後ノ一線ヲ守リ ソシテ散ルノデアル 日本ノタメヲ思ッテ終始一貫ノ信念ヲ守ッテ戦ッタノデアル ソシテ国家ノ所属ガ変ッテモ本職ハ日本軍人トシテ死ンテ行キタイノデアル (中略) 最後ノお願いニ将来大日本帝國ガ復興セバドウカ本職ノ子ヲ政府ニ於イテ日本教育ヲ恵ミ賜ラン事ヲお願い申シ上ゲマス」

我々はかかる同胞の心を忘れてはならない。

小生は馬齢を重ね満八十三と相なった。意欲は衰えてはいないが足腰はいかれて来た。厳しさが増す兩岸関係を思う時(毎回参加の度に一期一会とあって来たか)今回が最後と思う。日台共に若い世代の方々に引き継がれ、この慰霊訪問活動が続くことを切に希望する。

実は羽田空港に向かう途中、横浜駅の階段で左足ふくらはぎに痙攣を起し、この分では烏山頭ダム殉工碑や芝山巖の階段は無理かと諦めかけたが中村哲氏・松下美佳両氏に支えられて

何とかパスせずに済んだ。松山空港には中村哲氏が呉さん共々出迎えて頂き、三機編隊を組んで林森公園に向かった。時間があつたので初めて二・二八公園に立ち寄ることが出来た。

相部屋の中村哲氏にはもちろんご厄介を掛けた。たった二人の羽田組の相棒である松下美佳ちゃんとは肝胆相照らして話す時間を持てた。天候に恵まれ、事故・怪我、病氣も無く貴いミッションを果たして帰国することが出来た。添乗員の中村理恵子さん、ご苦労様でした。スタッフの皆様本当にお世話になりました。同志の皆様厚く御礼申し上げます。

最後に雲谷斎蟬蟬の駄句をひとつ

赤し朱し台湾海峡冬落暉

蓬莱の佳人なつかし菊日和

日本の心と時代の決意を伝えてゆく

もりおか けいこ
大山班 森岡 敬子氏

この度、初めて「日華(台)親善友好慰霊訪問団」に参加させて頂きました森岡敬子です。訪問団の先輩方に「若いわね～」とか「どうしてこんな若い人が参加」などと言われてすっきりいい気分になっていましたが、帰国してみると世間的には立派なおバサンでございまして、すっかり現実を味わっておる次第です。

最終日の十一月二十六日の福岡空港で小菅団長より「旅に出して下さったご家族に感謝を」とのお言葉を頂きました。まさに夫や家族が許してくれることで今回、貴重な体験をすることができましたので、はっとさせられたお言葉でした。

空港に迎えに来てくれた旦那さんには、さっそくスシロー福岡原田店でたらふく回転寿司を食べてもらいました。こんなことで幸せそうな笑顔を見せてくれる旦那さんと、この人を育てて下さった家族や故郷のみなさんにも感謝の気持ちです。

私の人生ですが今年の前半までは仕事ばかりしていました。最近結婚したので子供もおりません。今後も夫婦二人だけの可能性が高いですが、子供は

なくとも私には国の未来を想うセンスがございます。グローバル化する世界の潮流の中にあつて、十年後、五十年後の日本のために、いま私たちはどうあるべきか、そんなことを結構真面目に考えております。自分でいうのも何ですが素晴らしいです。しかし、この気持ちがかきれい事に終わらないためには、実際のところどうあるべきか…。台湾で出会った皆様方、団員の皆さん、そして小菅団長のお話に触れて一つ見えてきた気がします。

ありがたいかもかもしれませんが、過去の日本の歴史の成功と失敗を踏まえて、現代の日本の暮らしや仕事に生かすこと、自分の言葉で日本の素晴らしさと歴史を周囲の方々に伝えてゆくことの大切さです。

まだまだ未熟ではありますが、次の仕事を始めるまではボランティア活動をさせていただこうと思っています。軍歌・戦時歌謡・唱歌(尋常小学校)を歌う三十分程度のステージです。その中で、少し歴史のお話を加えて、ソフトに、きわめてソフトに(決して右翼的な印象を与えないように)日本の心と時代の決意をお伝えしてゆければと思います。あ、ギャラいりませんが交通費と弁当の用意をお願いします。

小菅団長と慰霊訪問団の皆さんには五日間、家族のように接していただきました。ガイドの簡さんにはずっと笑わせていただきました。あのような幸せな時間を過ごしたのは本当に久しぶりでした。皆様に感謝申し上げますと共に、あの時の皆様の魂の輝きがいつまでも続きますことを心よりお祈り申し上げます。

台湾へ慰霊訪問

よした しゅうじ
大山班 吉田 周司氏

今回、第十六次慰霊訪問団に参加させて頂いて、初めて台湾の地を訪れました。

自分が学生の時には、学校教育等では台湾統治時代の事、特に台湾で活躍した日本人について教えられた事が殆どありませんでした。そんな中、家族の者が持っていた台湾の事を書いた

本を読み、烏山頭ダムと八田興一技師や統治時代の事を知りました。

今次慰霊訪問で台湾の方々と交流し、強く思ったのが統治時代の遺産や故人を敬う信仰心の高さです。高砂義勇隊兵士の慰霊や顕彰のため尽力されている保存委員会や周麗梅さんの御子息の方々、明石総督と秘書官鎌田氏の二つの鳥居。嘉南大圳の建設に尽力し今日になっても深い敬愛を受けている八田興一氏と記念公園。日本人だけを祀る東龍宮、御神体のように軍艦が安置されている保安堂、道徳の教科書にまでなった杉浦茂峰少尉を祀る飛虎將軍廟、義愛公と呼ばれる森川清次郎巡査を祀る富安宮。

毎年十一月二十四日に慰霊祭を行っている宝覺寺、そして台湾の靖國神社と呼ばれる濟化宮、台湾の近代教育の礎を築いた六士先生の墓等々、信仰心深く半世紀以上過ぎててもなお手厚く祀られていることに感銘を受けました。

台湾で人を育てる教育の大事さ、国土発展の為のインフラ事業等を大事にする統治時代の意識の高さに、今の日本が学ばなくてはいけないことが沢山あるのではないかとと思う慰霊訪問の旅でした。

烏来の山々に響く 魂籠る「君が代」

よした きくこ
大山班 吉田 喜久子氏

若い頃から私にとって台湾はアジアの中でも影が薄い存在でした。いつも銃をもった兵士が海に向かって監視をしているイメージ位しかありませんでした。所がある時期に、初めて東洋一の烏山頭ダムを造った八田興一技師や命懸けで台湾の近代教育の礎を築いた六士先生の存在等を知ってからは私にとって台湾は身近で是非訪ねてゆきたい国となりました。台湾文化を育成した日本人、台湾を近代社会に変えた日本精神をもっと勉強したいと思う様になりました。そして自分が受けてきた戦後の教育が如何に偏ったものであったか、素晴らしい日本の生き方を取り戻す為に今自分は何をしなくてはいい

ないかと焦りにも似た感覚を覚えるようになって行きました。

今回初めて台湾慰霊訪問の旅に参加させて頂き、その大きな手がかりを得る事が出来ました事を心から嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

「イラ・フォルモサ」「麗しの島」台湾を訪れるのは初めてです。このような機会はめったにないと思い、息子を誘ったら「行ってみようかな」と親子で参加できたのも大きな収穫でした。

日本人兵士として戦った高砂義勇隊戦没英霊記念碑の前で、改めて実際にここに来て心から慰霊と顕彰をしなければ分からない事があるのだということをはしひしと感じました。この「記念碑」ひとつにも、終戦から今日に至るまで地元の方々や多くの日本人が勇猛果敢な「民族精神」を後世に伝え、またその優秀さを世界に伝え様という涙ぐましい思いがいっぱい込められている事を知りました。オペラ歌手の鶴澤様の魂と力のこもった国歌「君が代」は私たち団員の心には勿論の事、烏来の山々とその地に眠る戦没兵士の英霊に響いたことと思います。日本の皇居の方向に向かって置かれている「さざれ石」にも手を合わせ、私たち日本人が忘れかけている「日本精神」「公の心」を色々な形で取り戻さなくてはと痛感致しました。

一見自由で平和な日本が大事な糸を放たれた風とならない為に精進し、子ども孫世代へその大切さを伝えて行かなくてはと思っています。

第七代明石元二郎台湾総督と秘書官鎌田正威氏の二つの鳥居が鎮座する林森公園をお参りする頃には大分日は落ちていました。大勢の市民で賑わうこの公園の一角に鳥居が鎮座するまでも、明治、大正、昭和にわたって築かれた日本と台湾の深い絆、感動的ドラマが数沢山繰り広げられてきている事も知りました。シャンソン歌手の岡田様に合わせて国歌「君が代」を斉唱し、総督の英霊に向かって心からお参りさせて頂きました。

続く黄文雄先生による歓迎夕食会は暖かく熱気に満ち溢れていました。最初は慣れなくて緊張していましたが、親愛の情溢れる歓迎振りにすっかり溶け込むことが出来ました。黄先生と幸運にも

同じテーブルでしたので先生の温かいお人柄に加えて、日台にとって、いや世界にとってもかけがえのない偉大な先生であることを再認識させて頂きました。李登輝前総統の愛弟子という周国会議員(女性)を初め各界で活躍されている多くの方が挨拶にみえて、おそらく先生はご馳走を口に運ぶことも叶わなかったのではないかと思っています。

初日に続いて五日間、朝六時のモーニングコールから就寝まで毎日、台湾の勇士の皆様と日本人の英霊に向かって心からの追悼と顕彰をさせて頂きました。それに加えて現地台湾の皆様との暖かい交流にも毎日感動感謝の日々でした。個人的には三日目台湾台日海交会様による歓迎夕食会で通訳をされた施鈴霜さんとは幸運にも席が隣同志になりました。時間の許す限り日本の事、台湾の事、家族の事を色々お話ししました。翌日の宝覺寺慰霊祭でもお会いできることが分かっていたので、昨夜話題にしていた機内で読み終えた蔡焜燦氏著「日本精神」という単行本を差し上げました。とても喜んでくださり、またの再会を固く約束して宝覺寺を後にしました。

全行程を書いていると長くなってしまいますので初日と半日の数時間の交流の思い出を書いてみました。この様に毎日多くの勉強、忘れられない体験、感動の時間を過ごすことが出来ました。これも偏に小菅団長の「海の彼方のニッポンを次ぎの世代に繋いでいく」ことへの熱い思いと、その思いに刺激、引き寄せられて参集された人々が十六年間に亘って友好的に且つ熱心に慰霊訪問を続けて来られた賜物だと心から感謝申し上げます。是非、また参加させて頂き日台の絆を深めて行きたいと思っています。この貴重な体験を自分だけのものにせず、一人でも多くの友人、知人、家族へ伝え広めて行かなくてはと思っています。

今も尚 日本精神脈々と 生くるこの地を 踏みて嬉しも

台湾の慰霊の旅で蘇る 大和魂 育みゆかむ

原台湾人元日本兵軍人軍属大慰霊祭齋行戦友会の二本柱 逝く

追悼 林 徳華先生 胡 順來先生

りん とくか
林 徳華 先生

ざいてん しよれい こうひねがわ とこしえ しず につたいせんざい ゆうぎ ふか
在天の諸霊 翼くば 永に鎮まりて 日台千歳の友誼を深め

もつ あじ あこうきゆう へいわ まも われら しよし かんてつ たす たま
以て 亜細亜恒久の平和を護らんとする我等が初志の貫徹を援け給へ

こじゆんらい
胡 順來 先生

平成 25 年 6 月 10 日に台湾台日海交会前会長の林徳華先生、平成 26 年 8 月 5 日に台湾中日海交協会会長の胡順來先生のあいつぐ訃報に接し、台湾慰霊訪問団の団員一同は深い哀しみに包まれました。

先の大戦で散華された 3 万 3 千余柱のご英霊のために、平成 2 年 (民國 79 年) 11 月 25 日に台中市・宝覺寺に英魂観音亭、靈安故郷碑を建立され、以来 25 年の長きに

わたり、会員の皆様と共に「原台湾人元日本兵軍人軍属大慰霊祭」を齋行されてこられたことに心より敬意を表します。

これで台湾が誇るふたつの戦友会の指導者が相次いで交代したことになります。台湾の中のニッポン (領台時代、統治時代とそれを担った原台湾人のこと) が少しづつ、それも確実に消えていっています。しかし、いつか必ずくるで

あろうこの時のために営々と築き上げてきたのが慰霊訪問事業であり、その主体が慰霊訪問団です。

これからが、15 年の歳月をかけて蓄えてきた力の発揮のしどころと思って、鋭意この天命に取り組んでいくつもりです。

皆様の認知と声援こそが私たちの力の源泉になりますので、変わらぬご厚誼とご鞭撻をお願い申し上げます。

追悼の辞

台湾台日海交会前会長・林徳華様の突然の訃報に接し、団員一同深い悲しみに包まれています。昨年十一月二十四日の台湾台日海交会様主催の歓迎夕食会でお姿をお見かけしませんでしたので、案じておりましたが、こんなに早く永遠の別れの時が到来するとは思っていませんでした。

毎年十一月に貴国・台湾を訪問した折には、多くの会員の皆様と共に私たち訪問団員を出迎えて下さり、心のこもった歓待をしていただき、感謝の念に堪えませんでした。今年も十一月にお会いして、旧交を温めることを楽しみにしておりましたのに、それがかなわぬこととなり残念でなりません。

長年に亙り会員の皆様と、先の大東亜の解放と祖国防衛のため尊い命を捧げられた三万三千余柱のご英霊に対し、毎年十一月二十五日に「原台湾人元日本兵軍人軍属大慰霊祭」を齋行されてこられたことに心より敬意を表します。

今後も簡朝陽会長と共に台湾台日海交会の更なる発展のためにご尽力いただきけると期待しておりましたので、かけがえのない重鎮を失いましたことが悔やまれてなりません。

領台時代に日本教育を受けたことを誇りに思い、それゆえ嘘をつかないことを人生の指針にされていたお姿にもう接することができないことを想うと深い哀しみを禁じえません。しかし、林徳華前会長のご遺志をしっかりと受けとめ、次の世代に引き継いで、日台両国のより強固な絆の構築に務めてゆく決意です。ので、どうかやすらかに眠り下さい。団員を代表しまして、謹んで哀悼の意を表しますと共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

折りしも本日六月二十九日は今を遡ること百四十五年前の明治二年に靖國神社が東京・九段の地に創建された記念すべき日であります。

平成二十五年 (民國百二年) 六月二十九日

日本国 日華(台)親善友好慰霊訪問団

団長 小菅亥三郎

臺灣の聲 — ありがとう日本 —

私たち訪問団の活動についてのご意見や様々な交流行事での感想、近況報告等、台湾の皆様からの「声」が事務局には多く寄せられます。本誌ライセンスメイトに新たに「臺灣の聲」という投稿欄を設けることにしました。何でも結構ですから、あなた様も「声」をお寄せ下さい。

馬関条約・カイロ宣言・サンフランシスコ条約

米ニューヨーク大学法学部
国際法教授 陳 隆志

最近、馬政府は盛んに「カイロ宣言70周年」を取上げ、カイロ宣言は条約であり、それに基づいて台湾は中華民國に帰属すると叫び、物議を醸している。これに関し国際法上の観点から勘案し、「馬関条約」から論じることとする。

1985年、日清戦争終結時、清朝は日本と馬関条約を結び、台湾と澎湖群島とを日本に永久に割譲した。当時の国際法に依ればこれは有効な領土割譲である。これによって台湾は日本の領土になり1952年のサンフランシスコ条約に至るまで、ずっと日本は台湾・澎湖群島を有効支配してきた。サンフランシスコ条約により、日本は正式に台湾と澎湖群島を放棄したのである。

カイロ宣言

軍事的考慮により米英中の3国領袖は1943年カイロに於いて会談をし、カイロ宣言を発表し、台

湾と澎湖群島は中国に帰還すべきだとし、1945年7月26日ポツダム宣言でこの意向を重ねて宣言した。

カイロ宣言は戦時、3国による一方的な声明であり、専門家に依ればこれは単なる〈新聞広報〉に過ぎず、〈条約〉でないと効力を発生しないとしている。

戦後、台湾は同盟国の軍事占領下の日本領土となった。1945年8月日本は降伏し、同盟軍の遠東統帥、マッカーサーは蒋介石に「盟軍を代表し、軍事的に台湾を占領せしめた。」これは主権を中国に渡したことでなく、台湾は盟国軍事占領下の日本領土とした。1949年10月中華人民共和国が北京で成立し、蒋介石は当時日本の領土であった台湾に逃亡し、この時から38年の長きに亘る外来逃亡政権による非法な戒厳軍事統治がなされたわけである。

サンフランシスコ条約

一つの戦争が終わる時、国法に基き、和平条約を結び、戦勝国と敗戦国との関係をはっきり定め、敗戦国の領土割譲を決め敗戦国との領土境界線を定めなければならない。1951年9月にサンフランシスコ条約が締結され、1952年4月に効力を生じた。この条約は日本の領土であった台湾・澎湖の所属変更を決定した条約であり、最も根本的な最も権威的な国際条約である。

サンフランシスコ条約に基づいて日本は台湾・澎湖との全ての主権と権利を放棄したのであるが、放棄された後の台湾の主権はどの国に帰属するのかは一切明言していない。1951年の時の二つの中国、中華民國と中華人民共和国はどちらも日本放棄後の受益国ではない。サンフランシスコ条約の文書は明確に「各国の認識は台湾の帰属は暫時未定だが、適当な時期に連合国の憲章の趣旨に基いて〈平和

請告訴我們您的意見,感想或近況。

在LICENSE MATE裡新設了一個叫做「來自臺灣的聲音」的專欄。請寫下例如對訪問團的活動上有任何寶貴意見,或與我們交流的感想還有您的近況皆可。

內容不限,希望各位踴躍投稿。

若因版面字數上有限無法刊載全文時,敬請見諒。

傳真⇒ 81-92-725-3190



的)且つ「人民自決」の原則に則って解決されるべきだ」としている。

カイロ宣言やポツダム宣言と違ってサンフランシスコ条約は当時の戦勝国47ヶ国が署名しており、敗戦国である日本も署名しており、明確に台澎を放棄したとしてある。サンフランシスコ条約の国際法での地位と効力はカイロ宣言とポツダム宣言とを遥かに凌駕するものである。それ故、中国、国共両党ともずっとサンフランシスコ条約には触れようとしないのである。サンフランシスコ条約による「台湾国際地位未定」の状況は決して中華民國が日本と1952年に締結

した「台北平和条約」によって変わるものでなく、日本はサンフランシスコ条約の決定により台湾・澎湖を放棄した時にも台湾が中華民國に帰属するとは明言していない。

ずっと地位未定だった台湾は、今では既に一つの健全な国として存在している。日本が放棄した台湾の主権は台湾人民の手にある。時間の推移と国際情勢の変化につれ、台湾は民主化を遂げてきて、連合憲章と二大国際人権公約の唱える「人民自決」を着実に成しとげてきている。台湾は自分の政治的地位を決め、独特の経済を発

展させてきた。台湾は国家として存在する必要条件としての人民・領土・政府及び外国と交際する能力と権利とを具備している。それ故、台湾と中国とはそれぞれ独立した二つの国である。

61年前に締結されたサンフランシスコ条約が効力を発生した後、台湾は曾て国際法律地位では「未定」だったが、61年後の今日、台湾人の奮闘努力により「人民自決」は実を結び、その国際地位は「未定」から「既定」に変わり、一つの民主自由の国家として存在している。

《中日海交協会編集：「日台の生命の絆2014版」より》



カイロ会談 (外交部掲示のポスターより)



蒋介石とルーズヴェルト



どなたでもご参加できます！

第17次 台湾慰霊訪問の旅 参加者募集のお知らせ

- 目的
 - ①大東亜戦争で散華された台湾人同胞3万3千余柱の英霊顕彰と慰霊祭参列(台中・宝覺寺)
 - ②領台時代の魂を継承する現地台湾人との家族交流・兄弟交流
 - ③御祭神他が日本統治時代に淵源を有するところへの参拝や訪問
 - ④中華民国外交部をはじめとする各地の公的機関他への表敬訪問
- 参加資格

日本国籍を有する日本人であること(国籍、民族、人種等が異なる場合はご相談下さい)
- 訪問日
 - A プラン 平成27年11月22日(日)～26日(木)までの4泊5日間
 - B プラン 平成27年11月24日(火)～26日(木)までの2泊3日間
- 旅行代金
 - お1人様 145,000円(※Bプラン 105,000円)
 - ※東京出発の場合や他の空港から出発の場合には差額が発生しますのでご了承下さい。
 - ※参加費は、旅行費用、現地対策費、祭礼交流費用、記録費用によって構成されています。
 - 旅行費用/旅費・食費・宿泊費他、現地対策費/第17次慰霊訪問事業に関わる通信費、贈答品手土産他、祭礼交流費/慰霊祭主催団体への玉串料、慰霊地あてのご芳志、歓迎会主催団体への会費(謝礼)、記録費用/記念アルバム、記念DVD、記念報告集(ライセンスメイト)他
 - ※慰霊や交流のためのお線香や手土産等は事務局で準備します。
 - ※上記の旅行代金は消費税が10%になった段階で改訂させていただきます。
 - 《ご注意》この旅行は 海の彼方のニッポンを訪ねて行く慰霊と交流の旅 です。一般のグルメ旅行や趣味の旅行とは違いますので予めご承知おき下さいますようお願い申し上げます。
- 募集人員

30名
- 食事条件

朝4回、昼4回、夕4回付(※Bプラン 朝2回、昼2回、夕2回付)
- 利用ホテル

三徳大飯店、華王大飯店、通豪大飯店 等の有名ホテル(予定)
- 申込締切日

平成27年6月30日(火)
- 訪問先

台湾 ※台湾は世界一の親日国です。

添乗員が
福岡空港より
同行します

【第17次台湾慰霊訪問の旅 予定訪問先】

- 1日目 11月22日 ①明石元二郎台湾総督墓所(慰霊式)～②交歓会(黄文雄先生)/台北泊
- 2日目 11月23日 ③台湾無名戦士記念碑(慰霊式)～④東龍宮(慰霊式)～⑤交歓会(黄明山・葉美麗ご夫妻)/高雄泊
- 3日目 11月24日 ⑥保安堂(慰霊式)～⑦高雄市政府表敬訪問～⑧飛虎將軍廟(慰霊式)～⑨奇美博物館～⑩交歓会(台湾中日海交協会)/台中泊
- 4日目 11月25日 ⑪宝覺寺→日本人墓地(慰霊式)→靈安故郷碑(慰霊祭)～⑫交歓会(台湾台日海交会)～⑬濟化 宮(献花式)～⑭交歓会(台日文化経済協会)/台北泊
- 5日目 11月26日 ⑮林森公園(献花式)～⑯台北市政府表敬訪問～⑰中華民国外交部表敬訪問

※但し、上記のスケジュールは現在調整中ですので、訪問先の事情や飛行機の発着時間、交通機関等の都合により変更になる場合がございます。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

- 贈呈
 - ①「日華(台)親善友好慰霊訪問団」団員名刺(1セット100枚)
 - ※両国旗がデザインされた素晴らしいものです。訪問先での交流にご活用下さい。
 - ②慰霊訪問の旅 記念アルバム(1冊) ③慰霊訪問の旅 記念DVD(5枚組)

知られざる「神蹟の遺跡」

台湾の近代教育の礎～芝山巖事件－六士先生の悲劇

台湾の近代教育の礎となったのは六士(氏)先生と言われる六人の日本人である。楫取道明、関口長太郎、中島長吉、桂金太郎、井原順之助、平井数馬の六人の先生である。この六人の代表格である楫取道明先生は、吉田松陰先生の妹、寿子さんの次男でもある。では「芝山巖事件」とはどういう事件だったのか。

六士先生の悲劇

明治28年(1895)4月、日清講和条約が締結され、その結果、台湾と澎湖諸島は日本に割譲された。すると早くも6月には、文部省の学務部長心得であった伊沢修二は、台湾に対する諸政策の中で「教育こそ最優先すべき」と初代台湾総督の樺山資紀に意見具申した。樺山総督は伊沢の意見を早速に採り入れ学務部を創設、その長に伊沢を任じ、日本全国から志をもった7人の優秀な人材を集めた。6月には伊沢ら数名の先発隊が樺山総督とともに台北に到着し、日本語を教える学堂を求めて芝山巖に下検分に赴いている。芝山巖は、清朝代に私塾が開かれて多くの学士を輩出したことからそ

の名がある士林にあり、その一角にある蕙濟宮を借り受け7月16日に学堂を開設した。

一方、下関条約締結直後からそれに反対する動きが台湾では起こり、民意を無視して日本に割譲されたことに不満を持つ人々によって「台湾民主独立宣言」が発せられ、清国正規軍を中心に義勇兵が募集されていた。6月に北白川宮能久親王の率いる近衛師団がこれの鎮定のために台湾に上陸すると、清国の正規軍はすぐさま本国へ逃走してしまった。しかし、地方では日本の支配に服さない人々が抗日ゲリラとなって盛んに活動しており、12月になると抗日派による「台北奪回」がしきりに噂され、芝山巖学堂のある士林でも不穏な空気の流れていた。それでも六士先生たちは学堂に泊まりこみ「身に寸鉄を帯びずして住民の群れ中に這い入らねば、教育の仕事は出来ない。もし我々が国難に殉ずることがあれば、台湾子弟に日本国民としての精神を具体的に宣示できる」と、死をも覚悟して教育にいそしんだ。

そして、ついに明治29年(1896)正月元旦、運命の日が訪れた。抗日

ゲリラによる襲撃情報は、早くも芝山巖学堂にもたらされ避難することが勧められたが六士先生たちは「死して余榮あり、実に死甲斐あり」と全く意に介せず、台北の拝賀式に向うため悠々と芝山巖の丘を下った。すると100名からなる「土匪」の襲撃を受けた。初めは教育の理想を諄々と説く六士先生たちの言葉に彼らは納得し、理解を示したかに見えたが、その中の一人が突如、槍で襲いかかってきた。そこで止むを得ず白兵戦をもって防ごうとしたが、衆寡敵せず、全員が惨殺された。

今も生きる芝山巖精神

半年後の7月1日、当時の内閣総理大臣伊藤博文の揮毫で「学務官僚遭難之碑」が芝山巖に建てられ、盛大な慰霊祭が行われた。昭和5年(1930)には六士先生を祀る芝山巖神社が建てられ、以降この神社には台湾教育に殉じた日本人と台湾人の教育者が祀られるようになる。まさに芝山巖神社は正に“教育者の靖國神社”であり、“台湾教育の聖地”と称されている。



六士先生の墓



学務官僚遭難之碑での慰霊祭



中華民國外交部・ 台日文化經濟協會・ 高雄市政府(市役所)

表敬訪問

平成26年11月24日(月)、第13次の台中市政府、第14次の台南市政府の表敬訪問に続いて、今次は高雄市政府を表敬訪問しました。

訪問に際しては、高雄市旗津区の謝永福区長と保安堂の趙麗恵さんがご尽力して下さい、訪問にも同行して下さいました。あいにく

陳菊高雄市長はご自身の選挙が控えているため、代わりに李永得副市長と張乃千社會局長の二人が対応して下さいました。

小菅団長は、東日本大震災の際の台湾の皆様からの支援に謝意を表すと共に、先の高雄市のガス爆発事故に対するお見舞いの言葉を申し上げ、慰霊団の呼びかけで集

まった被災地の復興、再建等の支援のための義捐金(699,000円、台湾元3,000元)と芳名簿122名(4団体含む)を直接お渡ししました。

これに対して李副市長から丁寧なお礼の言葉があり、高雄市政府より感謝状を戴き、友好の絆がより強まりました。貴賓室での会見の後、記念写真を撮影して次の訪問地へ向かいました。



李副市長、張局長を囲んで



歓迎の挨拶をする方廖水蓮副会長



郭仲熙副司長を交えての記念撮影

11月25日(火)、宝覺寺での日本人墓地慰霊式、靈安故郷碑での原台湾人元日本兵軍人軍属大慰霊祭への参列、孔子廟散策、台湾中日海交協会の歓迎夕食会でした。その後、慌しくバスで北上した一行は、台湾の靖國神社である濟化宮で献花式を行い、新竹から新幹線で台北に入りました。専用バスに乗り換え、台日文化經濟協會主催の歓迎夕食会に臨みました。

会場の逸郷園には黃天麟会長の代理の方廖水蓮副会長はじめ呂昌平秘書長や役員の方々お待ちつけておられ、一年振りの再会を喜び合いました。副会長の歓迎の挨拶、小倉和彦副団長の答礼の挨拶で開宴となりました。小倉副団長

は、飛虎將軍廟に祀られる杉浦兵曹長の物語と平成11年に起きた自衛隊機の入間川墜落事故の6分6秒6を戦い抜いた英雄たちの物語を披露されました。各テーブルでは政治、経済や台湾の現状等についての話が弾み、名刺交換等が行われたりと和やかな会食会となり、あっという間に予定の二時間を過ぎてしまいました。

最終日の11月26日(水)一行は、中華民國外交部(外務省)を表敬訪問しました。応接室で郭仲熙亜東太平洋司副司長の歓迎を受けました。郭副司長の歓迎の挨拶で、日本と台湾の歴史的関係、民間交流の現状、中国との関係、今

後の展望等について語られました。小菅団長が答礼の挨拶でユーモアたっぷりに「今朝芝山公園で六士先生に会って来ました」と話すと副司長は一瞬驚いた表情をしましたが、その後謎解きをすると、会場に笑い声が響きました。終始和やかな雰囲気で見会は進み、郭副司長は質疑応答に応じて下さり、時にユーモアを交えながら、丁寧に質問にお応えして下さいました。その後団員一人ひとりと名刺交換し、握手を交わされました。

外交部の玄関で郭副司長を交えて記念写真を撮り、お見送りを受け、一行は外交部を後にしました。

第16次台湾親善友好慰霊訪問の旅

結団式・壮行会～帰朝報告会・新年会

平成26年度「第16次日華(台)親善友好慰霊訪問の旅」の結団式・壮行会には、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長、福岡県議会議員、松尾嘉三氏、福岡市議会議員、藤本顕憲氏、筑紫野市議会議員、横尾秋洋氏、川崎町議会議員、櫻井英夫氏、松山政司衆議員議員(代理)らの来賓をはじめ、慰霊訪問団の役員、旅の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら約70人が参集、慰霊訪問の旅の成功を祈念するとともに日台の友好親善の絆を深めた。

午後5時から始まった結団式では、日台両国の国旗敬礼、国歌斉唱に続き、先の大戦で亡くなられた原台湾人元日本兵軍人軍属並びに慰霊訪問事業に尽力し、志半ばで亡くなられた方に対して黙祷を捧げた後、訪問団の吉武勲氏が開会の辞を述べた。次いで小菅団長が挨拶に立った。小菅団長は、台湾からの出席者をはじめ九州各地から参加した出席者に謝辞を述べたあと、慰霊訪問の旅が15年も続けて来られた理由について、①目的を忘れない(日本のために勇敢に戦って戦死した優秀な台湾の若者を追悼、感謝の念を捧げ、慰霊の誠を尽くす)②初心を忘れない③自覚(日本人と日本を代表しているという自負心、自覚を持って行動する)④背負い(諸般の事情で参加できない人たちの思いを背負って行く)⑤感謝(訪問団を受け入れ、道中の安全の安全を確保してもらえる中華民国政府への感謝)の5点を挙げ説明、「台湾に行く人、見送る人、皆役割分担があり留守居役も必要です。応援よろしくお願いします」と述べた。その後、戎處長による卓話が行われた。

戎處長はまず16回を迎えた慰霊訪問団について、日本の「継続は力なり」という言葉を引用して「継続することが一番大事であり、継続でき

るということは、その組織や団体のトップのリーダーシップにかかっている。16回も続けてこられた小菅団長に敬意を表したい」と語った。

そして、テーマの「台湾に遺された日本文化」に関連して、人間は自分の子孫に何を遺すかが問題であり、台湾の近代化に貢献した台湾総督府民政長官・後藤新平の座右の銘、「金を遺す人生は下、事業を遺す人生は中、人を遺す人生こそが上なり」を引用して、これこそが企業の経営者の最高の理念だとして、「後世に何を遺すか、皆さん肝に銘じていて欲しい」と強調、本題に入った。

戎處長は卓話の中で、日本と台湾の心と心の結びつきがいかに強いのか、日本文化の結晶は「大和魂」或いは「武士道」にあり、勤勉や正直、約束を守る日本精神が台湾民衆の中に息づいている。残念ながら今の日本人には武士道精神が軽んじられている。台湾には日本がまなぶべき歴史がある。

戦後の日本人に擦り込まれた自虐史観が日本人の自信を失わせアジアを不安定にさせている。日本が自信や誇りを取り戻し、日本精神を失わない限り、日本は世界のリーダーとして発展して行くことができると私は信じていると語った。

休憩を挟んで第2部の壮行会が戎處長ご夫妻をはじめ台北駐福岡経済文化辦事處から領事5名、林紀全・台湾在日福岡留学生会会長や台湾貿易センター福岡事務所、福岡県中華總會などからの来賓を迎えて開催された。

町議会議員でシンガーソングライターの櫻井英夫氏がギターの弾き語りで特攻隊戦死者に捧げる「知覧の櫻」を歌い、静かな感動を呼んだ。その後、訪問団初参加の横尾秋洋氏、関文彦氏が挨拶、抱負を述べ

た。

壮行会は、和やかな雰囲気の中で、日台の友好促進と第16次の慰霊訪問の旅の成功を祈念し、木村秀人氏の万歳三唱、常任顧問の永田昌巳氏閉会のことばで終了した。

第16次となる台湾への「親善友好慰霊訪問の旅」の帰朝報告会・新年会は平成27年1月24日、福岡市天神の平和楼本店で開催され、戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長夫妻をはじめ、来賓、慰霊訪問の参加者、九栄会会員、台湾からの留学生ら80人が参集し、訪問団員の無事帰国を祝うとともに日台の親善友好を深めた。

小菅団長は挨拶で、今回の旅の主な特徴は①参加者がこれまでの最多の48名に上り、初めてバス2台で実行した。そのため団長代行を置き、木村秀人氏が2号車の対応に当たった②東京、四国、鳥取をはじめ九州全域、沖縄など様々な地域からいろいろな分野の方が参加、多士済々の顔ぶれとなったこと。

慰霊訪問で実施したことは、①昨年8月、高雄市で発生した大規模ガス爆発事故のお見舞いに高雄市政府を表敬訪問、小菅団長が副市長に義捐金を手渡した。②田中綱常少将を祀る東龍宮から予ねて要望のあった真刀を福岡から持参、奉納した。真刀のための費用や出入国の際の手続きなどいろいろな問題があったが、難題をクリアして無事奉納することができた。③飛虎將軍廟に祀られている杉浦兵曹長の出身校が調査の結果、現在の茨城県水戸市立三の丸小学校であることが判明、校長先生に証明書を書いてもらい將軍廟に奉納、大変喜ばれた。

小菅団長はこの3点について「第16次訪問団の事業として実施できた名誉であり、皆さん方は自信をもつ



て若い人にこのことを話して欲しい」と述べた。

さらに今後の日台関係について同団長は「困った時の友人が真の友である」との諺を引用して、台湾がこれまで何度となく日本の大事な局面で支援の手を差し延べてくれたかを語り、台湾こそが真の友であると強調し、「日本と台湾がしっかり信頼しあって世界が羨む二国関係をさらに強化しなければならない。そのために皆さん方が持ち場持ち場で力を尽くして頂くことを祈念します」と述べ挨拶を結んだ。

続いて戎處長が来賓を代表して祝辞を述べた。戎處長はまず、昨年の台湾からの訪日観光客が297万人に達し、訪日外国人観光客の中で、韓国を抜いて初めて1位になった意味について語り、「日台両国には国交がないにもかかわらず昨年の相互訪問は460万人に上った。両国の関係がいかに親密かを示す数字であり、台湾人が海外旅行に一番行きたい国は日本だ。台湾は堂々と世界一の親日国家だといえる」と強調した。

また、台湾に今も息づく芝山巖精神(日本統治時代の台湾に設立された芝山巖学堂で匪賊により6人の先生が惨殺された。教育のために命を奉げた六士先生の精神は、芝山巖精神として今も語り継がれている)について、六士先生の中の最年少、17歳で殉職した熊本県出身の平井数馬の名を挙げ、「教育への使命感に燃え殉職した滅私奉公の精神は日本精神、武士道に通じるものであり、この芝山巖精神こそが今日、台湾人が最も日本人を尊敬する最

大の理由だ。日本人が今後も芝山巖精神を失わずに支柱として持ち続け、大きく輝かせて欲しい」とエールを送った。

第2部の新年会は、来賓の横尾秋洋筑紫野市議員、山本幹雄嘉麻市議員、山本幹雄嘉麻市議員をはじめ台北駐福岡経済文化辦事處から戎處長夫妻と3人の領事、台湾からの留学生、慰霊訪問の旅参加者ら約70名が出席して賑やかに開催された。

訪問団東京支部長の藤田達男氏が開会のことばを述べスタートした。藤田氏は昨年、学生たちの立法占拠事件で激動した台湾や民主化運動で揺れた香港を何度も訪問、与党・国民党が大敗した台湾統一地方選挙で台北市長に立候補、当選した柯文哲氏や香港の民主化運動のリーダーにも直接会って対話したことを報告した。

藤田氏は「日本が台湾と友好・親善を深めることが、隣の香港の人たちにとってすごい力を与えていることが分かった。慰霊訪問の旅は日台親善を通じてアジアとの友好親善に大きく資するものであり、私たちの活動がその礎となり、先駆けになるものであることを改めて実感した。17次の訪問団にはぜひ参加したい」と語った。

再度挨拶に立った小菅団長は「訪問団員の一手一足は国家を背負っている。16次の48人の訪問団員は見事に国家を背負い帰国した。そして日本人は非常に高いグレードを求められているが、日本人は本来その資質を持っている。それに気付くか、取り掛かるかが大事だ。できることから始めよう」と呼びかけた。

次いで鶴澤美枝子さんがプッチーニのオペラ「トゥランドット」より「誰も寝てはならぬ」を奉唱、朗々と響く歌声に会場から感嘆の声が上がった。その後、友誼団体の九栄会副会長の上野和彦氏が乾杯の音頭を取り祝宴に移った。

歓談の中で団員の感想発表が行われ、筑紫野市議会議員の横尾秋洋氏と会社社長の関文彦氏がそれぞれの体験を語った。

横尾氏は、昨年6月の台湾特別講演会で慰霊訪問の旅があることを知り早速参加を申し込んだ。その後、台湾で蓬莱米を開発した末永仁(福岡県大野城市出身)の胸像が筑紫野市の福岡県農業試験場に設置されていることを知った。台湾との歴史的繋がりを知った横尾氏は、筑紫野市議会に働きかけ、昨年11月21日に台湾友好議員連盟を立ち上げ、その翌日から病み上がりの身を押し慰霊訪問の旅に同行した。「小菅団長のお陰で戎處長を知り、昨年は非常に有意義な1年だった。今年選挙で再選されたら台湾と姉妹都市をつくりたい」と語った。

関氏は「5年越しの念願が叶った。台湾へは仕事や観光で100回以上行っているが慰霊訪問は初めてだった。今回の訪問で本当に目から鱗が落ちる思いがした。日本の若者をどんどん訪問団に参加させ自信を取り戻させなければならない。慰霊訪問の旅を絶対応援します」と激励の言葉を送った。

その後、戎處長や台湾からの留学生、小菅団長をはじめ訪問団員らが壇上に上がり、日本歌謡「日本丸」と台湾歌謡を合唱、会場を巻き込んだの大合唱となり大いに盛り上がった。

次いで訪問団団長代行の木村秀人氏が、芝山巖の六士先生の感動の物語を披露し、力強い万歳三唱を行った。

最後に訪問団常任顧問の永田昌巳氏が「幸いに慰霊訪問は直接訪台し、歴史の真実について英霊に学ぶことができる。こんなすばらしいことはない。直接日本精神が学べる第17次の慰霊訪問が今日から始まる。6月に開催される台湾特別講演会を成功させ、その力をもって大勢の人の参加を得て、11月の第17次慰霊訪問の旅を挙行したい」と語り、出席者に協力を呼びかけた。

日台の魂の交流 第12回台湾特別講演会

黄文雄先生 福岡講演 連続10回記念

『日本人が台湾に遺した武士道精神』

— 台湾と日本を結ぶ日本精神 —

台湾特別講演会は、平成15年6月から実施されており、黄文雄先生の福岡講演は今年で連続10回となる。講演会は2部構成で第1部は恒例となった文明史家の黄文雄先生による基調講演、「日本人が台湾に遺した武士道精神」。第2部は、昨年引き続きパネルディスカッションが行われ、「私たちは日本を取り戻す」をテーマに小菅団長が進行役で、黄文雄先生、施光恒先生、柳原憲一先生による討論が行われた。

講演に先立ち式典が行われ、国旗敬礼、国歌斉唱、黙祷、「生命の絆」唱和、寺田蝶美、岩城朋子さんにより、台湾沖の航空戦で撃墜され戦死、飛虎将軍廟に祀られる杉浦茂峰海軍中尉をモデルにした「空の誉 飛虎将軍物語」と題した筑前琵琶の新作が披露された。

厳粛な雰囲気の中、主宰者を代表して慰霊訪問団の小菅団長が挨拶に立った。小菅団長は、慰霊訪問団が先の大戦で日本兵として戦死した原台湾人3万3千人の慰霊訪問を毎年おこなっていること、そして年々規模が大きくなっている講演会に対応するため昨年から実行委員会を編成し多くの人の協力を得て開催できていることに触れた。また、「台湾特別講演会」の目的が何よりも日本のために闘って若い命を捧げた台湾人元日本兵の供養にあることを強調、「世界一の親日国家台湾の礎を築き、日本人として散っていった台湾の若者に思いを馳せる時間・

空間・心のあり方をこの会で現出できれば供養になり、彼らの魂は慰められる。全ての日本人が台湾人元日本兵戦没者に心から哀悼の意を表し、思いを馳せるために魂の交流活動に関わって頂けることを願っている」と語り、「慰霊訪問事業は公的事業ではないが、内容は立派な公的事業であり、この事業を理解し参集した出席者に謝辞を述べ、日台両国の生命の絆がさらに強くなることを祈念した。

次いで来賓を代表して戎義俊・台北駐福岡経済文化辦事處處長が挨拶に立った。

戎處長は日本と台湾の深い絆について、①世界一の親日国家台湾②恩返し③台湾に遺る日本精神—の3つの視点から語った。

①台湾人は常日頃から世界一の親日国家だと思っている。東日本大震災の被災者に対し、台湾から250億円の巨額の義捐金が送られた。しかもその99%が民間から自発的に寄せられたものであった。

また、人的交流も大変盛んになり、昨年1年間の台湾からの訪日観光客は230万6000人に上り、一昨年より50%も増加した。日本から台湾への観光客を合わせると378万人になった。

②「恩返し」については、台湾には「滴水之恩 湧水以報」(たとえ一滴の水でも受けた恩は、湧き出る泉のごとく恩返しをする)という諺がある。日本の統治時代に、台湾の近代化、

インフラ整備、教育のために命を捧げた八田與一、六士先生ら多くの先人の偉大な功績を忘れず恩返しの精神をもち続けているのが巨額の義捐金の大きな要因と言える。

③最近、台湾でヒットした映画に「KANO」がある。昭和6年、甲子園で行われた全国中等学校野球大会に台湾代表として出場、準優勝した嘉義農林学校野球部の史実に基づいて作られたもので、日本人、台湾人、原住民の3民族が団結して快挙を成し遂げた。この映画を通して日本の教育がいかにすばらしかったかが分かる。

日本精神は、台湾で勇氣、誠実、勤勉、自己犠牲、責任感、清潔を指す。日本統治時代、台湾人が学び、台湾でその精神は純粋培養された。台湾人は日本精神、大和魂で精神武装して内外の厳しい環境を生き抜こうとしている。大和魂は一つの生活の知恵であり、台湾人の魂のとして息づいている。

最後に戎處長は今秋、九州国立博物館で開催される台北国立故宮博物院展を紹介、日台の文化交流、友好を促進するこの大規模な展示会へ多くの来場を呼びかけた。その後、「日華(台)親善友好慰霊訪問団」台湾支部の黄楷棻事務局長が「台湾の声」を読み上げた。

黄事務局長は、中国人観光客が押しかける台湾の現状を報告、最近の最も熱い話題として台中間のサービス分野の市場開放を目指す

「サービス貿易協定」が、台湾の学生により阻止された「ひまわり学生運動」に触れ、「もし、成立していれば台湾は中国に呑み込まれてしまうのではないか」との懸念を示した。

そして、島津日新公のいろは歌「樓の上もはにゅうの小屋も住む人の心にこそは高いやしき」を引用して「パートナーにするなら中国より日本のような心を持っている国を選びたい」と強調、台湾にとって日本と

の経済強化は大変重要であり、日台が心をつつにして頑張ることが大切だと訴え、多くの日本人の訪台を呼びかけた。

その後講演に移り、第1部は文明史家の黄文雄先生が講師を努め、「日本人が台湾に遺した武士道精神」と題して講演。第2部では「私たちは日本を取り戻す」をテーマに、訪問団の小菅団長が司会を務め、パネリストに黄文雄氏、九州大学大

学院准教授の施光恒氏、西日本台湾学友会前会長の柳原憲一氏の3氏を招きパネルディスカッションが行われた。



黄文雄氏の講演内容(概要)は次のとおり。

黄氏は、①日本と台湾との出会い ②日本・台湾 魂と心の交流が持つ歴史的意義③台湾近代化の中での日本④日本が台湾に遺したハードウェアとソフトウェア⑤台湾人が見た日本精神—などについて語り、いかに日本と台湾が歴史的にも精神的にも深い関係にあるかを説明、日本人が責任感と勇気、武士道精神を取り戻し、もっと世界に目を向け、自然の摂理と社会の仕組みを理解すれば日本の将来は明るいものになると講演した。

日本と台湾の関係

日本と台湾の関係については、DNAから見た場合、台湾北部と中部に住むタイヤル(泰雅)族が縄文人に一番近い。台南では縄文土器が出土した例もあり、縄文時代には日本と台湾は繋がっていた。

16世紀に入り倭寇の活動が活発になり、台湾は倭寇の拠点の一つとして使用されていた。オランダ人が台湾に来航する前に既に日本人が住み、日本人村があった。

日本と台湾の魂の交流

台湾では他人の先祖にはあまり関心がない。しかし、日本人は自分の先祖も他人の先祖も3代過ぎたら皆共通の先祖だという意識がある。「慰霊訪問団」は、戦前に戦死した原台湾人の供養を行っている。台湾

人は訪問団に感謝し、日本人から学ばなければならない。

日本人が台湾に好感を持つのは、東日本大震災の時に台湾から贈られた莫大な義捐金に対する感謝の気持ちだけではなく、昨年3月に東京ドームで行われたWBCの日・台戦で、試合終了後に見せた台湾選手の礼儀正しきなどが、日本の若い人たちにも台湾に対する親近感をもたらした。

台湾の近代史の中での日本

台湾の近代史の中で台湾と日本の一体的な関係が、先頃公開され感動を呼んだ台湾映画「KANO」を見ても分かる。

台湾は日清戦争後、清国が下関条約(明治28年)で日本に永久割譲した。台湾を日本の植民地とすべきかどうか日本の帝國議会で論争となった。首相も台湾総督長官も明確に植民地とはいわなかった。内地の延長として捉えていた。

台湾は日本に編入されて50年たらずでなぜ近代化できたのか。中国には2000年に互って編入されたが変わらなかった。ぜひ比較検討して欲しい。

日本が台湾に遺した

ハードウェア

台湾の道路や港湾設備などのハードウェアは殆ど日本の統治時

代に造られた。

台湾、朝鮮、満州は日本が統治した頃から近代産業社会に入った。それ以前の台湾は、主要産業は樟脳だけだった。日本が統治して砂糖黍と米の生産が飛躍的に伸びた。八田與一らの日本人技師は、自らの命を賭けて台湾のために灌漑用のダムを造り、稲の品種改良を行い、発電設備を造った。

日本が台湾に遺した ソフトウェア

台湾の李登輝・元総統は、日本に精通し、武士道精神に関する書を著した。

戦前の日本人は責任感が強く勇気があった。台湾人も日本精神を学び、国を発展させてきた。責任と勇気この二つを戦後の日本人には取り戻して欲しい。

台湾の近代化は だれが作ったのか

台湾の近代を作ったのは日本の学校教師と技師、医師らで特に教師が日本精神、大和魂を教えた。日本の精神的象徴である天皇は、神代からずっと続いてきた世界で唯一無二の存在であり、世界史の中でも非常に特殊な存在といえる。

自然と社会の仕組みを 知れば夢の花が開く

中国の湖錦濤前国家主席は、中国はこれから海洋強国をめざすと言いき、習近平国家主席は、中華民族は偉大なりと言った。しかし、中国は他民族国家であり、民族問題を抱えている。これからは民族問題が世界的

にクローズアップされることになる。グローバルに見なければならぬ。中国を見る場合は、政治・経済だけでなく、社会と文化、心の問題を見なければならぬ。そうすれば中国が今抱える問題が何か分かるはずだ。心の問題は大事だ。

日本と台湾の関係でも交流がい

かに盛んであろうとも、共通の価値観、共通の課題、夢がなければ共に歩めるはずがない。人類には夢と希望がなければならない。自然の摂理と社会が動いていく仕組みを知れば夢の花が開くと言えぬ。

続いて行われたパネルディスカッションでは小菅団長がコーディネーターを務め、各氏が私たち日本人が忘れてしまった大切なもの、日本人が取り戻すべき心について、日本のために尊い命を捧げた台湾人戦犯死没者の貴重な遺書をまじえ語りあった。

黄文雄氏は冒頭「戦後の日本人はおかしくなった」と話し、日本が教科書問題で見られるように、日本人の歴史をきっちり教えないため、本当の自分を知ること難しくなり、日本人であることに誇りを持ってなくなってしまったと指摘、つぎのように語った。

台湾と日本と韓国がどのような関係にあり、戦後どのように変化してきたか、日本人は歴史をしっかり学び、歴史観をもう一度変え、誇りを取り戻すべきだ。

施氏はまず、映画『KANO』を見て感涙したことに触れ、映画の内容を紹介、日本人が取り戻すべき心について語った。

『KANO』は甲子園で準優勝した嘉義農林学校野球部の史実を映画化したもので、今年2月末に台湾で公開され大きな反響を呼んだ。

嘉義農林では、守備に長けた日本人、打撃に長けた台湾人、足の速い高砂族の混成チームを鍛え上げ、抜群の決断力と強打で快進撃した。作家の菊池寛も観戦記を書き“涙ぐましい3民族強調”と讃えた。

日本人が取り戻すべきもの、日本

人が大切にしてきた価値が嘉義農林学校のこの話にその一端が示されている。日本が大切にしてきた価値は、育児や躾、家庭教育や学校教育に暗黙裡に現れている。

教育活動の一環と捉えられている部活動で強調されるものは、皆が心一つにして協力する団結心、チームワークにある。

経済のグローバル化の波に乗り、最近の日本人はその長所である団結心、組織力を失いつつある。各人が能力を磨いてチームワーク、団結心を養う部活動は、古臭いといわれるかも知れないが、間違っているのは今のアメリカ型の経済社会で、私は古臭いものの方が正しいと思う。戦前から日本人が大切にしてきた価値観、努力して心・技・体を磨き一致団結した社会、心ある社会を取り戻すことを訴えた。

柳原氏は、先の大戦後に戦犯として刑死および獄死した人々の遺書を編纂した遺稿集「世紀の遺書」を基に、台湾人死没者の9通の遺書について報告した。遺書の中には血書もあり、いかに苦心して遺志を伝えたいか、その気持ちが伝わり胸を打つ。彼らは極めて冷静に判決を受けとめ、これらの遺書は衝動的に書かれたものではなかった。国家の所属は変わっても日本軍人として死んで行くと言明し、遺書の大半は上官を賛美する言葉に埋め尽くされていた。

明治28年(1895)、下関条約で台湾人は、中国を守るため日本国民

にならざるを得なかったが、今度は日本を守るために帝國軍人となり、任務を果たす為には戦死したり、戦犯になって中国(当時中華民国)を含む連合軍に処刑された。敵対した二つの祖国の狭間に命が無残にも落とされた者に対して一体我々はどう考えるべきなのか。

日本統治が台湾にもたらした事態に拘わらず台湾を割譲した中国の原罪は変わらない。この重い罪を犯した中国とその国民は、まず台湾に謝罪すべきではないか。「不本意でありながらかつて一つの国となった台湾と日本、その後また不本意に別々の国になった台湾と日本は、これから東アジア、世界の平和のために末永く心一つにして頑張るべきではないか」と語った。

最後に小菅団長が、日本精神を受け継いだベトナム軍が、フランスを破り独立、ベトナム戦争でアメリカに勝利し南北統一を果たした歴史を紹介。パネルディスカッションのまとめとして3氏のテーマが、黄氏の基調講演「日本が台湾に遺した武士道精神」にきっちりとは帰結したことを述べた。

小菅団長は「刑死した台湾人元日本兵が、最期まで失わなかった平常心と祖国愛、泰然自若として死に赴いたその精神は、日本の軍隊が台湾の人たちに伝授したもので、現代に生きる私たちがその精神を取り戻さなければならない」と語り、結論とした。

50年に及ぶ日本統治が大東亜戦争終戦後70年を迎える今日に至るまで、脈々と生き続ける台湾。
この「生命の絆」を守り育て後に続く人に正しく継承していくことが、先達から託された私たち世代の崇高な使命です。

第13回 台湾特別講演会

日台の魂の交流 日清講和条約締結120年

第1部

太陽花學生運動 統一地方選 そして総統選へ

基調講演

— 台湾の若者が示した勇氣と献身 —

黄 文雄 先生

第2部

終戦70年と私たちの課題

パネルディスカッション

— 『KANO』を制作した台湾の言語空間 —



【略歴】昭和13年(1938)台湾高雄岡山鎮生まれ。昭和36年(1961)来日。昭和44年(1969)早稲田大学商学部卒業。昭和46年(1971)明治大学大学院、政治経済学研究所西洋経済史学修士。現在、拓殖大学日本文化研究所客員教授。

こう ぶん ゆう
黄 文雄 先生
(文明史家)



【略歴】昭和46年(1971)福岡県生まれ。平成元年(1989)福岡県立修猷館高等学校卒業。平成5年(1993)慶應義塾大学法学部卒業。同13年(2001)慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。現在、九州大学大学院比較社会文化研究院准教授。

せ てる ひさ
施 光恒 先生
(九州大学大学院准教授)



【略歴】昭和32年(1957)台湾彰化県和美鎮生まれ。昭和59年(1984)来日。平成5年(1993)九州大学医学部卒業。九州大学医学部附属病院医員。現在、医療法人柳原皮膚科クリニック理事長。台湾平埔族研究家。

やなぎ はら けんいち
柳原 憲一 先生
(西日本台湾学友会前会長)

■日時：平成27年6月21日(日) 開場12:30 開会13:00

■会場：西鉄グランドホテル2階 「鳳凰/プレジール」 福岡県福岡市中央区大名2丁目6-60 TEL(092)771-7171

講演会 / 13:00~17:00

会費：1,000円 定員：300名
(学生無料、訪問団団員は500円)

交流会 / 17:15~19:00

会費：5,000円(講演会込)
定員：150名(全席円卓着席)

講演会終了後に講師の先生や台湾の皆様を囲んで和やかに交流会を催します

主催：日華(台)親善友好慰霊訪問団(平成11年結成)

〒810-0001 福岡市中央区天神1-3-38 天神121ビル13階 TEL 092-721-0101 担当 原田・池田

■特別協賛：台北駐福岡経済文化辦事處／九州不動産専門学院／九栄会(九州不動産専門学院グループ同窓会)／山口県日台交流協会／関家具／濱崎理想瓦製造所／近畿日本ツーリスト九州／富原 浩

■協 賛：福岡教育連盟／美祢市総観光部／HAS／国際不動産鑑定所／甲斐歯科クリニック／小島テナント事務所／悠悠／大道印刷／パシフィックキャピタルジャパン

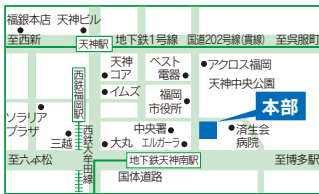
■後 援：産経新聞九州総局／(公財)オイスカ西日本研修センター／福岡市議会日台友好議員連盟／日台友好筑紫野市議会議員連盟／日本会議地方議員連盟／日本会議福岡／台湾在日福岡留学生会／福岡縣神社廳／福岡縣護國神社／英霊にこたえる会福岡県本部／福岡県海友会／(一社)福岡県郷友連盟／(公財)水交会福岡支部／甲飛喇叭隊第11分隊／大野城市国際交流協会／福岡日華親善協会／福岡県中華總會／西日本台湾学友会／福岡県モラロジー協議会／日本協議会福岡県支部／教育研究会未来／スタジオ日本日曜討論番組を支える会／チャイナエアライン／エパー航空／紅乙女酒造／フクニチ住宅新聞／岩屋城史の会

■現地協力：台中・寶覺寺 高雄・保安堂 屏東・東龍宮 台南・海尾朝皇宮 台南・飛虎將軍廟 嘉義・富安宮 新竹・勸化堂 新竹・濟化宮 新北・烏來高砂義勇隊紀念協會 台南・嘉南農田水利協會(烏山頭水庫、八田與一紀念館、八田與一紀念公園)

<慰霊祭主催団体>台中・台湾台日海交會 台中・台湾中日海交協會

<交流団体>台北・台日文化經濟協會 台中・台湾海軍ラバウル會 台南・奇美基金會(奇美博物館) 台南・鹽水國民小學

■企画運営：第13回台湾特別講演会実行委員会



日華(台)親善友好慰靈訪問団

本部 福岡市中央区天神1-3-38
TEL(092)721-0101
FAX(092)725-3190

台湾支部(支部長:黄明山)
高雄市鳳山區南正一路
2巷11弄5號
TEL(07)751-4906

台湾支部事務局(事務局長:黄楷榮)
台北市信義區信義路五段5號
台北世界貿易中心5樓D-26室
日本美禰市台北觀光・交流事務所気付
TEL(09)7845-8470

URL <http://taiwan.l-mate.net>

Eメール taiwan@l-mate.net

